

石川県立看護大学

# 年報

第23卷

令和4年度



## 巻頭言

令和4年度はウクライナとロシアの戦禍の中、人々の生命の尊さを希求する看護職を育てる大きな責任と強い使命感を実感した1年でありました。さらに、石川県立看護大学の新たな足跡を刻む年度となりました。産学連携の共同研究講座「看護理工学」を始動させることができました。「安全は機械に、安心は人に」をモットーとする看護理工学の理念に基づき、新たなイノベーションをこのかほくの地から巻き起こすことができれば望外の喜びとなりましょう。

令和4年度は、長年勤務されていた教員2名の退職年度を迎えました。今後、新旧の入れ替わりが続く本学の世代交代の時期を迎えたともいえます。今までに築いてきた石川県立看護大学の伝統を生かしながら、新たな時代を切り開いていく学生、院生を育てていくことが大切となっていくでしょう。

私たちはコロナ禍を経験して、さまざまなデジタル技術を駆使した情報共有手段のノウハウを学びました。遠隔地であっても目の前で対話することができるようになりました。技術教育をすることができるようになりました。学会に参加し、討論ができるようになりました。飛躍的に成長したこれらの技術を活用しながら、看護教育をどう充実させていくかが私たちの共通課題となりました。これからの時代に教育のDX（Digital Transformation）化を図り、未来を担う看護職の看護実践力の向上に寄与できる学修環境、教育方法を発展させていきたいものです。まずは、令和5年度からの教育のDX化に向けてDX委員会、2つのワーキンググループを立ち上げました。試行錯誤を重ねながらも着実に成果を挙げていきたいと若手を中心に意気込んでおります。現在の学生や院生たちには、どのような未来が待ち受けていることでしょうか。一方で、失ったのではないかと危惧される現象にも立ち向かわなければなりません。人と人が対面でコミュニケーションをはかり、心を通い合わせることに腐心していかなければなりません。

社会貢献として看護キャリア支援センターでは令和6年度から「皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程（B課程）」を開設することが方針として定まりました。1年の準備期間を頂きましたが、特定行為研修を含む認定看護師教育課程を開設することは県内の多くの医療機関の協力なしにはできません。ひとつひとつ、課題をクリアしながら、今、求められる看護師像を模索してまいりたいと存じます。本学の卒業生・修了生はじめ、広く県内・外の看護師の実践力向上に本学を活用いただけると信じて取り組んでまいります。

引き続き、皆さまからの本学に対する忌憚のないご意見・ご要望をお聞かせいただければ幸いです。





第 23 回入学式 (令和 4 年 4 月 5 日)



夏のオープンキャンパス（令和4年7月10日（対面））



夏期アメリカ看護研修（令和4年8月22日～27日）



JICA 日系研修（令和4年9月1日～20日）



感染管理認定看護師教育課程（令和4年7月4日～令和5年2月10日）



秋のオープンキャンパス（令和4年10月22日（対面））



「インターナショナルカフェ」(令和5年3月1日)



第19回卒業式・学位授与式(令和5年3月18日)

# 目 次

## 巻頭言

1. 学事	1
1.1 2022 年度学事暦	1
1.2 大学組織図	2
1.2.1 大学組織図	2
1.2.2 常設委員会構成	3
1.3 懇話会	5
1.4 オープンキャンパス	6
1.4.1 夏の対面型オープンキャンパス	6
1.4.2 夏の Web オープンキャンパス	6
1.4.3 秋の対面型オープンキャンパス	7
1.4.4 秋の Web オープンキャンパス	7
2. 教員・職員	8
2.1 教員紹介	8
2.2 特任教員等紹介	12
2.3 教員組織構成	12
2.3.1 所属領域・講座と職位構成	12
2.3.2 職位別年齢構成	13
2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員	13
2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成	13
2.4 職員紹介 (2023 年 3 月現在)	14
3. 中期計画	15
4. 看護学部看護学科	20
4.1 理念・目標	20
4.1.1 教育理念	20
4.1.2 教育目標	20
4.1.3 アドミッション・ポリシー (求める人材)	20
4.1.4 カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成・実施方針)	21
4.1.5 ディプロマ・ポリシー (学位授与に関する方針)	21
4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況	22
4.3 教育・履修体制	25
4.4 委員会活動	26
4.4.1 常設委員会	26
4.4.1.1 教務委員会	26
4.4.1.2 学生委員会	27
4.4.1.2.1 学生相談部会	29

4.4.1.2.2	進路支援部会	30
4.4.1.3	研究推進委員会	32
4.4.1.3.1	学内研究助成専門部会	33
4.4.1.4	石川看護雑誌編集委員会	34
4.4.1.5	情報システム委員会（含む情報セキュリティ）	35
4.4.1.6	広報委員会	36
4.4.1.7	入学試験委員会	38
4.4.1.7.1	入学試験実施部会	39
4.4.1.7.2	入学試験評価部会	39
4.4.1.8	自己点検・評価委員会	40
4.4.1.8.1	教員評価部会	41
4.4.1.8.2	年報編集部会	43
4.4.1.9	FD委員会	44
4.4.1.10	ハラスメント委員	45
4.4.1.11	コンプライアンス委員会	46
4.4.1.12	倫理委員会	47
4.4.1.13	衛生委員会	47
4.4.2	特設委員会	48
4.4.2.1	基礎科学教育拡充ワーキング	48
4.5	令和4年度 卒業研究論文題目一覧	50
5.	大学院・看護学研究科	54
5.1	理念・目標	54
5.1.1	博士前期課程（修士）	54
5.1.1.1	教育理念	54
5.1.1.2	教育目標	54
5.1.1.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	55
5.1.1.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	55
5.1.1.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	55
5.1.2	博士後期課程（博士）	56
5.1.2.1	教育理念	56
5.1.2.2	教育目標	56
5.1.2.3	アドミッション・ポリシー（求める人材）	56
5.1.2.4	カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）	57
5.1.2.5	ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）	57
5.2	大学院生の入学・在学・修了の状況	58
5.3	大学院教務学生委員会	60
5.4	令和4年度 修士論文題目一覧	61
5.5	令和4年度 学位論文題目一覧	62
6.	教員の業績	63
6.1	石川県立看護大学・学長	63

6.2	人間科学領域	79
6.3	健康科学講座	86
6.4	基礎看護学講座	92
6.5	母性看護学講座	98
6.6	小児看護学講座	105
6.7	成人看護学講座	109
6.8	老年看護学講座	137
6.9	地域看護学講座	141
6.10	在宅看護学講座	146
6.11	精神看護学講座	149
7.	国際交流	152
7.1	国際交流委員会	152
7.2	アメリカ看護研修	153
8.	附属図書館	154
8.1	図書館運営委員会	154
8.2	今年度の主な活動概況	154
8.2.1	図書館事業の実施	154
8.3	資料整備状況	156
8.3.1	分野別蔵書構成（令和5年3月31日現在）	156
8.3.2	医学分類蔵書構成（令和5年3月31日現在）	156
8.3.3	看護系資料分類別構成（令和5年3月31日現在）	156
8.4	利用統計	157
8.4.1	開館日数・入館者数	157
8.4.2	館外利用者数及び冊数	157
8.4.3	他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数	157
8.4.4	他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数	157
8.4.5	館内設置コピー機による複写件数・枚数	158
8.4.6	相互貸借貸出冊数	158
8.4.7	相互貸借借受冊数	158
8.4.8	データベース利用状況	158
8.5	利用者サービス	159
8.5.1	学内向図書館サービス	159
8.5.2	学外向図書館サービス	159
8.5.3	学内で利用できるデータベース	160
8.6	職員研修	160
8.6.1	附属図書館職員の研修	160

9. 附属地域ケア総合センター .....	161
9.1 地域ケア総合センター運営委員会.....	161
9.1.1 人材育成部会 .....	162
9.1.2 地域活動・地域創生部会 .....	163
9.1.3 国際貢献部会 .....	164
10. 看護キャリア支援センター.....	165
10.1 看護キャリア支援センター運営委員会 .....	165
10.2 感染管理認定看護師教育課程 .....	165
10.2.1 感染管理認定看護師教育課程教員会.....	165
10.3 認定看護管理者教育課程サードレベル .....	166
10.4 認定看護師教育課程フォローアップ研修 .....	166
10.5 石川县委託事業の開催 .....	168
10.5.1 石川県看護教員現任研修事業.....	168
10.5.2 専門的看護実践力研修「看護管理者研修」 .....	170
10.5.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修：皮膚・排泄ケア研修」	171
10.5.4 看護実践力向上研修「感染管理」 .....	174
10.5.5 保健所感染症対応向上研修.....	176
10.6 地域貢献 .....	178
11. 大学施設の開放.....	179
編集後記.....	180

# 1. 学事

---

## 1.1 2022年度学事暦

令和4年

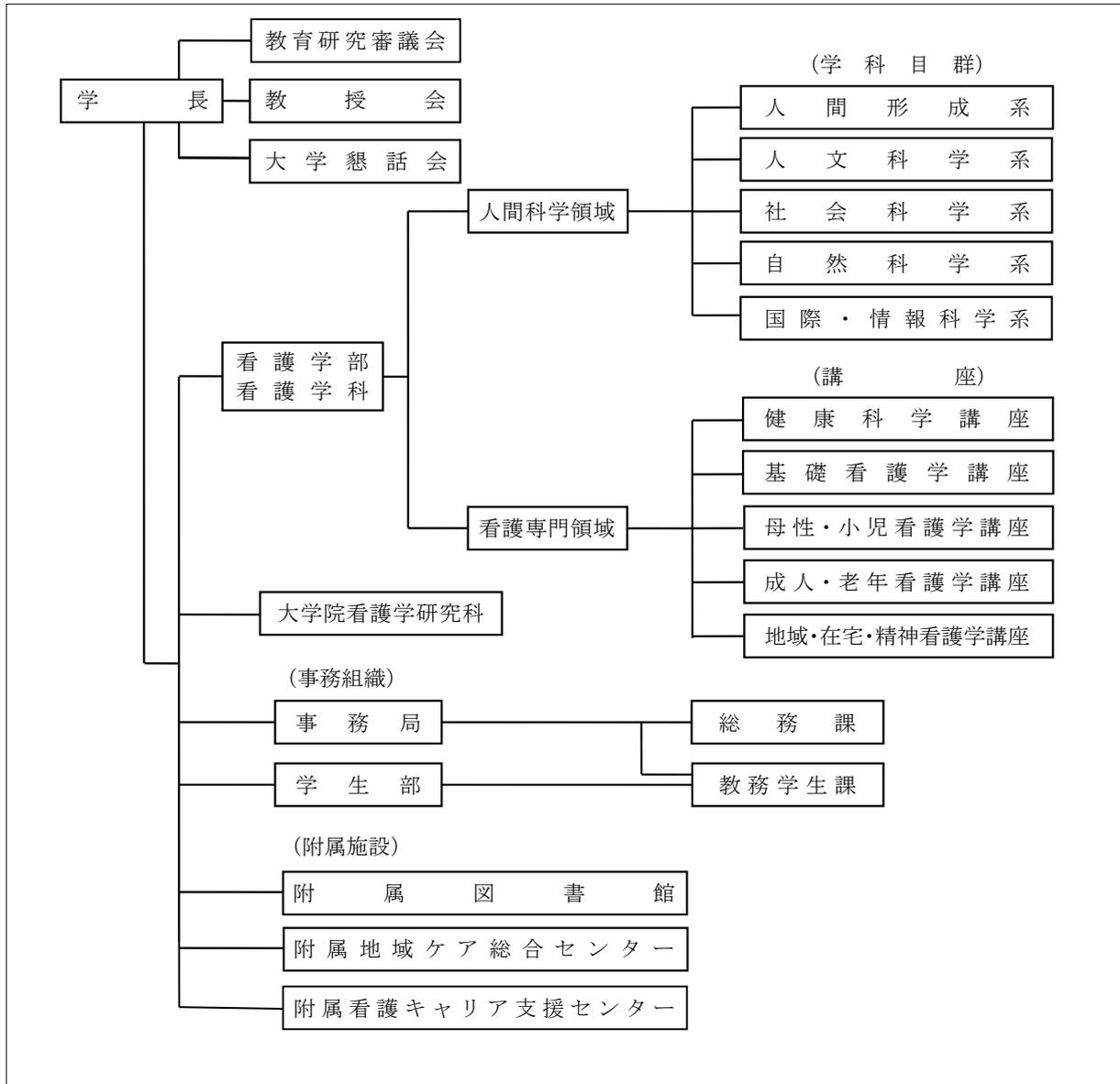
4月 5日 (火)	入学式
4月 4日 (月) ~ 4月 7日 (木)	ガイダンス 学生健康診断
4月 8日 (金)	授業開始
4月 4日 (月) ~ 4月14日 (木)	前期履修登録受付
5月29日 (日)	開学記念日
7月10日 (日) ~ 7月31日 (日)	夏のオープンキャンパス (対面・オンライン)
8月 1日 (月) ~ 8月10日 (水)	前期補講・試験
8月11日 (木) ~ 9月30日 (金)	夏季休業
9月17日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
10月 3日 (月)	後期授業開始
9月21日 (水) ~ 10月 4日 (火)	後期履修登録受付
10月22日 (土) ~ 11月21日 (月)	秋のオープンキャンパス (対面・オンライン)
11月19日 (土)	入学試験 (学校推薦型選抜・社会人選抜)
12月22日 (木) ~ 1月 4日 (水)	冬季休業

令和5年

1月14日 (土) ~ 1月15日 (日)	大学入学共通テスト
2月13日 (月) ~ 2月22日 (水)	後期補講・試験
1月28日 (土)	入学試験 (大学院博士前期課程・後期課程)
2月25日 (土)	入学試験 (一般選抜前期日程)
3月12日 (日)	入学試験 (一般選抜後期日程)
3月18日 (土)	卒業式・学位授与式
2月23日 (木) ~ 3月31日 (金)	春季休業

## 1.2 大学組織図

### 1.2.1 大学組織図



## 1.2.2 常設委員会構成

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載ページ
教務委員会*	学長の指名	小講座から各1名（助教以上） ただし、基礎からは各2名	26
学生委員会*	学生部長	大講座から各1名以上（助教以上） +各学年担任から1名	27
学生担任専門部会			
学生相談部会	学生部長の指名	4名（助教以上）+学生部長	29
進路支援部会	学生部長の指名	看護の小講座から1名（講師以上）	30
図書館運営委員会	附属図書館長	大講座から各1名（講師以上）	154
石川看護雑誌編集委員会*	図書館長の指名	5名	34
情報システム委員会	学長の指名	5名	35
地域ケア総合センター運営委員会*	附属地域ケア 総合センター長	小講座から1名（講師以上）	161
人材育成部会		3名	162
地域活動・地域創造部会		3名	163
国際貢献部会		4名	164
看護キャリア支援センター運営委員会*	附属看護キャリア 支援センター長	センターの教員3名 その他学長が指名する者5名	165
感染管理教員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 公益社団法人石川県看護協会の役員1名、 その他学長が指名する者2名、 医療機関の看護管理者1名	165
認定看護師教育課程企画委員会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 教育経験を有する感染管理認定看護師3名、 その他学長が指名する者1名	
認定看護管理者教育会		センターの教員3名 学長が指名する本学の教員1名、 教育経験を有する感染管理認定看護師3名、 その他学長が指名する者1名	

\*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

委員会・部会名	委員長	教員構成	掲載 ページ
国際交流委員会	学長の指名	大講座から各1名（講師以上） ＋委員長指名3名	
広報委員会*	学長の指名	役職者＋HPへの文章掲載の 役割を担う者	36
研究推進委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	32
学内研究助成専門部会	学長の指名	5名（教授のみ）	33
入学試験委員会	学長	大講座から各1名（准教授以上）	38
入試実施部会	入試委員長の指名	大講座から各1名以上（助手以上）	39
入試評価部会	入試委員長の指名	3名（講師以上）	39
選抜専門部会			
問題編集部会（非公表）	学長の指名	3名	
自己点検・評価委員会*	学長	役職者、学長指名4名	40
教員評価部会	学長の指名	3名	41
年報編集部会	学長の指名	3名	43
IR推進部会			
FD委員会*	学長の指名	大講座から各1名（講師以上）	
ハラスメント委員会	学長	5名	45
大学院教務学生委員会	研究科長	5名	60
倫理委員会	研究科長	学内7名＋学外2名	47
コンプライアンス委員会	研究科長	5名	46
がんプロ企画委員会	学長の指名	学長指名	
衛生委員会	委員の合意により 決定	理事長指名＋過半数代表者 推薦	47

\*委員会運営を助ける助手・助教1～2名が学長指名で追加される。

## 1.3 懇話会

石川県立看護大学懇話会

県内の看護関係の団体、県民の代表者等から意見を聴取し、地域に密着した大学としての運営に資するため、石川県立看護大学に懇話会を設置する。

1. 開催日時： 令和5年3月3日（金）15時00分～
2. 開催形式： オンライン会議（Zoom）
3. 学外出席者： 石川県医師会長 安田 健二  
                  (10名) 石川県看護協会会長 小藤 幹恵  
                  石川県立中央病院長 岡田 俊英  
                  石川県立中央病院看護部長 江藤 真由美  
                  金沢医療センター看護部長 藤田 恵子  
                  金沢大学医薬保健学域保健学系教授 加藤 真由美  
                  会議通訳、翻訳者 早川 芳子  
                  石川県保健所長会長石川中央保健福祉センター所長 木曾 啓介  
                  石川県高等学校校長協会会長金沢泉丘高等学校長 中村 義治  
                  かほく市長 油野 和一郎
- 学内出席者： 学長、研究科長、学生部長、図書館長、看護キャリア支援センター長、  
                  学長補佐、事務局長、総務課長、教務学生課長  
                  教務学生課長
4. 主な内容： (1) 看護大学の現況について  
                  ・組織、教職員数、入学定員、入試の状況等について  
                  (2) 学生の進路状況について  
                  ・学部の状況、大学院の状況について  
                  (3) 学部教育・大学院教育・生涯教育について  
                  ・大学院修士・博士課程の研究、キャリア支援センター概要等について  
                  (4) 地域貢献及び国際貢献について  
                  ・地域ケア総合センターの事業等について  
                  (5) 意見交換  
                  ・看護教育・実践のDX推進、地域包括ケアシステム、看護師の離職率、  
                  コロナ禍における学生の支援、グローバル化への提案

## 1.4 オープンキャンパス

### 1.4.1 夏の対面型オープンキャンパス

1. 日 時：令和4年7月10日(日) 第1部 10時00分～12時00分  
第2部 13時00分～15時00分
2. 参加者：285名
3. 概 要：
  - 1) 大学説明会
    - ・学長挨拶
    - ・本学の特徴について
    - ・入試制度と受験対策について
    - ・卒業後の進路、助成金等について
  - 2) 模擬授業  
「コロナ禍において地域で活躍する保健師」
  - 3) キャンパスライフ紹介
    - ・入学、授業、実習、課外活動等について
  - 4) 見るIPNUツアー
    - ・母性小児看護学実習室 「赤ちゃんのお世話」
    - ・基礎看護実習室 「体の中の音を聴こう」
    - ・センターホール周辺 「車椅子を押してみよう」
    - ・附属図書館 「ナイチンゲールの世界」
  - 5) 教員・学生による相談会

夏の対面型オープンキャンパスでは、県内外から高校生及び保護者ら285名の参加があった。

本年度は新型コロナウイルスの感染防止の観点から、定員を設け事前申し込み方式とした結果、定員を超える申込みがあったため、抽選を行った。

当日は、本学の特徴等に関する説明会等を開催した後、「見るIPNUツアー」と題し、本学の学生広報委員や学生ボランティア、教職員らが随行してキャンパス見学や看護学実習体験を実施した。また、教職員及び学生を相談員として配置し、希望者に対して相談会を開催した。

3年ぶりの対面での開催は、多くの学生に直接本学の魅力を届ける貴重な機会となった。

### 1.4.2 夏のWebオープンキャンパス

1. 日 時：令和4年7月10日(日)～7月31日(日)
2. 申込者：72名（延べ訪問者数 463名）

夏のWebオープンキャンパスでは、前年度と同様に、大学や各講座・領域等を動画で紹介するとともに、在学生在が将来の夢に語る動画「未来へのコトバ」を新しいコンテンツとして加えた。

申込者のうち県外の高校生が3割を占め、対面型よりも割合が高く、全国どこからでもアクセスできるWebの特性が活かした結果となった。

### 1.4.3 秋の対面型オープンキャンパス

1. 日 時：令和4年10月22日(土) 9時30分～11時30分
2. 参加者：152名

秋の対面型オープンキャンパスでは、夏と同様に定員を設け事前申し込み方式とし、高校生及び保護者ら152名が参加した。

受験生だけではなく、高校2年生・1年生・中学生など幅広い年齢層の参加があり、次年度以降の受験者数の増加に期待が持てる結果となった。

### 1.4.4 秋のWebオープンキャンパス

1. 日 時：令和4年10月22日(土)～11月21日(月)
2. 申込者：26名（延べ訪問者数 104名）

秋のWebオープンキャンパスは、夏と同じコンテンツで開催したところ、受験生を中心として26名の申込者があった。

## 2. 教員・職員

### 2.1 教員紹介

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	教授	垣花 渉
	社会科学系群	哲学・生命倫理学	講師	中嶋 優太
	人文科学系群	心理学	准教授	松田 幸久
	自然科学系群	人間工学	教授	小林 宏光
	国際・情報科学系群	英語	講師	工藤 義信
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	教授	今井 美和
			教授	平居 貴生
			准教授	市丸 徹
		保健・治療学	教授	岩佐 和夫
			教授	今井 秀樹
	基礎看護学講座	基礎看護学	教授	石川 倫子
			准教授	木森 佳子
			准教授	寺井 梨恵子
			講師	田村 幸恵
			助教	瀬戸 清華
			助教	千田 明日香
			助教	中嶋 知世
	母性・小児看護学講座	母性看護学	教授	濱 耕子
			教授	亀田 幸枝
			教授	米田 昌代
			講師	曾山 小織
			助教	桶作 梢
			助教	河合 美佳
助教			野沢 ゆり乃	

研 究 課 題
身体活動を促進する行動科学および社会的支援アプローチの効果、初年次教育の実践的研究
西田幾多郎新資料の調査・翻刻を通じた『善の研究』形成プロセスの研究および自由論に関する研究
ヒトの視覚と記憶を中心とした認知機能の解明と応用研究、精神疾患の脳機能・形態的特徴の研究、社会の大量・多変量データを活用した統計学的研究
心拍変動 (Heart rate variability) および唾液バイオマーカーの分布特性その応用研究、体幹加速度による歩行対称性の研究
15世紀イギリス教訓文学作家ピーター・イドリー作『息子への教え』現存写本にみる教訓詩の受容の実態
若年女性の子宮頸がん予防行動に関する研究
生活習慣病予防に関する時間生物学的研究、骨代謝と栄養に関する研究
生殖機能の調節に関する研究、発達障害者飼育による家畜へのストレス影響に関する研究
重症筋無力症の新規病態：免疫チェックポイント分子と補体制御因子および治療への発展、ヒト筋芽細胞における免疫制御因子発現の解明
わが国の疾病構造に関する疫学的研究、ヒト集団を対象とした人類生態学的研究
看護管理学に関する研究、看護師のキャリアに関する研究、在宅療養移行支援に関する研究
静脈可視化技術・フィジカルアセスメントに関する研究、心不全患者とポケットエコーに関する研究、高齢者の嚥下食に関する研究
看護師の視覚情報に関連した観察についての研究、転倒予防に関する研究、看護師の臨床判断に関する研究
基礎看護教育に関する研究、心不全患者への看護に関する研究
神経難病を有する在宅療養者と家族介護者に関する研究
看護師の看護実践能力向上に関する研究
外国人住民における健康課題の研究、多文化共生のための保健医療サービスの研究、退院調整に関する研究
創傷看護、看護におけるDXに関する研究
周産期の健康とQOL評価、女性向け補整下着の開発評価に関わる研究、夫婦の親役割適応に関する研究
出産前教育の効果や測定用具に関する研究、助産師教育に関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
グリーフケア（主に流産・死産・新生児死亡で子どもを亡くした家族へのケア）に関する研究、周産期のケアに関する研究、子育て支援に関する研究
妊娠前ケアに関する研究、周産期の看護に関する研究、子育て支援に関する研究、生殖補助医療の看護に関する研究
母乳育児支援に関する研究、AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティに関する研究
女性の尿失禁に関する研究
五本指靴下着用と分娩時の体温変動に関する研究、妊婦の口腔衛生に関する研究

領域	学科目群又は講座	科目群	職位	氏名	
	母性・小児看護学講座	小児看護学	准教授	金谷雅代	
			助教	千原裕香	
			助教	後藤亜希	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	教授	牧野智恵	
			教授	紺家千津子	
			教授	峰松健夫	
			准教授	松本智里	
			准教授	松本勝	
			講師	大西陽子	
			助教	今方裕子	
			助教	瀧澤理穂	
			助教	大橋史弥	
			老年看護学	教授	真田弘美
		教授		川島和代	
		准教授		中道淳子	
		助教		額奈々	
		助教		小林真依子	
		地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	教授	塚田久恵
				教授	米澤洋美
				准教授	金子紀子
	助教			室野奈緒子	
	助教			黒川恵子	
	在宅看護学		教授	桜井志保美	
			講師	日高未希恵	
			助手	牛村春奈	
	精神看護学		教授	美濃由紀子	
			講師	大江真吾	
助教			高濱圭子		
助教			川俣文乃		

研 究 課 題
育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究、子どもへのレスエデュケーション・グリーフケアに関する研究
親になる前から始める子どもの虐待予防に関する研究、次世代育成教育に関する研究、育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
子どもの虐待予防に関する研究、 育児不安や育児困難を抱える母親への支援に関する研究
がん患者の「生きる意味」への支援、がん治療中および終末期がん患者への支援方法に関する研究、ゲノム治療を受ける患者の看護
創傷・スキン・排泄ケアに関する研究、ICTを活用した遠隔看護支援に関する研究、看護実践の評価と実装に向けての取り組みに関する研究
褥瘡の発生や不顕性感染の予測・同定法、創傷治癒促進法、慢性脱水同定法の開発を目指した看護理工学研究
股関節疾患患者の歩容に関する研究、がん患者のアピアランスケアに関する研究
超音波検査（エコー）を用いたフィジカルアセスメントに関する研究、XR技術を用いた看護師の業務支援・学習支援に関する研究、ICTを利用した訪問看護の遠隔支援に関する研究
クリティカルケア領域における人工呼吸器装着患者への看護に関する研究
がん化学療法による下肢浮腫、スキンケアに関する研究
子どもをもつがん患者への支援に関する研究、がんサバイバーシップに関する研究
創傷看護学、看護理工学、周術期看護学に関する研究
褥瘡に関する研究、看護の可視化に関する研究、看護理工学研究
高齢者施設等の看護と介護の連携に関する研究、高齢者の機能低下を支援するケアの開発に関する研究
認知症高齢者ケアに関する研究、介護予防に関する研究、高齢者の意思決定支援に関する研究
介護保険施設の看取りや感染管理に関する研究、高齢者の急変に関する研究
代替栄養法として経鼻経管栄養を実施している高齢者のQOLに関する研究
事業所における健康支援に関する研究、ヘルスリテラシーと保健行動に関する研究、韓国におけるヘルスケアシステムに関する研究
団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における、介護予防プログラム構築に関する研究
地域特性を踏まえた子育て支援に関する研究、保健活動に関する研究
産業保健看護職の活動に関する研究、労働者の就労継続に関する研究
学校保健に関する研究
家族介護者の健康支援に関する研究、医療的ケア児の養育者に対する育児支援
地域特性に基づく社会的つながりに着目した高齢者ヘルスケアシステムに関する研究
高齢者の口腔と栄養に関する研究
重大な他害行為を起こした精神疾患患者の治療・ケアに関する研究
自閉症スペクトラム障害患者・患児への支援に関する研究
アルコール依存症者の回復に関する研究
看護場面における感情体験と援助関係に関する研究

## 2.2 特任教員等紹介

職 位	氏 名	担 当	任 期
特任准教授	池 田 富三香	附属看護キャリア支援センター	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日
特任講師	大 井 希美佳	附属看護キャリア支援センター	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日
特任講師	松 澤 麻 里	附属看護キャリア支援センター	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日
特任講師	北 川 洋 子	附属看護キャリア支援センター	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日
特任講師	竹 田 昌 代	地域看護学	平成4年 4月 1日～ 令和4年 8月 2日
臨時助教	大 畑 友 紀	小児看護学	令和4年 5月 1日～ 令和4年 9月30日
臨時助教	池 上 暁	在宅看護学	令和4年 5月 1日～ 令和4年 5月31日
臨時助手	宮 本 菜々恵	老年看護学	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日
—	小 幡 康 二	アドミッションアドバイザー	令和4年 4月 1日～ 令和5年 3月31日

## 2.3 教員組織構成 (2023年3月現在)

### 2.3.1 所属領域・講座と職位構成

単位 (人)

学部・センター	講座	計	教員	職位構成				
				教授	准教授	講師	助教	助手
人間科学領域		5( 0)	5( 0)	2( 0)	1( 0)	2( 0)	-	-
看護専門領域	健康科学	5( 1)	5( 1)	4( 1)	1( 0)	-	-	-
	基礎看護学	8( 7)	7( 7)	1( 1)	2( 2)	1( 1)	3( 3)	1( 0)
	母性・小児看護学	10(10)	10(10)	3( 3)	1( 1)	1( 1)	5( 5)	-
	成人・老年看護学	15(12)	14(11)	5( 4)	3( 2)	1( 1)	5( 4)	1( 1)
	地域・在宅・精神看護学	12(11)	11(10)	4( 4)	1( 1)	2( 1)	4( 4)	1( 1)
	附属看護キャリア支援センター	4( 4)	4( 4)	-	1( 1)	3( 3)	-	-
	計	59(45)	56(43)	19(13)	10( 7)	10( 7)	17(16)	3( 2)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

## 2.3.2 職位別年齢構成

単位 (人)

職位	計	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代
教授	19 (13)	-	-	1	13	5	-
准教授	10 (7)	-	1	5	3	1	-
講師	10 (7)	-	2	5	2	1	-
助教	17 (16)	-	7	9	-	1	-
教員	56 (43)	-	10	20	18	8	-
助手	3 (2)	-	2	1	-	-	-
計	59 (45)	-	12	21	18	8	-

( ) の数字は内数であり女性の数を示す；教員は教授、准教授、講師、助教を示す

## 2.3.3 大学院看護学研究科の研究指導教員・研究指導補助教員

単位 (人)

課程	計	研究指導教員	研究指導補助教員
博士前期課程	20(20)	20(20)	0(0)
博士後期課程	20(20)	20(20)	0(0)

( ) の数字は内数であり教授の数を示す

## 2.3.4 博士前期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
研究指導教員	20(12)	1	2	13	4
研究指導補助教員	0(0)	-	-	-	-
計	20(12)	1	2	13	4

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

## 2.3.5 博士後期課程の研究指導教員・研究指導補助教員の年齢構成

単位 (人)

職位	計	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代
研究指導教員	20(12)	1	2	13	4
研究指導補助教員	0(0)	-	-	-	-
計	20(12)	1	2	13	4

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

## 2.4 職員紹介 (2023年3月現在)

事務局 長	西田 義明
-------	-------

### <総務課>

総務課 長	上村 正人
主幹兼係長	中村 雄次
主 幹	長谷川 ゆかり
専 門 員	久保石 雄貴
主任主事	谷口 仁美
主 事	外 尚之
非常勤嘱託	中嶋 晴樹
非常勤嘱託	安達 幸
事 務 員	田上 弘子
事 務 員	土屋 真寿美

### <教務学生課>

教務学生課長	河端 茂久
専 門 員	砂山 美和
専 門 員	林 信隆
主任主事	架谷 真紀
非常勤嘱託	野川 ゆみ
事 務 員	崎田 千草
事 務 員	金田 典子

### <附属地域ケア総合センター>

センター長	(兼)塚田 久恵
-------	----------

### <附属看護キャリア支援センター>

センター長	(兼)紺家 千津子
非常勤嘱託	岸 恭子

### <附属図書館>

館 長	(兼)岩佐 和夫
専門員(司書)	藤田 一彦
非常勤嘱託(司書)	古橋 和子
非常勤嘱託(司書)	山田 美花

### 3. 中期計画

#### 3.1 第2期中期計画（2017年度～2022年度）における2022年度計画と実績

##### 3.1.1 2022年度計画の概略（石川県公立大学法人 2022年度計画 概要版より）

計画策定の基本的考え方		
<p>■第2期中期計画（6年間）の最終年にあたる令和4年度は、中期計画の達成に向けて、3つの柱「大学教育機能の強化」「地域連携・地域貢献機能の強化」「ガバナンス機能の強化」につながる事業に特に重点的に取り組む。</p>		
中期計画の3つの柱に関する取組み		
項目		看護大学
		内容
I. 大学教育機能の強化 - 社会ニーズに応じた教育の提供 - 学生の学びの質向上	①教育の充実、質の確保	<ul style="list-style-type: none"> <li>○看護基礎教育の新カリキュラムの運用を開始</li> <li>○学生の主体的な活動やアクティブ・ラーニングの授業実践</li> </ul>
	②学生への支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学生支援体制の強化 →相談体制の充実、学生同士による学修等の支援を強化</li> </ul>
	③キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○キャリアプランの実現を支援 →全学年を対象とした卒業生との交流会等の実施</li> </ul>
II. 地域連携・地域貢献機能の強化	④産学官連携の推進 社会人教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○感染管理認定看護師教育課程を継続</li> <li>○認定看護管理者教育課程（サードレベル）を継続</li> <li>○専門的看護実践研修など県からの委託事業の実施</li> <li>○地域との連携や健康増進関連活動等の推進</li> </ul>
III. ガバナンス機能の強化	⑤両大学間の連携強化、 コロナ対策方針の決定	<ul style="list-style-type: none"> <li>○両大学間において、教育・研究・事務の交流を図る →両大学の共同研究の推進、合同で研究発表会及びFD・SDセミナーの実施</li> <li>○ガバナンス体制の強化 →理事長および学長のリーダーシップのもと、大学における様々な課題への対応等、戦略的かつ円滑な大学運営を推進</li> </ul>
その他の主要な取組み		
項目		看護大学
		内容
IV. 志願者確保対策	①広報活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>○オープンキャンパスや出前授業の実施、改善</li> <li>○効果的な広報活動の実践 →ターゲット校を絞って高校訪問、進路指導教員との懇談会、隣県への募集活動の継続、ナーシングカフェ等の実施</li> </ul>
V. グローバル化の推進	②海外研修の充実 情報発信力の強化 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○国際交流や国際看護研修（アメリカ、韓国）の実施</li> <li>○語学力推進プロジェクトの実施</li> <li>○JICA研修等の実施</li> </ul>
VI. 学修環境の整備	③ICTの活用 情報化の推進 等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○看護実習で活用するアバターロボットなどの機器の導入</li> <li>○映像教材（ナーシングチャンネル）の導入</li> </ul>

### 3.1.2 2022年度実績の概略

(石川県公立大学法人 2022年度業務実績報告書の概要より抜粋)

#### 石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

##### 1 教育課程の充実

###### (1) 看護基礎教育の新カリキュラムの運用を開始

- ・再履修学生に対する個別の履修登録の指導による円滑なカリキュラム移行

###### (2) 学生の主体的な活動やアクティブ・ラーニングの授業実践

- ・フィールド実習における地域活動の実施
- ・ヒューマンヘルスケア科目における主体的学修

###### (3) ICTの活用、情報化の推進

- ・令和5年度からの教育のDX化に向けて、電子教科書及びノートパソコンを選定
- ・新たな看護医療人材を養成するため、看護実習で活用するアバターロボットなどを整備

###### (4) グローバル化の推進

- ・アメリカ国際看護演習をオンラインで開講
- ・タイ人留学生、韓国出身の石川県国際交流員を招きインターナショナル・カフェを開催
- ・ネイティブ講師による英語講座、韓国語講座の開講

##### 2 教育実施体制の充実

- ・大学院の研究指導教員に看護専門領域以外の教授や、基準を満たす准教授が就けるように規程を改定

##### 3 学生への支援

###### (1) 学生支援体制の強化

- ・学生のメンタルヘルスに関する相談に対する教職員と外部カウンセラー及び保護者等との早期連携による学生支援体制の強化

###### (2) キャリアプランの実現を支援

- ・開学記念シンポジウムや、卒業生と3年生の座談会の内容を学習管理システムに掲載
- ・3年生対象の就職ガイダンスを2月に加えて8月にも開催し、就職活動の情報を学生に早期提供

## 石川県立看護大学の教育研究等の質の向上に関する目標

### 4 研究及び地域貢献、国際貢献の推進

#### (1) 民間企業と共同研究講座開設に向けた協定を締結

- ・共同研究講座「看護理工学」の令和5年度開設に向けた協定を締結

#### (2) 感染管理認定看護師及び認定看護管理者の教育課程を開講

- ・感染管理認定看護師教育課程に42名が履修し、全員修了
- ・認定看護管理者教育課程（サードレベル）に21名が受講し、全員修了
- ・特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程の令和6年度開講に向けて令和5年度に準備に取り組むことを決定

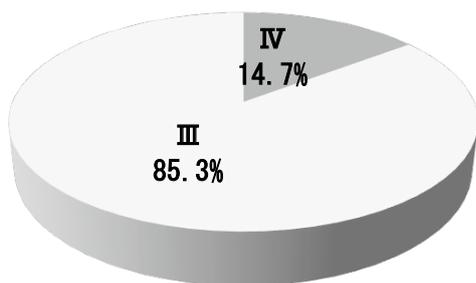
#### (3) 感染管理看護実践力向上研修など県委託研修の実施

- ・「感染管理看護実践力向上研修」を実施したほか、「保健所感染症対応力向上研修」、「看護教員現任研修」、「看護管理者経営研修」、「皮膚・排泄ケア研修」の5事業を実施

#### (4) JICA 研修の実施

- ・パラグアイ日系研修「高齢者福祉におけるケシステムと人材育成」をオンラインで開催

## 項目別評価の状況



項目	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	Ⅰ	計
教育	3	21	0	0	24
研究	1	2	0	0	3
地域貢献	1	3	0	0	4
グローバル化	0	3	0	0	3
計	5	29	0	0	34

## 業務運営の改善・効率化に関する目標

### 1 ガバナンス機能の強化

- ・委員会構成を見直し、あらたな委員会・ワーキングを設置するとともに、令和5年度から看護学部長の職の新設を決定

### 2 両大学間連携の推進

- ・合同研究発表会及び合同FDセミナーをオンラインで開催
- ・両大学の共同研究として小学校で防災授業を実施

### 3 事務組織等の整備と効率化

- ・各種会議のペーパーレス化を推進

### 4 教員にインセンティブを与える仕組み

- ・新たな単年度教員評価の導入に向けてインセンティブの対象者および内容の検討を開始

## 財務内容の改善に関する目標

### 1 外部資金の獲得

前年度比+237,892千円/+36件

(R4: 282,142千円/93件、R3: 44,250千円/57件)

### 2 志願者の増加に向けた取り組み

- ・オープンキャンパスを対面とオンラインで開催
- ・大学院生を対象とした独自の授業料減免制度を創設
- ・大学公式YouTubeチャンネルを開設
- ・北陸3県の高校の進路担当教員との懇談会を開催

## 自己点検評価及び情報提供に関する目標

### 1 大学への評価を活用した取組み

- ・P D C Aサイクルを意識した大学運営を実施

### 2 大学活動に関する情報発信を推進

- ・学生の意見も取り入れてポスターを作成し、県内の高校と実習施設に配布

## その他業務運営に関する目標

### 1 施設設備の計画的な更新

- ・修繕計画に基づく吸収式冷温水機の改修等
- ・令和5年度から10年度までの施設・設備の整備計画、備品の更新計画を策定

### 2 全学的な安全衛生管理体制の整備

- ・学生、教職員の安全確保と健康保全のため、衛生委員会による職場巡視を実施

## 4. 看護学部看護学科

---

### 4.1 理念・目標

#### 4.1.1 教育理念

人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する。

#### 4.1.2 教育目標

1. 豊かな人間性と倫理観を備えた人材の育成  
人間の生命、生活を尊重し、人の痛みや苦しみを共に分かち合える温かい心、豊かな人間性と倫理観を備えた人材を育成する。
2. 看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材の育成  
看護専門職として必要な知識、技術を修得し、人々の健康と生活に関わる諸問題に対して、科学的な根拠に基づく判断力と問題解決能力及び看護学研究に関する思考力と創造性を涵養し、看護学に求められる社会的使命を遂行し得る人材を育成する。
3. 調整・管理能力を有する人材の育成  
保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協力して行われる看護実践を通して、調整・管理能力を有する人材を育成する。
4. 国際社会でも活躍できる人材の育成  
国際的な視野から、健康問題や看護問題を思考、判断し、国際社会でも活躍できる人材を育成する。
5. 将来の看護リーダーの役割を担う人材の育成  
社会状況の変化を踏まえ、看護が担うべき役割を展望し発展させるため、自らの研鑽を重ねながら、その資質向上に努め、看護学の発展に寄与し、将来の看護リーダーとなることができる人材を育成する。

#### 4.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

看護とは、「様々な健康レベルの人々が、その人らしく生活できるよう援助する仕事」です。そのためには、専門的な知識・技術はもちろん、命を大切にする心や人間としての豊かさが求められます。

本学では以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を広く求めます。

1. 大学で学ぶ上で必要とされる基礎学力を身につけている。
2. 人間や生命に関心を持ち、保健・医療・福祉分野で活躍・貢献したいという目的意識を持っている。
3. 周囲の人と協力して物事を進めることができる。
4. 他者の意見に耳を傾け、自分の考えを表現できる。
5. 自己学習・自己啓発を継続する意欲がある。

#### 4.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

本学では、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる知識・技術などを修得できるように、人間科学領域の科目と看護専門領域の科目を体系的に編成しています。教育内容、教育方法、教育評価について以下のように定めています。

〈教育内容〉

学生が大学での学修に適応するための科目を初年次に配置する。加えて、人間科学・健康科学・看護学の科目間の連携を図り、それらを統合して学べるように科目を配置する。

看護専門領域に「健康・疾病・障害の理解」「看護の基本」「看護援助の方法」「看護の実践」「看護の発展」の科目を配置する。また、人間の成長、発達、健康の維持増進から終末に至る健康問題を科学的に評価し、生活・療養の場に応じた看護の必要性を学べるように設定する。

さらに、様々な状況に対応できる能力、多職種と連携・協働しながら看護の専門性を発揮できる能力、将来を切り開いていく能力を統合・発展させるための科目を段階的に学べるように設定する

〈教育方法〉

幅広く総合的に看護を学ぶことができるよう、積極的に人々の生活の場に出向いたり、アクティブ・ラーニング、異学年交流等を活用した講義、演習、実習を適切に組み合わせた授業を行う。

個々の学習深度や能力に応じた指導を行うため、個別学習やレポート課題を課し、フィードバックを行う。

学生のより積極的な学習ニーズに応えるため、外部の客観的評価試験や外部の開講科目（放送大学、シティカレッジ等）を活用する。

学年進行に沿って、学修を統合的に積み重ねることができるよう履修指導を行う。

〈教育評価〉

各科目の学習目標の達成度を評価し、その基準は授業計画に示す。加えて、本学の履修規程・学則に基づいて総合的に評価する。

#### 4.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

教育理念を基に本学の教育課程に沿って研鑽に努め、指定する卒業単位を修得することで、下記の能力・資質を修得・涵養し、それらを総合的に活用できる人材を養成します。

1. 看護の基盤となる豊かな人間性や倫理観と教養を身につけている。
2. 看護職として専門分野における学問内容の知識・技術を修得している。
3. 人間の身体的・心理的・社会的な健康状態を科学的に評価し、的確な判断ができる。
4. 人々の健康維持と増進、予防、また健康障害から回復過程等、全ての健康段階を連続的に捉え、生活に根ざした支援の必要性を理解できる。
5. リーダーシップを身につけ、自ら多職種と連携・協働することができる。
6. 国際化及び社会の医療ニーズの変化に対応し、生涯を通して自己を高めることができる。

## 4.2 学部学生の入学・在学・卒業の状況

### (1) 入学の状況

#### ①入学定員・収容定員

単位（人）	
入学定員	収容定員
80	320

#### ②試験実施日

実施日	
推薦入試・社会人入試	令和 4年11月19日（土）
一般選抜前期日程試験	令和 5年 2月25日（土）
一般選抜後期日程試験	令和 5年 3月12日（日）

#### ③受験状況等

単位（人、倍）						
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率	入学者数
推薦入試	30	47	47	30	1.6	30(27)
社会人入試	若干名	0	0	0	0	0(0)
一般選抜前期	40	91	82	44	1.9	42(40)
一般選抜後期	10	217	64	14	4.6	11(11)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

### (2) 在学の状況（令和5年3月1日現在）

単位（人）						
学 年		1年次	2年次	3年次	4年次	計
在学者数	男性	6	5	3	4	18
	女性	78	75	76	78	307
	計	84	80	79	82	325

## (3) 卒業の状況

## ①卒業者数 第20期生

		単位 (人)	
区 分	計	入学年度別卒業者数	
		平成30年度以前 入 学 者	令和元年度 入 学 者
卒業者数	79(75)	1(1)	78(74)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

## ②卒業後の進路状況 第20期生 (令和5年3月31日現在)

		単位 (人)					
区 分		県 内		県 外		合 計	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合
就 職	看護師	54	68.4%	12	15.2%	66 (62)	83.5%
	国公立病院 (独立 行政法人を含む)	48	60.8%	7	8.9%	55 (51)	69.6%
	上記以外の病院	6	7.6%	5	6.3%	11 (11)	13.9%
	保健師	4	5.1%	2	2.5%	6 ( 6)	7.6%
	その他	0	0.0%	0	0.0%	0 ( 0)	0.0%
	計	58	73.4%	14	17.7%	72 (68)	91.1%
進 学	大学院博士前期課程	6	7.6%	1	1.3%	7 ( 7)	8.9%
	養護教諭特別別科	0	0.0%	0	0.0%	0 ( 0)	0.0%
	その他	0	0%	0	0.0%	0 ( 0)	0.0%
	計	6	7.6%	1	1.3%	7 ( 7)	8.9%
	未 定	0	0.0%	0	0.0%	0 ( 0)	0%
	合 計	64	81.0%	15	19.0%	79 (75)	100.0%

( ) の数字は内数であり女性の数を示す。割合は、総数79人を100%としたもの

③主な就職先 第20期生 (令和5年3月31日現在)

県	内	県	外
石川県	立中央病院	名古屋	徳州会総合病院
金沢大学	附属病院	トヨタ	記念病院
国立病院	機構金沢医療センター	関西医科大学	附属病院
金沢医科大学	病院	淀川	キリスト教病院
JCHO	金沢病院	兵庫県	立こども病院
金沢赤十字	病院	神戸市立	医療センター中央市民病院
金沢脳神経外科	病院	神戸市民	病院機構
公立能登	総合病院	明和	病院 (兵庫県)
珠洲市	総合病院	東京医科	歯科大学病院
輪島市	立輪島病院	東京慈恵会	医科大学葛飾医療センター
公立宇出津	総合病院	板橋	中央総合病院
金沢市		舟山	病院 (山形県)
珠洲市		成仁	病院 (東京都)
津幡町		富山	県

## 4.3 教育・履修体制

本学の教育は、人間科学領域の5学科目群と看護専門領域の5講座に属する教員が担当します。

領域	学科目群又は講座	科目群	教育内容
人間科学領域	人間形成系群	健康体力科学	自己の健康・体力づくりを生涯にわたり実践していくための理論と方法を修得させるとともに、看護の対象者の健康獲得を目指すための知識と技術について教授する。
	人文科学系群	哲学	哲学・心理学的な思考を通して、人間の本质と存在の意義について理解を深めるとともに、看護職者として悩める人を理解し援助するための知識と方法、態度について教授する。
		心理学	
	社会科学系群		人々の生活を支える社会のしくみと人間と社会環境との関わりについて理解を深めさせるとともに、社会科学的視点から保健・医療・福祉・看護が抱える諸問題について教授する。
	自然科学系群	人間工学	人々の生活と環境との関わりや人間と環境との共生について理解を深めさせるとともに、人間の日常生活行動や看護現場での諸問題について人間工学的側面から教授する。
	国際・情報科学系群		英語
情報科学			
看護専門領域	健康科学講座	機能・病態学	人間の生命現象や身体の構造・機能と心身の健康の保持・増進、疾病・障害の発症と回復のしくみに関する理論と知識、技術を科学的根拠に基づいて系統的に教授する。
		保健・治療学	
	基礎看護学講座	基礎看護学	「看護とはなにか」という看護の概念・本質と看護の基本となる理論と知識・技術、及び看護職者として必要な態度について教授する。
	母性・小児看護学講座	母性看護学	ライフサイクルのうち、妊娠・分娩・出産から思春期にわたる母子とその家族に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		小児看護学	
	成人・老年看護学講座	成人看護学	ライフサイクルのうち、成人期から老年期にわたる対象に特徴的な発達課題と健康問題を踏まえ、看護援助に必要な知識や理論と実践の方法について教授する。
		老年看護学	
	地域・在宅・精神看護学講座	地域看護学	地域で生活する個人・家族・特定集団・地域住民全体を対象とした地域看護の特徴を踏まえ、活動の場(学校、職場、在宅、地域全体)とその対象の特性に応じた看護援助、及びライフサイクル各期のメンタルヘルスの課題や精神的な健康問題をもつ対象への看護援助に必要な知識や理論と実践の方法を教授する。
在宅看護学			
精神看護学			

## 4.4 委員会活動

### 4.4.1 常設委員会

#### 4.4.1.1 教務委員会

委員長：桜井 志保美 教授

委員：平居教授（副委員長）、川島教授、石川教授、美濃教授、米澤教授（後期）、金子准教授（前期）、松本勝准教授、工藤講師（前期）、中嶋（優）講師（後期）、曾山講師、千原助教

委員補助：今方助教、額助教、高濱助教（後期）、加藤助手

事務局：河端教務学生課長、南主事（前期）、架谷主事（後期）

<今年度の目標>

1. 旧カリキュラムから新カリキュラムへの移行措置期間であり、円滑なカリキュラム運営に努める。
2. 学生の主体的な活動やアクティブ・ラーニングの授業を実践する。新型コロナウイルス感染症状況を注視しつつ、必要に応じてオンラインを活用する。
3. 医療、社会制度の動向に沿った教育を実施するために、臨床教授等と連携して、臨地実習における課題を明確にし、大学と臨床現場双方のニーズや工夫等について意見交換を行う。

<活動実績>

教務の所掌業務に関して、以下の事項の審議を行った。

1. カリキュラム変更にともなう新・旧カリキュラムの学生への同質の学修の機会の提供と履修指導
2. 随時試験・定期試験の時間割と試験監督の決定
3. 時間割、教室の配置
4. 電子教科書導入の検討および説明会の実施
5. 非常勤講師用の任用
6. 成績判定・修得単位および卒業要件の判定
7. 石川コンソーシアムのシティカレッジの科目提供と受講科目の成績判定
8. 臨床教授等の称号付与
9. 特別講義の実施
10. 卒業研究に関する教員および学生配置（学生配置における面談システムの検討・導入）
11. 卒業研究発表会の実施
12. 令和5年度看護学実習計画・実習暦、ヒヤリハットへの集計・分析と防止対策
13. 中期計画の具体的な取り組み
  - 1) 臨床教授等との交流会の開催（オンライン：本学実習方針の説明・教員との意見交換）
  - 2) 次年度に向けたコロナ禍での民泊型フィールド実習の課題と対策
  - 3) フィールド実習担当者会議の開催、次年度に向けた改訂

- 4) ヒューマンヘルスケア (Human Health Care) 科目担当者会議の開催、ハイブリッドによる成果発表の実施
14. その他、以下の事項について検討し、教授会及び教育研究審議会に提出した。
- ・成績評価判定
  - ・GPAの取り扱い
  - ・非常勤講師任用における学内科目責任者について

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 2022年度カリキュラム導入における学修評価
2. 異学年交流を推奨した学修促進
3. 電子教科書・ペーパーレスを導入し、授業の効率化、学修効果を検証

#### 4.4.1.2 学生委員会

委員長：米田 昌代 教授（学生部長）

委員：桜井教授、市丸准教授、松本（智）准教授、金子准教授、工藤講師、田村講師、大江講師

委員補助：野沢助教、黒川助教、千田助教

事務局：河端教務学生課長、林専門員、南主事（前期）、架谷主事（後期）

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 学生の諸活動の活性化を図り学生個々の意欲向上に向けたサークル活動・地域活動等対面交流の確保
2. 学生アンケートの回収数の確保
3. コロナ禍の影響による学生の心身の健康課題等の把握とその改善策

<今年度の目標・年度計画>

1. 新型コロナウイルス感染状況に合わせた学生への活動方針を適時周知し、大学祭等の行事、各サークル活動や地域活動が活発となるような支援方法について検討し、実施する。
2. 学生と教職員等の座談会やアンケート調査を実施(回収率のアップをめざす)し、学生の要望を踏まえた学修支援の充実を継続して図る。
3. 教員と事務局、外部カウンセラーが一体となった学生相談体制の充実と学生同士による学修及び学生生活の支援を強化する。(効果的な担任制の在り方について検討する)

<今年度の活動実績・評価>

1. 新型コロナウイルス感染状況に合わせた学生への活動方針を適時周知するとともに、一部のボランティア関連のサークルにおいて、教員の監督の元で感染に留意しながら活動を継続するよう促した。また、感染拡大に留意しながら、各行事のサポートを実施した。
  - 1) 自治会主催の新入生歓迎会(桜フォーキング)(4月9日)を開催した。参加者は60名程(内1年生約30名)で先輩・同級生との交流がもて、サークル紹介もあり好評であった。
  - 2) 初年次学修支援「先輩から学ぼう！授業の受け方」(4月28日)をオンラインで開催した。

3年生2名、2年生3名より、具体的ノートのとり方やそれぞれの勉強方法について話してもらった。新入生アンケートの結果、今後に活かすことができる内容であり、好評が得られたが、もう少し早い開催が希望された。

- 3) 開学記念日(5月29日)において学生大会の実施サポートと今年度から就任された真田学長の講演「次世代看護学の幕開け」をオンラインで実施した。学生の感想には、「看護が想像以上に発展することができることに驚き、感動した」「研究に興味があった」「患者のためになる看護とは何かについて常に疑問を持ち追求する姿勢が重要であると感じた」等が記されており、今後自ら看護を学んでいく上での強いモチベーションにつながった貴重な講演となった。次年度の開学記念講演講師を決定した。
- 4) 大学祭実行委員会による第23回看大祭「全力笑顔!!!!」(10月22日・23日)の開催を支援した。3年ぶりに外部から来場者を招いての、2日間の開催であり、講演会に羽田美智子氏をお呼びするという大きな企画にチャレンジした。来場者332組(講演会約250名)、学内は2日間で延べ180名ほどが参加し、運営した学生からは「責任をもって取り組むことができた」「教員との距離が縮まった」、参加した学生からは、「楽しかった」という感想もみられ、学びも多く、無事に終えることができた。1年生の巻き込み方や今後の教員のサポートの在り方については課題が残った。
- 5) 3年生に対して、実習や就活・ゼミについて、4年生からの話を聞く学生セミナー(8月10日)を開催した。4年生の実習調整委員6名が3年生8名ずつのグループに入り、グループディスカッションを実施した。アンケート結果では、「実習のイメージがわいた」「実習の準備や気を付けること、就活の対策、ゼミの進め方等聞けてよかった」と好評であった。
- 6) 自治会役員主導で1年生と2年生の交流会(10月27日)の開催を支援した。基礎看護実習Ⅰを控えた1年生の不安を少しでも取り除くという趣旨で、「実習について話す会」というタイトルで開かれ、18名の1年生が参加し、2年生の自治会役員3名が実習経験に基づいて、1年生の質問に回答した。参加した1年生は熱心に聞いており、当日参加できなかった学生にも共有できるように掲示版に掲示した。
- 7) 3年生に対して、就活、国試、卒論に対して4年生からの話を聞く交流会(2月22日)を開催した。アンケート結果では、ほぼ100%の学生が満足と回答しており、就活の具体的な情報や国試の勉強方法について聞くことができ、今後の見通しを立てることができていた。
- 8) 卒業生とのオンライン座談会(3月15日～17日)を開催した。9名の卒業生に協力を依頼し、質問に答えていただいた。全体で、2年生11名、3年生62名が参加し、ほぼ100%の学生が満足しており、それぞれの病院の特徴や、病院の決め方、就職先での働き方、大学院の準備の仕方等情報を得ることができていた。
- 9) 自治会活動、サークル活動等で活躍した学生に対して、卒業式にて学長表彰を実施した。
- 10) 感染拡大防止対策のために、日々の感染対策を促すとともに、長期休業前の注意喚起、担任・教務学生課による感染者発生時の行動把握と拡大防止のための指導・消毒、感染予防物品の管理を実施し、学内でのクラスター発生を予防することができた。
- 11) サークル活動の把握(継続7団体、解散7団体)と助成(4団体)を行った(11月)。コロナ禍で活動できなかった間に所属していた学生が卒業し、後輩に引き継がれていない現状であり、継続できる団体が半減している。活動拡大に伴い、新規にサークル活動を立ち上げるように、促していく。

2. 学生と教職員等の座談会やアンケート調査を実施し、学生の要望を踏まえた学修支援の充実を図ることができた。
  - 1) 学生自治会と教職員の座談会(1月18日)を開催し、学生の要望を聞くとともに、建設的な話し合いを実施した。要望に応えられるところ、改善すべきところについては教職員に周知し、今後改善していく。
  - 2) 在学生アンケートを12月のクラスアワー時に質問内容の重複を整理し、自己点検評価委員会と合同で実施し、90%の回答率が得られた。次年度に向けて、アンケート結果を学修支援に反映していく予定である。
3. 学生相談体制の充実については学生相談部会に記載。効果的な担任制の在り方については来年度も引き続き、検討することになり、2025年度に向けて、学生委員会、相談部会との役割とも合わせて検討していくことになった。

＜次年度以降に向けた課題・発展＞

1. サークル活動の活発化:新規サークル立ち上げを呼びかけたり、既存のサークルの復活を促し、サークル活動の充実を図ることが求められる。
2. 初年次研修の時期:学生からの早めてほしいという要望を受けて、4月の初旬～中旬に実施できるよう準備する。
3. 大学祭の参加促進・学生主体の運営:学生が主体的に動けるような大学祭のサポートの在り方を考える。
4. コロナ禍の影響による異学年交流の不足:上記1～3の活動等を通して、異学年交流がより一層進むように支援する。

#### 4.4.1.2.1 学生相談部会

部会長：米田 昌代 教授

部会員：河合助教、瀬戸助教、大橋助教、高濱助教(後期)、河端教務学生課長、  
野川嘱託

心理カウンセラー：堂本

活動内容：

＜前年度までの課題＞

1. 合理的配慮が必要な学生に対する支援体制の整備
2. 学生のメンタルヘルス危機対応の整備

＜今年度の目標・年度計画＞

1. 合理的配慮が必要な学生に対する支援に対する勉強会と体制の試行
2. 学生のメンタルヘルス危機対応指針作成
3. 相談員の学生相談に関わる実態の把握

＜今年度の活動実績・評価＞

1. 合理的配慮が必要な学生に対する支援に対する研修と体制の試行
  - 1) 障がいがある学生への修学支援が実施されるまでのプロセスのフローチャート案と修学支援申請書・決定書を作成した。申請があった場合、試行する予定であったが、まだ、

申請者はいずれ、使用にはいたっていない。試行段階を継続していく。

- 2) 障がいのある学生の修学支援に関する勉強会(9月8日)を学生委員会、相談部会、担任部会の教員を対象に当大学心理学の名誉教授の武山雅志先生に来ていただき、講演・意見交換を実施した。個人個人を見て本人・家族とやりとりしながら、支援を考えていく必要性について学んだ。
2. 学生のメンタルヘルスに対する緊急時の危機的状況に対応するため、保健室の機能を充実させ、専門家との連携による支援体制の見直しをはかった。来年度はこの体制に基づき、実施していき、課題があれば修正していく。
3. 相談員の学生相談に関わる実態の把握
  - 1) カウンセリング「ほっとルーム」は、2回/月(第2木曜日:13:30~17:30、第4木曜日:14:00~18:00)の定期に開室した。カウンセリングの年間のべ相談件数は53件(1年7件、2年4件、3年8件、4年21件、大学院生13件)であり、その内の9件はオンライン面談であった。また、カウンセラーへの保健室担当者および教員の年間コンサルテーションは28件であった。
  - 2) 相談を受けた学生には、本人が情報共有を許可した教職員間(学年担任、学生相談部員、保健室担当者、カウンセラー、進路アドバイザー等)で連携し、継続的にサポートした。必要に応じて保護者との面談を実施した。また、緊急性の高いケースでは、学生の意思を尊重しながら早期に心理カウンセラー・医療機関へ繋いだ。
  - 3) 相談員個々の学生相談に関わった時間・内容の概要は収集途中のため、次年度まとめて報告する。
4. その他

学生相談部員による「ほっとルーム便り」を年間4回発行し、カウンセリングの周知、学年暦に応じた心身への健康維持に必要な情報等の発信を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

高校時代にコロナ禍の影響を受けた学生たちが入学してくることにより、メンタルヘルスに問題を抱えやすい学生が増える可能性がある。メンタルヘルスの維持向上のためには、メンタルヘルス問題の早期発見のための啓発活動、教職員に対するメンタルヘルスへの対応に関する研修、学生自身のメンタルヘルス研修等を今後企画し、対策していく必要がある。

また、新たな保健室を中心としたメンタルヘルスへの対応がスムーズに進むように、新しく着任する養護教諭・カウンセラーと話し合いを十分に行い、体制を整えていく。

#### 4.4.1.2.2 進路支援部会

部会長：松本 智里 准教授

委員：濱教授、米澤教授(後期)、金谷准教授、金子准教授(前期)、寺井准教授、  
大江講師、大西講師、日高講師

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 県外就職試験の早まりや感染拡大の影響を踏まえ3年生早期からの就職相談を行う。
- 2) 低学年からのキャリア支援を継続する。
- 3) 国家試験対策の1つである強化学習を希望者も含み行う。

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 希望とする進学・就職先の受験・内定ができるよう支援する。  
特に県外就職者への受験時期に関する支援を重点的に行う。
- 2) 国家試験で学生の力が最大限発揮できるよう学習支援、学習環境調整を行う。
- 3) 全学年へのキャリア支援を行う。

<今年度の活動実績・評価>

1) 進路支援

- ①4年生への進路支援は、8名のアドバイザー教員による担当制で行った。
- ②県外を就職希望する学生には、3年生後期から進路支援アドバイザーによる支援を行った。感染対策上、実習と就職試験日との兼ね合いをみて就職先を選択するよう指導した。
- ③4年生79名全員の就職・進学先が決定した。

2) 国家試験対策：看護師国家試験合格率100%

- ①4年生が主体となって、模擬試験の年間計画立案、実施を行った。感染対策や大雪を想定して冬季の模試試験の実施方法をオンラインとする検討も行った。
- ②進路アドバイザーが模試試験結果をもとに個別に支援をした。
- ③強化学習として、模試試験の成績不良者と強化学習の参加希望者を対象に、学習方法の支援、必修問題、一般・状況設定問題への強化を図った。
- ④国家試験10日前に、教員が作成した必修問題を用いて試験を実施した。
- ⑤4年生を対象に、看護師対策2回、保健師対策5回の補習を行った。

3) 全学年へのキャリア支援

- ①開学20周年記念行事で行われた卒業生のシンポジウムの動画を、オンライン上 (moodle) にアップし、1～3年生に視聴を推奨した。6月の1か月間、動画を公開し、123名の視聴回数があった。
- ②前年度3月に開催された卒業生と3年生との座談会のzoom録画をオンライン上 (moodle) にアップし、低学年に視聴を推奨した。
- ③マイナビ看護学生による就職支援ガイダンス  
8月10日 (水) 13時～14時半 本学大講義室 参加者：3年生70名、教員7名  
2月22日 (水) 11時～12時半 本学大講義室 参加者：3年生74名、教員9名  
前年度は2月に就職支援ガイダンスを本学教員が行っていたが、3年生に早期から就職活動を意識してもらうため、今年度は8月と2月に実施した。全国規模で学生の就職支援をしている外部業者にガイダンスを依頼することで、県内だけでなく全国の就職活動の動向を学生に伝えられた。
- ④3年生を対象に低学年模試を実施した。  
・第1回 8月10日 (水) 9時～12時 本学大講義室 参加者：3年生75名  
・第2回 2月22日 (水)～3月8日 (水) 第111回看護師国家試験問題に取り組んだ。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 県外だけでなく、県内の就職試験も早まっているため、3年生前期から就職相談対応をしたり、就職説明会への参加を促したりして、卒後の進路に対する意識づけを早期から行う。
- 2) 低学年からのキャリア支援を継続する。
- 3) 国家試験対策の1つである強化学習を希望者も含み行う。

#### 4.4.1.3 研究推進委員会

委員長：今井 秀樹 教授

委員：濱教授、石川教授

事務局：長谷川主幹

活動内容：

<前年度までの課題>

- 1) 新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、すべての活動がオンラインで行わざるを得ない。
- 2) 科研費等外部研究費の獲得を拡大する必要がある。

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 研究ウェルカムセッション

本年度着任の教員（講師以上）の研究内容の自己紹介を昼休み時間帯を利用して全教員参加のもとに行う。

- 2) 研究サポート集会

若手教員を対象に科研費獲得のための申請書の書き方の講習を行う。

- 3) 学内研究助成報告会

昨年度末で終了した学内研究助成の成果発表を行う。聴衆は全教員とする。

- 4) 石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会

石川県立大学の教員と本学の教員との共同研究の成果発表を行う。聴衆は両大学の全教員とする。

<今年度の活動実績・評価>

- 1) 研究ウェルカムセッション

開催日時：令和4年8月30日 12：15～12：50

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：「ライフワークとしての精神科身体合併症看護・司法精神看護—これまでの研究・教育の概要と展望—」 美濃由紀子 教授（精神看護学講座）

- 2) 研究サポート集会

開催日時：令和4年8月5日 15：00～16：00

参加者：41名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：「科研費申請の事務手続きについて今年の申請のポイント」 外主任主事（事務局総務課）「科研費獲得に向けた申請書作成のアドバイス」 峰松教授（成人看護学講座）

- 3) 令和3年度学内研究助成成果報告会

開催日時：令和4年8月5日 13：00～14：40

参加者：各セッション14-32名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：「看護師がアピアランスケアにおいて多職種との協働を行う際に抱く困難感」松本智里准教授（成人看護学講座）、「介護保険施設における新型コロナウイルスへの感染対策と感染流行時の入所者家族への対応」額助教（老年看護学講座）、「生活習慣病とフレイル発症・進展の予防関連因子の検討のための基盤研究-かほく市における食習慣と健康に関する調査（KAHOKU HEALTH STUDY）」垣花教授（人間科学講座）、「ヒト筋芽細胞における免疫制御因子発見の解明」岩佐教授（健康科学講座）、「下大静脈の描出・計測に向けたセルフモニタリング心エコーの考案」大橋助教（成人看護学講座）、「「同意」概念の哲学的基礎付け」高井前講師（人間科学講座）

#### 4) 石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会

開催日時：令和4年8月24日 14：30～17：10（FD研修会の時間も含む）

参加者：75名

形式：Zoomによるオンライン発表

演題および講師：「スキنبロッキング：非侵襲的スキンアセスメント技術の開発と応用」峰松教授（成人看護学講座）、「乳酸菌の産生する機能性菌体外多糖の医薬・食品産業への応用に向けた基盤構築」松崎講師（石川県立大学生物資源工学研究所）、「日本の中山間地域で人口減少の進行がゆるやかな地域の社会文化的特徴 一宮崎県椎葉村を対象として一」日高講師（在宅看護学領）、「次世代シーケンサーを用いた効率的遺伝解析技術の開発と実用展開」高木准教授（石川県立大学生産科学科）

<次年度以降に向けた課題・発展>

いずれの行事もオンライン形式であった。来年度は是非すべて対面で行い、特に石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会においては両大学の教員間の交流を活発にする機会としたい。

#### 4.4.1.3.1 学内研究助成専門部会

委員長：垣花 渉 教授

委員：今井（秀）教授、牧野教授、桜井教授

事務局：長谷川主幹

活動内容：

本部会は、学内研究助成全般のあり方の検討と実際の学内研究助成に関する申請書類の審査、報告書の評価、予算案の提案を主たる活動とする。

学内研究助成に関する申請書類の審査を4回行った。令和4年5月に令和4年度学内研究助成（研究プロジェクト）の2次募集を行った。採択件数は2であった（申請4件）。令和4年8月に令和4年度学内研究助成（研究プロジェクト）の3次募集を行った。採択件数は14であった（申請15件）。令和5年1月に1件、2月に1件の令和4年度学内研究助成（研究成果公表）の申請があり2件とも承認された。

学内研究助成報告書の評価を2回行った。令和4年12月に令和2年度学内研究助成（研究プロジェクト）の報告書（5件）の審査を行った。令和5年2月に令和4年度学内研究助成（研究プロジェクト）の中間報告書（7件）の審査を行った。

#### 4.4.1.4 石川看護雑誌編集委員会

委員長：濱 耕子 教授

委員：今井（秀）教授、紺家教授、米澤教授（後期）

委員補助：瀬戸助教、桶作助教

事務局：中村主幹兼係長、外主事

活動内容：

<前年度までの課題>

外部査読制をとらない本誌は、学術論文としての存続が難しくなりつつある。そこで、投稿申込状況の把握と今後の対策・課題についての検討を行う必要がある。

<今年度の目標・年度計画>

1. 今年度の「石川看護雑誌」発刊が無事に終了する。
2. 本誌の今後のあり方や投稿数確保のための意見交換を行い、編集委員会レベルで課題を共有できる。
3. 本誌への投稿が円滑に行えるよう、投稿規定の見直しをはかる。

<今年度の活動実績・評価>

1. 「石川看護雑誌」（第20巻）を予定通りのスケジュールで発刊した。

博士学位申請で早期採択を目指す6月募集時の応募はなかった。

9月募集時には、原著論文以外に総説や資料、研修活動報告等による投稿も積極的に受け入れる方向で進めた。

結果としては、特別寄稿として第3代石垣学長による最終講義内容1編、卒業生を筆頭とする原著論文2編の計3編を掲載した。特別寄稿は依頼原稿であるため査読はせず、業者委託でテープ起こしの後、著者にてカラー刷りで原稿作成、その後、委員長による校正作業で進めた。予定通り、第20巻は3月末に発刊された。

2. 本誌のあり方を図書館長と編集委員会で検討し、その後、学長を交えて意見交換した。

第2回編集委員会（9月16日開催）、学長との意見交換（9月30日開催）にて、退職教員による特別寄稿や講座での教育研究の取り組みの依頼原稿を作成してもらった。また、学部生や卒業生を対象にフィールド実習、ヒューマンヘルスケア、卒業研究の内容で、応募を推奨する案が挙げられた。

3. 投稿規定の見直しをはかった。

第1回編集委員会（5月18日開催）にて、投稿の現状に合わせ、投稿規定を見直した。

『Ⅰ. 投稿に関する規定』：本誌投稿に関する問い合わせが外部から入る可能性がある（過年度に入った）ため、連絡先はそのまま「附属図書館受付」とした。

『Ⅱ. 投稿原稿の執筆要領』：原著論文と資料別にページ数の追加と、1桁の算用数字は全角とする旨に修正した（算用数字の件は、今年度の応募に際しては口頭伝達に留めていたが、2023年度に向けて第20巻の発刊時に投稿規定を修正した）。

#### <次年度以降に向けた課題・発展>

2023年度入学生から紀要（本学以外の雑誌も含む）は本学の学位論文申請時の条件から外され、6月募集の必要性がなくなった。学外査読制を取らない本誌では、大学院生や教員を筆頭とする応募は今後とも少なくなることが考えられる。

編集委員会より、今後は応募対象を広げ、学部生が投稿しやすくなるよう応募を推薦制にする、査読を課すか否かを投稿側と相談する、投稿スケジュールの見直し、ポスター形式で1ページ掲載にする等の論文形態の選択肢を増やす提案があった。全学的に新しい本誌のあり方を理解してもらえるよう、具体的な対策を検討する。

今後は本誌の配布先はこれまでと同様でよいか、本誌の位置づけや掲載内容から考えて検討していく。

#### 4.4.1.5 情報システム委員会(含む情報セキュリティ)

委員長：峰松 健夫 教授

委員：市丸准教授、中嶋（知）助教

事務局：外主事

活動内容：

##### <前年度までの課題>

サンダーバードに代わるメールシステム、Moodleに代わるLMSの可能性について、引き続き県立大学および法人と検討する。

##### <今年度の目標・年度計画>

石川県公立大学法人情報セキュリティポリシーの適切な運用を行うとともに、職員を対象とした情報セキュリティ研修や学生を対象とした教育活動を行う。また、情報資産管理システムによるソフトウェア・ライセンス及び情報機器の適正な管理に努める。

教員対象にWi-Fiアクセスポイントの実態調査を実施し、必要に応じて点検・整備・修善を実施する。Moodleの運営・管理をサポートする。サンダーバードに代わるメールシステム、LMSの運用について県立大学および法人と検討する。

##### <今年度の活動実績・評価>

- ・対面およびメールにて情報システム委員会を開催し、学内の情報機器・システムの課題抽出と適正な管理・運用について協議を行った。
- ・来年度実施予定の情報システム機器更新に向け、法人のヒアリングおよび調査に対する学内の要望を取りまとめ、回答および交渉を行った。
- ・学内のWi-Fiの受信状況を調査し、アクセスポイントの増設を行った（体育館2機、講堂3機、教育研究棟2機、管理棟1機）。
- ・令和4年4月4日・5日 市丸委員（本学Moodleマネージャー）が教職員および大学院生を対象としたMoodle研修会を開催した。
- ・令和5年3月3日 コンプライアンス委員会、倫理委員会と合同説明会を開催し、峰松委員長が教職員および大学院生を対象とした情報セキュリティ教育を実施した。
- ・来年度以降本学で実施されるDX化に向け、教務委員会およびDX推進委員会と連携し、市丸委

員がMoodleの活用法に関する教育（令和5年2月9日）、および模擬授業（令和5年3月10日）を行った。

#### <次年度以降に向けた課題・発展>

本学のDX化に連動し、LMSやメールシステム、ファイルサーバーへのアクセシビリティ等について検討、対応、および周知に努める。また、情報システム機器更新に伴う各種調整、対応、教育等を行う。

### 4.4.1.6 広報委員会

委員長：平居 貴生 教授

委員：真田学長、小林教授（研究科長）、米田教授（学生部長）、  
岩佐教授（附属図書館長）、塚田教授（附属地域ケア総合センター長）、  
紺家教授（附属看護キャリア支援センター長）、桜井教授、中道准教授、  
曾山講師、中嶋（優）講師（後期）、  
西田事務局長、小幡アドミッションアドバイザー

委員補助：瀬戸助教、大橋助教、牛村助手

事務局：久保石専門員

活動内容：

#### <前年度までの課題>

- 1) 新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながらの参加型オープンキャンパス運営の検討
- 2) ナースカフェの充実(参加者との交流方法の検討)
- 3) HPの充実（特に研究・教育面での情報発信）

#### <今年度の目標・年度計画>

参加型オープンキャンパス開催

#### <今年度の活動実績・評価>

##### 1. オープンキャンパス

今年度のオープンキャンパスは3年ぶりの対面での開催であった。ただし新型コロナウイルス感染症予防のために、参加予約型の対面オープンキャンパスとした。また、WEBオープンキャンパスを同時に開催した。

##### 1) 夏のオープンキャンパス

日時：7月10日（日）第1部10時～12時 第2部13時～15時

参加者：対面285名（保護者含む）

- オープンキャンパスグッズ（水、ノート、ボールペンなど）。
- 大学説明会（学長挨拶、副入試委員長入試説明、学生による概要説明）
- 模擬講義
- キャンパツアー（看護系の実習室、スキルラボで体験や見学）
- 個別相談コーナー（高校生対象）
- 個別相談（保護者対象）

- ナース・カフェ（対象：中学生・高校1年生）  
大学キャンパスツアーを企画した。  
アンケート（回答者には、特別記念グッズ）
- オンライン大学院進学説明会（申込者：19名）
- WEBオープンキャンパス（開催時期：7月10日～7月31日、参加者延べ463名）

## 2) 秋のオープンキャンパス

日 時：10月22日（土）10時～12時

参加者：対面152名（保護者含む）

※WEBオープンキャンパスの参加者は延べ104名

内容は夏のオープンキャンパスと同様であった。夏のオープンキャンパスに参加できなかった高校生の参加を優先して開催した。

## 2. キャンパスネット IPNU（大学新聞）

### ①第41巻（2022年5月号の編集・発行）

特集は「石垣学長から真田学長へつながるバトン」を取り上げ、石垣前学長と川島教授のインタビュー記事を掲載した。

### ②第42巻（2022年11月号の編集・発行）

大学院の魅力を伝えるため、特集は「石川県立看護大学-過去・現在・未来-」を取り上げ、これまで本大学院に多大なる貢献があった牧野教授と川島教授のインタビュー記事を掲載した。

## 3. 大学案内（学部・大学院）広報誌の発行

### ①2023大学案内の企画立案・編集・発行

### ②2023広報誌の企画立案・編集・発行

## 4. ホームページ

トップバナーを見やすいように改修した。また、大学公式YouTubeチャンネルを開設したので、その情報を掲載した。

## 5. 大学コンソーシアム石川

### ①広報事業：石川の大学ガイドブック「イシカレ」

### ②出張オープンキャンパス事業（星稜高等学校、野々市明倫高等学校）

### ③合同大学説明会「ガクフェス2022」

対面開催：7月18日、金沢駅

オンライン開催：7月23日（Zoom）

### ④「学都石川」高校教員向けキャンパスツアー受け入れ

10月18日（27名受け入れ）

## 6. その他の広報活動

### ①大学ポスターの作成

### ②大学PR動画の作成

### ③大学公式YouTubeチャンネルの開設

### ④「進学と体験の1day」に参加

概要

日 時：令和4年7月24日 10:00～15:00

場 所：金沢駅もてなしドーム地下広場

主催者：株式会社日本医療企画

内 容：高校生及び中学生を対象とした進学相談

(備考：新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況を考慮し、本学の学生の参加及び仕事体験を取り止め、教員1名・事務局1名による対応に留めた。)

本学来訪者数：高校生20名（男性2名）、保護者8名

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ポストコロナ時代のオープンキャンパス開催方法を検討
- 高校生が利用しやすいHPへ改修
- YouTubeチャンネルの動画コンテンツの充実

#### 4.4.1.7 入学試験委員会

委員長：真田 弘美 教授（学長）

委員：紺家教授（副委員長）、小林（宏）教授、平居教授、亀田教授、市丸准教授、  
金谷准教授、西田事務局長

事務局：砂山専門員、小幡アドミッションアドバイザー

活動内容：

- 1 令和7年度から共通テストに導入される「情報」科目の本学での利用に関して検討し、その結果を公表した。
- 2 令和3年度より学校推薦型入試に導入した活動報告書を見直し、受験生が記載しやすいよう様式を改訂した。
- 3 学校推薦型選抜の受験状況を分析し、令和6年度入試から学校推薦型選抜の1校当たりの推薦者数の上限を見直した。
- 4 アドミッションアドバイザーによる高校訪問に加え、高校での進路ガイダンスや合同進学説明会に入学試験委員会委員を派遣した。
- 5 学部入試の面接評価方法等を見直した。
- 6 高大接続意見交換会の際に、石川県内に限定せず北陸3県の高校に参加を呼びかけた。また、会当日にはスキルラボや看護教育のDX化の実際を高校教諭の方々に見学できる機会を設けた。
- 7 「学都石川」高校教員向けキャンパスツアー事業にて、県外の高校教諭25名を対象に入試委員会にて本学の特徴を説明した。
- 8 本年度の本学の学部入試、大学院入試また大学入試共通テストにおいて、入試実施にかかわる重大なトラブルはなかった。

- 9 昨年度に引き続き、入試実施においては手指消毒、席の配置など新型コロナウイルス感染症対策を行った。また本学の個別学力試験において新型コロナウイルス感染症が理由で受験できなかったものに対して対応を準備したが、結果として対象者はいなかった。

#### 4.4.1.7.1 入学試験実施部会

部会長：非公開

部会員：非公開

活動内容：

1. 看護学部入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
2. 研究科入学試験の準備・実施体制およびそれに付随する業務
3. 大学入学共通テストの会場準備・実施体制およびそれに付随する業務
4. 看護キャリア支援センターが実施する感染管理認定看護師教育課程入学試験の実施支援

#### 4.4.1.7.2 入学試験評価部会

部会長：市丸 徹 准教授

部会員：非公開

活動内容：

<前年度までの課題>

学校推薦型選抜試験の「活動内容報告書」を導入した初年度となる。実施前は、評価者・高校への理解と周知をする。実施後は課題の洗い出しをする。

<今年度の目標・年度計画>

- ・大学入学共通テストの新科目「情報」の本学入試における取り扱いについて検討する。
- ・本学の推薦・社会人入試、一般入試における面接試験の点数配分を見直す。

<今年度の活動実績・評価>

- ・石川県下の高校における「情報」科目の教育支援体制を調査した結果、現状では不十分でありかつ高校間の格差が大きいため、本学入試への導入における公平性の確保は難しいとの評価を入学試験委員会に提出した。
- ・過去3年分の本学入試受験者における大学入学共通テスト、小論文、面接の各得点の情報を解析し、それらの相関および面接配点を変えた場合のシミュレーション結果をまとめ、入学試験委員会に提出した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ・「情報」科目の本学入試への導入を判断するための指標を検討する。
- ・本学の推薦・社会人入試、一般入試における面接試験の点数配分の変更に伴う合格者への影響を把握し、評価する。

#### 4.4.1.8 自己点検・評価委員会

委員長：真田 弘美 教授（学長）、岩佐 和夫 教授（委員長代行、学長補佐）

委員：今井（秀）教授（副委員長）、今井（美）教授（副委員長）、  
金子准教授（年報編集部会長）、川島教授（副委員長、学長補佐）、  
小林教授（研究科長）、紺家教授（学長補佐、附属看護キャリア支援センター長）、  
桜井教授（教務委員長）、塚田教授（附属地域ケア総合センター長）、西田事務局長、  
濱教授（教員評価部会長）、牧野教授（がんプロ総務委員長）、  
松田准教授（IR推進部会長）、美濃教授（FD委員長）、米田教授（学生部長）

委員長補助：河合助教、後藤助教、瀧澤助教

事務局：外主事

委員会開催頻度：6月、9月、11月、1月、3月 計5回開催

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 教育の内部質保証のための調査の準備と実施
2. 教員評価方法の検討
3. 本学独自のIRの探求と法人と連携したIRの探求

<今年度の目標・年度計画>

- 1) 大学評価における改善課題及び改善報告書の作成
- 2) 学習成果の測定・把握方法を検討
- 3) 教員単年評価の実施
- 4) エフォート率に基づいた教育、研究等の時間配分の検討
- 5) 本学のIRの探究
- 6) 年報内容の検討
- 7) 第3期中期計画作成に向けた提言

<今年度の活動実績・評価>

- 1) 大学評価における改善課題及び改善報告書の作成

学部・院の学位授与方針に定めた学習成果の測定・把握方法及び活用法の改善および内部質検証委員会の提言に対する活動内容を検討し、課題改善報告書の作成に着手した。

- 2) 学習成果の測定・把握方法を検討

教育の内部質保証の確保と評価を行うため、学生委員会、自己点検評価委員会で行っていた在学生および卒業生アンケートの見直しと統一化を計った。

FD委員会における授業アンケートの見直しを行った。

外部機関によるジェネリックスキルのアセスメントテスト（PROG調査）を行った。

- 3) 教員単年評価の実施

教員の評価を数値化し目標設定を明確にするために、自己評価にエフォート率、KGI・KPIを

取り入れた教員単年評価方法を検討し、評価シートを作成した。教員への説明会開催、コメント集約を行った後に教員自己評価の仮試行をおこなった。

4) エフォート率に基づいた教育、研究等の時間配分の検討

教員単年評価にエフォート率を取り入れ、自己の年間における教育・研究等の時間配分を評価し、研究におけるエフォート率を30%とすることを目標とすることを提言した。

5) 本学のIRの探究

IR推進部会より活動推進に向けたファイルサーバの整理、必要物品における提言を行った。

6) 年報内容の検討

教員毎の業績が把握できる年報内容となることを検討し、令和4年度年報から順次適用していくこととした。また、年報の項目を2026年に予定されている公立大学評価機構における報告書の記載内容に準拠させることを検討した。

7) 第3期中期計画作成に向けた提言

第3期中期計画作成にむけた自己点検・評価委員会の提言を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- 1) 大学基準協会における大学評価で示された改善課題報告書の提出（2023年7月末まで）
- 2) 公立大学評価機構における大学評価（2026年）に向けた本学における取り組みの評価と報告書の作成準備
- 3) 学生委員会、FD委員会、PROG調査の結果評価と学習成果改善に向けた方策を検討
- 4) 教員単年評価の試行と施行後評価
- 5) 本学のIR活動の推進と探究
- 6) 年報における個人業績の明確化と大学自己評価としての活用
- 7) 第3期中期計画における令和5年度計画の実施

#### 4.4.1.8.1 教員評価部会

部会長：濱 耕子 教授

部会員：寺井准教授

活動内容：

<前年度までの課題>

新しい教員評価の導入に伴い、1次評価面接を含めて業務の特性や役割に応じた個々の教員活動の客観視ができるよう、評価スケジュールの案内を継続することで、教員評価への全学的な意識を高めていく。

評価上のペナルティの判断や中途入職者の評価の取り扱いについて、一部の教員から意見聴取ができたが、統一した見解には至っていない。

<今年度の目標・年度計画>

1. 全学的に新単年評価に対して教員活動の改善や見直しができる機会という前向きな意識が高まり、仮試行が進捗できる。
2. 新単年評価体制の構築や評価シートの検討ができ、仮試行による課題や改善点が明らかになる。

#### <今年度の活動実績・評価>

##### (1) 学長、自己点検・評価委員長との意見交換による本学教員評価の方向性の確認

5月にこれまでの複数年評価体制の構築について学長、自己点検・評価委員長と意見交換を行った。その結果、教員個々が評価しやすく目標設定を明確にできるシンプルな定量評価であり、今後の大学のあり方としても毎年、教員活動の改善の機会に繋がるような単年評価の形態へ変更することが望ましいとの結論に至った。6月の教育研究審議会において部会長から新単年評価の素案を説明し、今年度に仮試行を進めることが決定した。

##### (2) 近年の単年評価の動向に関する情報収集と評価体制の構築

先ず、単年評価の体制を構築するにあたり、単年評価の近年の動向を探るため、他大学の評価領域と項目、評価方法（配点や自己アピールを含む）、評価結果の利用（顕彰制度やペナルティ等）を先行研究やホームページ等で確認した。その後、評価方法として評価領域別にエフォート率を設定し目標設定にKGI・KPIを取り入れることや、1次評価者（メンター）や2次評価者（学長）の関わりも含めた個々の教員活動が経年的に把握しやすいシステム化等、本学の方向性を検討した。

具体的には、エフォート率に基づいた教員活動の時間配分については、研究領域は最低30%を目標とすることを提言した。システム化については石川県立大学に尋ねたところ、自己点検・評価委員長が学科長・センター長との面接後の最終評価を電子データで保管し、直近3年の評価領域ごとの集計結果を教育研究審議会や教授会で報告する運びであり、特段のシステム化はしていないということであった。そこで、本学も同様に仮試行としてYドライブでアクセス権限の設定を行い、総務課長と学長が全教員の評価を電子データで把握できる状況にした。

また、自己点検・評価委員長と相談し、単年評価は評価年度を遡り、3年間の振り返りで毎年度評価することを決定した。2024～2026年度から評価実施クール、翌年の2027年度が初めて3年間の評価を表彰やペナルティの選定基準にする、不服申し立てがあった場合の評価者は該当年度で大講座の直属の上司でない教授や学長が再評価を確認した。

##### (3) 単年評価の体制を全学に浸透させる段階

8月の教員全体会議で自己点検・評価委員長から単年評価で使用するイメージの概説を行った。その後部会長から評価の具体的な理解のために9月の教授会、そして全学への説明会の機会に単年評価シート（素案ver.1）やその運用について提示した。

説明会アンケートの意見や11月の自己点検・評価委員会が出た意見（2次評価は数値化せず確認のみとする）にもとづき評価シート等の修正を行い、年明けからの仮試行に備えた。また、アンケートから聴取できた内容は、後の11月の自己点検・評価委員会を経て12月の教員全体会議にて、Q&A形式でフィードバックを行った。具体的には、入力担当者・入力部分の明示、教育・研究支援の評価内容の説明、社会貢献や管理・運営は1次評価者と相談のうえ5月の面接時に目

標記載してもよいこと、配慮希望欄の記載内容について説明した。

#### (4) 単年評価の具体的な評価スケジュールの案内と評価方法を紹介する段階

12月の教員全体会議では、自己評価仮試行における入力方法と提出方法、部会からの案内時期を確認した。仮試行の本番に備えて、各教員が評価に取り組み、自身が何をすべきかを見直す機会と理解してもらうための説明とした。若手教員やキャリア支援センターの教員においてエフォートが0%となる評価領域も出てくる可能性があるがそれでもよいこと、中途入職者の仮試行の評価は必須とせず個々の判断に任せることにした。今年度退職する教員には極力退職までに1次評価者と面接し、自己評価を行ってほしいと依頼した。

#### (5) 単年評価仮試行の実施

既に1月上旬から仮試行の評価プロセスが進行しているなか、全学に対して2月半ばに自己評価仮試行のスケジュール案内を行った。仮試行に関する問い合わせが計13件あり、部会で対応した。3月初旬に数名へ提出の呼びかけを行っているが、評価該当者全56名において単年評価の目標立案と1次評価者からの目標認証が終了した。今後は、5月の1次評価者との評価内容に関して面接、6月初旬には1次評価内容を確認し、7月中旬までに2次評価者を経て自己評価が確定する。

#### (6) 複数年評価に関して

複数年評価期間であった2020年度、2021年度分の評価は、1次評価者と「教員活動における複数年評価報告資料」（業績一覧）をもとに面接し、大学の評価内容として保管した。

#### <次年度以降に向けた課題・発展>

1. 単年評価仮試行状況の評価する目的で全学的なアンケートを行う。そこから新たな課題を探りつつ、2024年度の教員評価の改訂に向けて評価のあり方の見直しをする。
2. 教員評価を契機に1次評価者との相談体制をしくことで、講座での関係構築や、業務の円滑な進行等の波及効果が期待される。この点も仮試行後の評価に活かしていく。

### 4.4.1.8.2 年報編集部会

部会長：金子 紀子 准教授

部会員：中嶋（知）助教、額助教

事務局：外主事

活動内容：

#### <前年度までの課題>

部会休止中

#### <今年度の目標・年度計画>

1. 年報第22巻の発刊
2. 年報第23巻に向けた原稿依頼

#### <今年度の活動実績・評価>

1. 12月に第22巻を発刊した。
2. 第23巻の教員業績の原稿依頼は、教員評価部会作成の新様式と連動させることとし、執筆の負担軽減を図った。また講座単位での構成とすることが自己点検・評価委員会で決まった。これにより講座ごとおよび教員個々の業績が見やすくなる。

#### <次年度以降に向けた課題・発展>

新様式を活用した講座単位での教員業績となるため、校正依頼等が円滑となるよう進める。

### 4.4.1.9 FD委員会

委員長：美濃 由紀子 教授

委員：大西講師、田村講師

事務局：砂山専門員

活動内容：

#### 1. 新入職員のオリエンテーション

新入職員に対して、本学の学部・大学院教育および研究、地域ケア総合センター、看護キャリア支援センター、図書館についてのオリエンテーションを行った（4月、10月）。学部・大学院教育のオリエンテーションはオンライン（Zoom）にて実施（録画あり）し、その他のオリエンテーションはオンデマンド型の受講とした。個人のスケジュールに合わせて視聴が可能であった点や再視聴できる点において、受講者からはより理解しやすかったという声が聞かれた。

#### 2. 教員の教育力の改善と向上のためのFD研修

##### 1) 県立大学との合同FD研修会

石川県立大学との合同FD研修会：8月24日にオンライン（Zoom）にて開催した。テーマは、「次世代看護教育・研究へのDXの導入 -VR, AR, アバターロボット等の活用に向けて-」とし、松本勝准教授（成人看護学）に講演いただいた。研修会の参加者数は、県立看護大40名、県立大35名の計75名であった。評価アンケートの回答率は68%であり、約96%が満足と回答していたことから、受講者のDXに関する理解に貢献したものと評価できた。

##### 2) 大学コンソーシアム石川FD・SD研修会

教職員研修専門部会による大学コンソーシアム石川第5回FD・SD研修会：12月22日にオンライン（Zoom）にて開催した。「看護教育・研究へのDXの導入 -石川県立看護大学での取り組み-」というテーマで、松本勝准教授（成人地域看護学）に発表いただいた。

##### 3) 教育力向上のためのFD研修会

FD委員会主催（学長企画）によるFD研修会：12月27日に全教員対象として対面にて開催した。『「教えるを学ぶエッセンス」を学ぶ』というテーマにて、教育開発者の杉森公一先生より、学習者の能動的な学びを促す教え方をどう磨けばよいのかについて講演いただいた。評価アンケートからは、回答者全員が満足したと回答しており、特にハイフレックス型の講義を体験できたことが、今後の自身の講義実践に役立ったという回答が得られた。

##### 4) ハラスメントFD研修会

FD委員会主催（ハラスメント委員会共同企画）によるFD研修会：R4年2月9日にオンライン（Zoom）にて開催した。全教員を対象として、本学のスクールカウンセラーである堂本

彩未先生より、『スクールカウンセラー活動の実際と大学内連携』というテーマで、学生のカウンセリング利用の実態とカウンセリングの活動の実際について報告いただいた。研修会の参加者数は49名であり、評価アンケートの回答率は87.8%であった。98%が満足と回答しており、本研修によって、スクールカウンセラーと教員との効果的な連携について考えるきっかけになったと評価できた。

#### 5) 教職員に向けた研修に関する広報活動

石川県や他県の大学コンソーシアム、他大学等が開催する先進的な教育力向上のFD研修への参加を教員に促し、そこで得られた情報を随時メールにて発信し共有した。

### 3. 学生による授業評価の実施

#### 1) 授業評価の実施・評価・分析

前期と後期の2期に渡って、Moodle「学習管理システム (Learning Management System; LMS)」を用いて、学生による授業評価を実施した。授業評価の結果は、評価アンケートの回収率、各科目・質問項目ごとの得点を集計し、平均得点を一覧表にまとめた。結果としては、学生の総合的満足の評価は高く、「授業準備」の項目が特に高かった。自由記載については、科目ごとにポジティブな回答とネガティブな回答が混在していた。これらの評価結果を担当教員にフィードバックし、授業改善に活用するように呼びかけた。課題としては、「アンケート回収率の低さ」があげられた。今度、適切な評価を行うためには、回収率の改善は必須課題であり、担当教員へ回収率の増加に向けた工夫を行うこと、教員自身も学生評価に対する意識を高めるよう周知した。

#### 2) 次年度の授業評価項目の検討・修正

学生の授業評価アンケートの回答率の低さが今年度の課題としてあがっており、その背景には学生側の負担も考えられるため、学生委員会と合同で、アンケート項目の見直しとすみわけの作業を行った。次年度の授業評価に向けて、項目の検討・修正を行った。

## 4. 4. 1. 10 ハラスメント委員

委員長：真田 弘美 教授

委員：小林（宏）教授、岩佐教授、米田教授、紺家教授、塚田教授、西田事務局長

ハラスメント相談員：岩佐教授、田村講師、大江講師

活動内容：

<前年度までの課題>

- ①2022年4月からのパワーハラスメント防止措置の義務化についての学内への周知
- ②ハラスメントのないキャンパスの醸成

<今年度の目標・年度計画>

- ①パワーハラスメント防止措置として研修会の開催
- ②ハラスメントのないキャンパスの環境整備
- ③ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処

<今年度の活動実績・評価>

- ①新学期のガイダンスで学生と教職員にパワーハラスメント防止措置の義務化と相談体制等

について周知した。

- ②ハラスメントの起こりにくい環境として、個室あるいは3名以上の配置となるよう研究室整備を行った。
- ③FD委員会と合同で2022年11月にハラスメント研修を実施した。
- ④ハラスメントとして委員会に2件申請があり、提訴者から聞きとりを行い、適切に対応した。
- ⑤ハラスメントとしての申告ではないが、学生と教員から5件の相談があった。
- ⑥ハラスメントの適切な対処のために弁護士を入れて対応できる体制を見直した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

- ①ハラスメントのないキャンパスの醸成
- ②ハラスメント事案が生じた場合の適切な対処

#### 4.4.1.11 コンプライアンス委員会

委員長：小林 宏光 教授

委員：西田事務局長

事務局：林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

前年度までに本学において研究倫理・コンプライアンスに関する重大な問題は生じていないが、これを継続しコンプライアンス遵守の風土を醸成する。

<今年度の目標・年度計画>

研究会の実施など倫理委員会や総務課など関連部署と連携し、教職員のコンプライアンス意識の向上を図る。

<今年度の活動実績・評価>

令和5年3月3日（金）2限にコンプライアンス委員会・倫理委員会・情報セキュリティ委員会の合同研修会を開催した。内容は以下のとおりである。

1. 研究不正に関する最近の動向と法令順守（コンプライアンス委員会・総務課）
2. 情報セキュリティに関する説明・注意喚起（情報セキュリティ委員会）
3. 来年度からの倫理申請手順について（倫理委員会）

当日参加できなかった方への配慮として、説明会の内容を録画し後日参照できるようにした。本年度の新たな試みとして、説明会内容の理解を確認するためのオンライン小テストを実施し、合格者に受講証を発行した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

来年度も引き続き研修会を開催する。今年度実施したオンライン小テストは比較的スムーズに実施できたことから、来年度以降も内容を吟味しつつ継続したい。

#### 4.4.1.12 倫理委員会

委員長：小林 宏光 教授（研究科長）

委員：米澤教授、今井（秀）教授、松本（勝）准教授、木森准教授、大江講師、大西講師

事務局：谷口主任主事

活動内容：

<前年度までの課題>

本学の倫理委員会の厚生労働省の研究倫理審査委員会報告システムへの登録を検討することが前年度からの課題として引き継がれている。

<今年度の目標・年度計画>

①倫理審査を適切かつ迅速に行い、本学の教員・学生の研究推進を図る。

②前年度からの課題である研究倫理審査委員会報告システムへの登録を進めるとともに、これに付随する規定や手順などの整備を進める。

<今年度の活動実績・評価>

①倫理審査の実施

本年度1年間で一般審査53件、迅速審査22件で計75件の審査を行った。R3年度は64件であり20%ほどの増加であった。

②倫理審査手順書の作成および厚生労働省の研究倫理審査委員会報告システムへの登録

これまで整備されていなかった本学の倫理審査手順書を作成し、またこれに伴い倫理関係の規定の変更も行った。また厚生労働省の研究倫理審査委員会報告システムに本学倫理委員会の登録を行った。

③倫理研修の実施

R5年3月3日に学内教職員向けにコンプライアンス合同説明会を行った。この説明会はコンプライアンス委員会、情報セキュリティ委員会と合同開催であったが、倫理委員の米澤教授および木森准教授が「来年度からの倫理申請手順について」と題して40分ほど説明を行った。

<次年度以降に向けた課題・発展>

次年度より新しい手順による倫理審査が始まることから、この新手順の円滑な運用および、必要な見直し等を行うことが来年度の課題である。

#### 4.4.1.13 衛生委員会

委員長：西田 義明 事務局長

委員：岩佐教授、千田助教、河合助教、野川囑託、中川産業医

事務局：外主事

活動内容：

1. 職場巡視

職場巡視前に職員からメールにて情報収集を行ったうえで、3回〔6月、12月、3月〕職場巡視を実施し、学内の施設・設備等の安全衛生管理（新型コロナウイルス感染拡大防止も含む）が適切か確認した。

#### 2. 定期健康診断

受診状況を調査し、「職員保健だより（春号）」やメールにて職員に受診を勧奨した。

#### 3. ストレスチェック、長時間労働

法人の指示に基づき、職員のストレスチェックを7月19日～8月2日に実施した。

職員（転任、新任を含む）にリーフレット「自分の時間外労働について考えよう 働き過ぎて疲れていませんか？」（衛生委員会作成）を配布した。

#### 4. 防災訓練

防火管理者の主導のもと、職員及び学生の防災訓練を7月12日に実施した。コロナ禍のため新しい生活様式を考慮した訓練とした。地震対応訓練の実施と避難経路や消火栓・消火器、AED、車椅子等の設置場所、消火隊の組織や役割等の説明を行うとともに、動画視聴により消火・避難訓練の方法を確認した。

#### 5. 「職員保健だより（春号）（冬号）」の発行

春号では、定期健康診断の受診勧奨について掲載した。冬号では、コラム「口と健康」、ストレスのセルフケアについて掲載した。

## 4.4.2 特設委員会

### 4.4.2.1 基礎科学教育拡充ワーキング

委員長：市丸 徹 准教授

副委員長：真田教授（学長）

委員：小林教授、垣花教授、松田准教授、工藤講師、今井（美）教授、岩佐教授、  
今井（秀）教授、平居教授、木森准教授、紺家教授、峰松教授

事務局：南主事

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 基礎科学教育等の拡充のため必要な施設整備や備品等を検討
2. 大型機器・設備の導入と維持を支える恒常的な支援体制の提案

<今年度の目標・年度計画>

基礎科学教育等の拡充のため必要な施設整備や備品等を検討する。

<今年度の活動実績・評価>

備品購入予算の根拠資料が残っておらず、活動を中止した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

なし。



## 4.5 令和4年度 卒業研究論文題目一覧

領域または科目群	氏名	論文題目
人間科学領域 (8人)	荒川 星来	ベビーカー走行時の振動計測 －人形に伝わる振動の大きさと周波数の分析－
	田本怜和那	ナイチンゲールがLieutenant-Colonel Bairdに宛てた書簡の解題
	平塚 芽衣	ベビーカー走行時の振動計測－歩行速度による振動の特性の変化－
	古市 希亜	スモールチェンジ活動が労働者の身体活動や健康状態に及ぼす影響
	松田 遥奈	ベビーカー走行時の振動計測 －3輪と4輪のベビーカーの違いによる振動特性の変化－
	宮西 希実	イリノイ大学フローレンス・ナイチンゲール自筆書簡コレクション Queen Victoria宛の手紙の転写・解題・考察
	山岸 未侑	緩やかな起伏のある地形を利用したウォーキングの運動効果
	横山 希帆	「スモールチェンジ」方略による地域在住高齢者の健康づくり －運動習慣のある高齢者を対象に－
健康科学領域 (13人)	石山 桃佳	HPVワクチンキャッチアップ接種世代の子宮頸がん予防に関する知識 と態度の状況について－接種経験者の接種回数別の検討－
	奥野 日菜	食道がん、胃がん、肝及び肝内胆管がんの年齢調整死亡率と栄養素 摂取量との関連について－都道府県別データを用いた検討－
	氣谷 理帆	認知症とオーラルフレイルに関する研究 －栄養指標と食事内容の視点から－
	北橋 英幸	ハマボウフウの新規生物作用に関する基盤的研究
	北村 晴香	月経周辺期の女性がパートナーに求める関わり方
	久保 優花	HPVワクチンキャッチアップ接種世代の子宮頸がん予防に関する知識 と態度の状況について－接種経験別の検討－
	染谷 佳那	リモートワークによる労働者のメンタルヘルスに関する研究
	谷元 美紗	タッチングにおける触れられる部位と性別による感じ方の違い
	直江 桃菜	ALS患者における症状の進行に応じた意思伝達装置の使用に関する問題 についての文献検討
	永田 夏美	ALS患者の長期療養生活に楽しみがもたらす生きがいについての文献 検討
	浜本花奈美	乳がん、子宮がんおよび卵巣がんの年齢調整死亡率と食品群の摂取量 との関連について－都道府県別データを用いた検討－

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
健康科学領域 (13人)	山岡 由芽	日本人男性の下部消化器系がんの年齢調整死亡率と食品群の摂取量との関連についてー都道府県別データを用いた検討ー
	吉田 里菜	石川県下の病院における看護師の生理休暇の実態
基礎看護学 (11人)	浅谷 純菜	SDGs研修会に参加した看護学生の社会人基礎力の特徴
	泉 陽菜	地域の特性から見たSDGs未来都市計画に関する比較研究
	小田原羽海	地域高齢者によるとろみ溶性水性食品の味覚強度とおいしさの評価
	角田 真優	大学生のSNS利用と対人関係能力の関連 ー2021年から2022年の文献検討ー
	神本 彩耶	高等学校におけるESDを基盤としたSDGs教育に関する文献検討
	佐藤 彩菜	ポケットサイズ型超音波診断装置で測定した下大静脈径に座位時間が及ぼす影響
	高橋 真美	看護学生における手荒れ予防の知識と教育へのニーズに関する実態調査
	瀧澤 梨乃	妊婦や育児中の母親の防災への意識と備えに関する文献検討
	丹羽 若菜	壮年期の慢性心不全患者が働きながら自己管理をする中で体験した困難とその対処
	塗師和佳奈	看護学生の手指衛生と手荒れ予防行動の実施状況と手荒れとの関連性
	松本 華奈	地域高齢者によるとろみ溶性水性食品のとろみ強度と飲み込みにくさの評価
母性看護学 (8人)	石垣 結	低出生体重児の発達に影響を及ぼす要因についての文献検討
	上田 芽依	HPVワクチンの男性接種の認識に関する文献検討 ー国外の文献から日本での接種率向上を目指す支援を考えるー
	北村 悠帆	妊婦や家族の出生前検査受検にまつわる思いについての文献研究
	小浦 紗耶	病院受診時におけるLGBT当事者と看護師の困惑に関する文献検討
	酒井菜々子	思春期男子に向けた親から受けた性教育の実際と家庭内性教育への支援に関する文献検討
	谷田きなり	不妊治療中の女性の体験と思いに関する文献検討
	中村 玲菜	帝王切開術を受けた女性の心理的变化と看護援助の在り方
	林 雪乃	不妊治療中の男性の体験・思いに関する文献検討

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
小児看護学 (3人)	池島 梨紗	看護学生の防災意識と関連する要因の検討 －防災意識と災害への備えの関連から－
	中嶋 夏海	看護学生の防災意識と関連する要因の検討 －これまでの経験に焦点をあてて－
	西渡 千恵	看護学生の防災意識と関連する要因の検討 －防災教育との関連から－
成人看護学 (16人)	内潟 瑠菜	皮膚・排泄ケア認定看護師によるオンライン褥瘡回診によりケア支援を受けた療養病棟の看護師の思い
	岡村 涼花	認知症高齢者の行動心理症状（BPSD）を緩和する具体的な看護援助に関する文献検討－転倒予防ケアに焦点を当てて－
	飼沼菜々子	終末期がん患者の食事に対する思い
	角田あすか	看護師を対象としたグリーフワークで語りの内容
	河村 唯	急性期看護学実習における看護学生の困難感と学びのプロセス －術後観察場面に焦点を当てて－
	下橋 和也	初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証：対面教育と遠隔ライブ教育の比較
	杉浦 裕愛	初学者を対象とした非対面での膀胱エコー教育による技術習得度に対する効果検証：対面教育とVRオンデマンド教育の比較
	染谷 実那	ポータブル測定器を用いたスキンプロットティングによるアデノシン三リン酸（ATP）測定法と前処理法の研究－褥瘡発生を予測するATPポイントオブケア検査の開発－
	田中 愛莉	セルフモニタリング心エコーによる心不全療養者の再入院予防 －高齢者による下大静脈の描出に向けた実現可能性の検討－
	田中 亜美	アデノシン三リン酸のポータブル測定装置を用いたスキンプロットティングによるマウス皮膚の圧迫による組織損傷の評価：褥瘡予測ポイントオブケア検査の開発
	田之尻らら	ポータブル検査装置を用いたアデノシン三リン酸（ATP）スキンプロットティング検査の信頼性の検証：褥瘡発生を予測するポイントオブケア検査の開発
	寺井 萌	急性期看護学実習における看護学生の困難感と学びのプロセス －清潔ケア・コミュニケーション場面に焦点を当てて－
	藤尾 大夢	セルフモニタリング心エコーによる心不全療養者の再入院予防 －遠隔指導にAR技術を援用した健常成人による下大静脈の描出に向けた実現可能性の検討－
	本田 暖人	緊急入院かつ緊急手術をすることになった患者の家族の思い
山崎 菜月	終末期がん患者に関わった看護師がデスカンファレンスを通して得られた心情に関する文献研究	
山本 翔子	膀胱エコー教育に対する初学者の主観的評価：対面教育と非対面教育の比較	
老年看護学 (5人)	荒井 愛実	認知症高齢者の家族介護者の日常生活におけるふれあいの実態
	沖田 真依	高齢患者の術後せん妄予防のための看護介入に関する文献検討

領域または科目群	氏 名	論 文 題 目
老年看護学 (5人)	津田 珠海	就寝前の温浴による認知症高齢者の夜間睡眠への影響(予備的調査)
	松村 愛	認知症の診断告知が家族に与える影響と家族が必要とする支援
	山下 茉鈴	療養病床等に入院中の高齢者の拘縮予防・改善のために看護師が行うケアに関する研究
地域看護学 (5人)	源 千尋	都市部と過疎地域における孤立の要因についての文献検討
	越山 遥香	日韓両国の女子大学生の瘦身願望と健康に影響を及ぼす要因についての文献検討
	田中 佑佳	ICTを活用した保健活動の実態に関する文献検討
	西村 悠菜	高齢者の水平組織への社会参加で得られる精神的効果に関する文献検討
	前濱明日香	低出生体重児とその母親の在宅移行支援において保健師に求められる役割に関する文献検討
在宅看護学 (5人)	川畑 佐奈	地域連携の状況がコロナ禍の訪問看護に与えた影響についての文献検討
	北川 るな	セルフ・ネグレクト高齢者の支援に関する文献検討
	嶋田さくら	石川県における新型コロナウイルス感染症流行以降の特別養護老人ホームでの面会制限の状況と看護師の看取りに対する認識
	高畠 唯	在宅での看取りに関連する住民の認識 ー石川県内灘町を対象としてー
	町田 瑞季	精神疾患を抱える療養者の在宅移行期における家族支援に関する文献検討
精神看護学 (5人)	加藤今日子	生理学的指標からみたタクティールケアの効果についての文献検討
	岩田 一花	通常学級に通う発達障害児や発達障害が疑われる児童生徒およびその保護者を対象とした養護教諭の実践する支援の現状
	木谷 朱里	怒りを表出した患者との関わりの再検討 ープロセスレコードを用いてー
	竹内 雅結	医療観察法に基づく通院処遇対象者への訪問看護に関する文献検討
	平塚 唯衣	精神科病棟において身体疾患を併発した終末期患者の看護の方向性 ー文献検討を通じてー

## 5. 大学院・看護学研究科

---

### 5.1 理念・目標

#### 5.1.1 博士前期課程（修士）

##### 5.1.1.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中において、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

##### 5.1.1.2 教育目標

###### 1. 看護教育を支える教育・研究職の育成

本課程では、学部で蓄積された看護学に関する成果を、さらに深化・発展させることによって時代と地域の要請に応えるため、看護学分野における学術上の先端的役割を担うとともに、知識の体系化と看護技術の開発を積極的に推進し、看護学の学問体系の構築に貢献する教育・研究職の人材を育成する。

###### 2. 高度な専門的知識・技術・実践能力を備えた看護職者の育成

実践現場において当面する種々の問題について、体系的、継続的に研究を行い、合理的に問題解決できる人材や、看護職に対する指導・相談、関係する職種間の総合的調整能力、ケアの環境条件を積極的に改革していく役割を担う人材の養成が求められている。そうした要請に応えるため、専門看護師（CNS:Certified Nurse Specialist）の養成を図り、もって地域の看護の発展に一層寄与する高度専門職業人を育成する。

###### 3. 女性の一生を通じた性と生殖に関わる健康を推進できる助産師の育成

時代の流れや社会情勢に高い関心と洞察力を持ち、多様化する女性の生き方や家族のニーズ、専門化・複雑化する助産に対応できる人材や、保健・医療・福祉に携わる多職種と積極的に連携・協働し、継続的に援助を推進できる人材の養成が求められている。そうした要請に応える助産師の養成を図るとともに、助産学の発展に寄与する専門職業人を育成する。

###### 4. 生涯にわたって研鑽できる看護職の知的交流の場づくり

日々進歩・発展する医療技術と看護環境の変化に機敏に対応し、看護の知識と技術の向上を図るため、看護の実践現場と教育・研究の場の交流を活発にし、地域が要望する質の高い看護サービスの提供を図っていく。そのためには、学部の社会人入学に加えて、卒業後の継続教育、社会人の再教育の場を提供する必要がある。本課程は、このような向上心旺盛な学部卒業生や社会人の受け皿としての機能を持ち、看護現場のより一層の質の向上のために寄与することを目指す。

### 5.1.1.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

本学の看護学研究科では、入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 幅広い基礎学力を有し、かつ希望する専攻分野の基礎知識を有する人
2. 人間や社会に対して広く興味を持ち、豊かな人間性と高い倫理観を有する人
3. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人
4. 専門看護師コース志望者は、対応する分野の実務経験を有し、専門看護師の資格取得を志す人
5. 助産実践コース志願者は、助産師の免許取得を志す人

### 5.1.1.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士前期課程では、より卓越した看護実践能力と高い研究能力を有し、看護学の研究や教育、看護実践・管理に携わることのできる研究者・教育者・高度看護実践者を育成する。研究コースに加え、専門看護師コースと助産実践コースを設け、次のような教育課程を編成している。

1. 広い視野で看護を学ぶための学際的な科目から構成されている「共通科目A」、科学的根拠に基づいた高度な看護実践能力を育成するための「共通科目B」、各研究教育分野におけるより深い専門性を学ぶ「看護専門科目」を置いている。
2. 国際的な視野を持ち、より効果的な看護を探究し提供していくために、海外の招聘教員による国際看護を学ぶ科目を置いている。
3. 論文作成にあたっては、研究計画の中間報告や複数教員による、組織的で計画的な研究指導体制をとっている。
4. 専門看護師コースでは、特定分野におけるケアとキュアを融合した看護実践力、保健医療福祉チーム内の調整力などの育成をめざし、看護実践力の高い専門看護師とタイアップして日本看護系大学協議会で認定された専門看護師教育を展開している。
5. 助産実践コースでは、助産師免許取得に必要な科目のみならず、多職種と連携してハイリスクに対応でき、多様な年代の性と生殖に関わる健康課題に応えられる専門的知識・技術や倫理的態度を育成する科目を置いている。

### 5.1.1.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、次のような研究能力や看護実践能力を有する者に修士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護学に寄与する修士論文の作成を通して、学際的で深い科学的知識を基にした体系的な研究方法を修得している。
2. 専門看護師コースでは、1に加えて特定の看護分野における高度な知識と技術を修得している。さらに、総合的な判断力をもって組織的に問題解決をはかる能力を身につけている。
3. 助産実践コースでは、1に加えて専門化・複雑化する助産分野に対応できる助産実践能力と助産管理の基盤となる能力を修得している。さらに、女性のライフサイクル全般の性と生殖に関わる健康課題に応える能力を身につけている。

## 5.1.2 博士後期課程（博士）

### 5.1.2.1 教育理念

「人間の生命や生活の質を真に理解できる豊かな人間性ととも、専門的職業人としての基盤を備え、保健・医療・福祉の幅広い領域で、県民の健康と福祉の向上に貢献できる看護職及び看護指導者を育成する」という本学の教育理念を受け継ぎ、深化・発展させる。看護を取り巻く状況が高度化・複雑化・専門化する中であって、より質の高い効果的な看護を構築・提供するために、学際的で深い科学的知識と高度の研究能力を有して看護学教育・研究・実践に携わることのできる教育者・研究者・高度専門職業人を育成し、看護学の一層の確立と看護実践の発展に努める。

### 5.1.2.2 教育目標

#### 1. 看護学や看護実践の発展に寄与する教育者・研究者の育成

看護・保健・医療・福祉を取り巻く環境の変化や地域の要請に対応することができる高度で専門的な知識・技術と、総合的判断力、リーダーシップを備えた看護職を養成する。また、これまで蓄積された経験知や実践知に基づいてより効果的な看護ケアプログラムを開発していくとともに、健康に関する人々の反応や看護援助にまつわる専門的知識を系統的に理解し、諸科学の知見と関わらせながら看護学をさらに体系化し、かつ現代社会の変化や趨勢に照らして看護が果たすべき役割を発展的、科学的、体系的かつ原理的に探求していくことができる教育者・研究者を育成する。

#### 2. 科学的な理解に基づいて看護をデザインできる研究者の育成

地域社会並びにそこで生活するあらゆる健康レベルの人々やその家族に対して総合的なヘルスケアをデザインするために、高度な理論・方法など学際的な知識体系を修得・活用して新しい看護実践方法、環境、用具等の開発を行なう。さらに、それらの実践の場における有用性の検証を図り、実践に活かせるエビデンスを明らかにできる研究者を育成する。

#### 3. 対象の特性を踏まえた看護を実践できる研究者の育成

効果的な看護ケアプログラムの開発、あるいは対象者個々の個別性を踏まえ、その人たちが帰属する地域の文化的特性を踏まえた看護援助の開発、エビデンスに基づいた看護援助法の確立をめざした高度の研究を継続的に推進していくことのできる研究者を育成する。

### 5.1.2.3 アドミッション・ポリシー（求める人材）

入学者選抜試験を実施し、以下の資質を有する優秀で意欲ある人材を幅広く求めています。

1. 実務経験を有し、看護学への探求心を有する人
2. 看護学研究に対する高い動機と学びに必要な基礎的研究能力を身に付け、自立して学修する姿勢を有する人
3. 看護学や看護実践の発展に寄与する意志を有する人
4. 看護学を通じて地域社会及び国際社会に貢献する意志を有する人

#### 5.1.2.4 カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施方針）

博士後期課程では、看護学や看護実践の発展に寄与する研究者・教育者を育成するために、教育課程においては次のような点を重視している。

1. 広い視野で看護学の学的基盤を見据え、看護実践のもととなる原理を解明する能力や人々の健康ニーズに役立てる能力を身につけるために、研究計画の中間報告や複数教員による組織的、かつ計画的な研究指導体制をとっている。
2. 学位論文の審査にあたっては、他の大学院等の教員を審査委員に加える等、論文の質の向上と客観性の確保に努める。

#### 5.1.2.5 ディプロマ・ポリシー（学位授与に関する方針）

所定の単位を修得し、看護学や看護実践の発展に向け、学位論文において新しい知見を産出し、自立した研究活動に必要な能力を有する者に博士（看護学）の学位を授与する。

## 5.2 大学院生の入学・在学・修了の状況

### 1. 入学の状況

#### 1) 入学定員・収容定員

課 程	単位 (人)	
	入学定員	収容定員
博士前期課程	15	30
博士後期課程	3	9

#### 2) 試験実施日

	実施日
博士前期課程入学試験 (学内選抜)	令和 4年 7月 2日 (土)
博士前期課程入学試験	令和 4年 9月17日 (土)
博士前期課程入学試験 (第2次募集)	令和 5年 1月28日 (土)
博士後期課程入学試験	令和 4年 9月17日 (土)
博士後期課程入学試験 (第2次募集)	令和 5年 1月28日 (土)

#### 3) 受験状況等

	単位 (人、倍)					
	募集定員	志願者数	受験者数	合格者数	実質倍率 C/D	入学者数
博士前期課程	10	6	6	6	1.0	5(4)
博士前期課程 (2次)	若干名	4	3	3	1.0	3(2)
博士前期課程助産	5	5	3	3	1.0	3(3)
博士前期課程助産 (2次)	若干名	1	1	1	1.0	1(1)
博士後期課程	3	1	1	1	1.0	1(1)
博士後期課程 (2次)	若干名	6	6	5	1.2	5(5)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す  
博士前期課程には学内選抜を含む

### 2. 在学の状況 (令和5年3月1日現在)

課 程	単位 (人)		
	1年次	2年次	計
博士前期課程	9(9)	18(14)	27(23)

課 程	単位 (人)			
	1年次	2年次	3年次	計
博士後期課程	1(1)	4(4)	12(11)	17(16)

( ) の数字は内数であり女性の数を示す

3. 修了の状況

1) 修了者数と修了後の進路状況（令和5年3月31日現在）

単位（人）

課 程	修了者数	修了後の進路
博士前期課程第18期生	15(14)	医療機関、教育機関
博士後期課程第15期生	5(5)	教育機関

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

2) 修了後の進路状況（令和5年3月31日現在）

(1) 博士前期課程（第18期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	6	4	10(9)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	2	1	3(3)
保 健・福 祉 機 関	1	0	1(1)
合 計	9	5	14(13)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
進 学 大学院博士後期課程	0	0	0(0)
そ の 他 ・ 未 定	1	0	1(1)
合 計	1	0	1(1)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

(2) 博士後期課程（第15期生）

単位（人）

区 分	県内	県外	合計
	人数	人数	人数
就 職 医 療 機 関	0	0	0(0)
研 究 機 関	0	0	0(0)
教 育 機 関	2	3	5(5)
保 健・福 祉 機 関	0	0	0(0)
未 定	0	0	0(0)
合 計	2	3	5(5)

（ ）の数字は内数であり女性の数を示す

## 5.3 大学院教務学生委員会

委員長：小林 宏光 教授

委員：石川教授、亀田教授、美濃教授、中道准教授

事務局：河端教務学生課長、林専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

大学院の教育研究環境の一層の充実をはかり、また修士。博士論文の質的な向上も目指す。

<今年度の目標・年度計画>

大学院教育に係る業務を滞りなく執り行う。また大学院の教育研究環境の一層の充実をはかり、また学生の年限内での修了を促進するために必要な処置を検討する。

<今年度の活動実績・評価>

年度当初の新入生ならびに在学生へのガイダンスの実施、中間発表会の実施、論文発表会の実施、大学院教育懇談会の実施、修了生のアンケート調査の実施など、例年通り大学院教育に係る業務を担当した。

今年度は大学院教育体制の大幅な見直しを進めた。変更点の1つは大学院研究指導教員の拡充である。大学院研究指導教員資格の基準の見直しを行い、特に後期課程において研究指導できる教員の数を大幅に拡充した。もう一つの変更点は博士の学位審査プロセスおよび学位申請要件の変更である。来年度から博士の学位申請は年間を通じて随時申請できるようになり、また年限内の学位取得を促進するため来年度入学生から学位申請時に求められる要件を変更した。

<次年度以降に向けた課題・発展>

次年度以降、特に博士後期課程においてはこれまでと大きく異なる手順で学位審査が行われることになるため、これを滞りなく運営し、問題点があれば改善していくことが来年度の課題である。

## 5.4 令和4年度 修士論文題目一覧

分野	氏名	修士論文題目	指導教授
看護管理学	小西千恵子	新人看護師の入職後1年間におけるコミュニケーション能力の変化と影響要因	石川 倫子
看護管理学	大岩 麻紀	女性看護師が末子の就学後もキャリアを継続するための課題と調整行動	石川 倫子
看護管理学	中川 智絵	看護師長が所属部署の課題達成に向けて看護師と協働するための行動	石川 倫子
女性看護学	西 真理子	病産院の助産師が行う2週間健診を中心とした産後健診における母親へのメンタルヘルスケアの実践	米田 昌代
子どもと家族の看護学	松本 郁海	事業所におけるAYA世代がんサバイバーの就職に対する対応の実態と対応に影響する考え方	小林 宏光
成人看護学	池上 暁	便秘のある進行がん患者をケアする訪問看護師の困難感の経験	牧野 智恵
成人看護学	天日 更織	新型コロナウイルス感染拡大により面会制限を受けた終末期がん患者の家族の経験	牧野 智恵
老年看護学	須田さや香	手術を受ける認知症を有する高齢患者に対する手術看護認定看護師の臨床判断	川島 和代
老年看護学	宮本菜々恵	認知機能低下を認めた高齢者と家族がもの忘れ外来受診に至ったプロセス	川島 和代
在宅看護学	牛村 春奈	Parkinson病の口腔機能と栄養 ー舌圧と咀嚼能率は栄養摂取量と関連するー	桜井志保美
助産看護学	岡田 岬	COVID-19流行下における妊婦の不安やストレスに対する対処経験と求める支援	米田 昌代
助産看護学	村上 あゆ	夫婦で育児をしていくために開業助産師が行う支援 ～コペアレンティングに着目して～	米田 昌代
助産看護学	中村知奈実	未就学児を持つ父親の在宅型テレワーク下における育児状況と育児ストレス	亀田 幸枝
助産看護学	登美 礼子	性成熟期の男女別にみた妊孕性知識と関連要因	亀田 幸枝

## 5.5 令和4年度 学位論文題目一覧

氏 名	学 位 論 文 題 目	指 導 教 授
阿川 啓子	乳幼児期の先天性心疾患児を持つ母親の育児に関する自律へのプロセスー訪問看護に着目してー	塚田 久恵
木村 一絵	地域保健におけるChild-Adult Relationship Enhancement (CARE) プログラム実施の効果ーランダム化比較試験ー	米澤 洋美
石井 和美	臨床での皮膚清拭のケア技術に関する実験的研究 ー綿タオルと不織布タオルによる拭き取り効果および清拭圧の比較ー	小林 宏光
片桐 覚子	日本人妊婦のQuality of Life 尺度の開発	濱 耕子
瀧澤 理穂	子どもに自己の病名を伝えることに悩む乳がん患者への看護支援	牧野 智恵

## 6. 教員の業績

### 6.1 学長

所属（講座等）・職位	老年看護学講座・教授	氏名	真田 弘美
------------	------------	----	-------

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p><u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．南江堂，東京，2023.3</p> <p><u>真田弘美</u>：現代の高齢者とその理解．<u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．1-16，南江堂，東京，2023.3</p> <p>東村志保，<u>松本勝</u>，大江真琴，<u>真田弘美</u>：排泄．<u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．65-84，南江堂，東京，2023.3</p> <p>仲上豪二郎，<u>真田弘美</u>：褥瘡．<u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．252-250，南江堂，東京，2023.3</p> <p>東村志保，大江真琴，<u>真田弘美</u>：尿失禁．<u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．251-259，南江堂，東京，2023.3</p> <p>東村志保，大江真琴，<u>真田弘美</u>：認知機能障害の看護（アルツハイマー病）．<u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．395-411，南江堂，東京，2023.3</p> <p><u>峰松健夫</u>，北村言，<u>真田弘美</u>：老年看護の将来に向けた看護技術の動向．<u>真田弘美</u>，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する．452-458，南江堂，東京，2023.3</p> <p>正木治恵，<u>真田弘美</u>（編集）：老年看護学概論（改訂第4版）「老いを</p>

注1) 本学の教員の氏名の下にはアンダーライン

注2) 本学の学生・院生（卒業・修了生含む）の氏名の下にはアンダーラインかつ氏名の前にアスタリスク（\*）

	<p>生きる」を支えることとは. 南江堂, 東京, 2023. 3</p>
<p>学術論文</p>	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>Higashimura S, Tamai N, Nakagami G, Tobe H, <u>Sanada H</u>: A Pilot Epidemiological Study on Chronic Dehydration of Older Adults in Home Care Setting. <i>Journal of Nursing Science and Engineering</i>, 9, 123-135, 2022. 2</p> <p>Noyori S, Nakagami G, <u>Sanada H</u>: Non-invasive urine volume estimation in the bladder by electrical impedance-based methods: A review. <i>Medical Engineering and Physics</i>. 101, 103748, 2022. 3</p> <p>Fujisawa C, Hamanoue M, Kawano Y, Murata D, Akishima-Fukasawa Y, Okaneya T, <u>Minematsu T</u>, <u>Sanada H</u>, Tsuburaya K, Isshiki T, Mikami T, Hanawa T, Akasaka Y: The Role for miR-146b-5p in the Attenuation of Dermal Fibrosis and Angiogenesis by Targeting PDGFR<math>\alpha</math> in Skin Wounds. <i>Journal of Investigative Dermatology</i>, 142(7), 1990-2002, 2022. 7</p> <p><u>Minematsu T</u>, Tomida S, Tobe H, Koudounas S, Nakagami G, <u>Sanada H</u>: Evaluation of liquid-less biofilm staining on wound blotting samples. <i>Journal of Nursing Science and Engineering</i>. 9, 222-228, 2022. 7</p> <p>Dai M, <u>Minematsu T</u>, Ogawa Y, Kawamoto A, Nakagami G, <u>Sanada H</u>: Association of dermal hypoechogenicity and a history of cellulitis in lower extremity lymphedema patients: A cross-sectional observational study. <i>Lymphatic Research and Biology</i>, 20(4), 376-381, 2022. 8</p> <p>Dai M, Yamashita S, Okazaki M, Kimori K, <u>Sanada H</u>, Sugama J: Real-time image-sharing education for self-care to wearing elastic stockings in a lymphoedema patient: A case study. <i>British Journal of Nursing</i>. 31(15), S22-S29, 2022. 8</p> <p>Nitta S, Maeda T, Koudounas S, <u>Minematsu T</u>, Weller C, <u>Sanada H</u>: Which objective itch-assessment tools are applicable to patients with cognitive impairments? A scoping review.</p>

International Journal of Older People Nursing, 17(5), e12458, 2022.9

Oe M, Fukuda M, Ohashi Y, Shimojima Y, Tsuruoka K, Qin Q, Yamauchi T, Sanada H: Evaluation of foot ulcer incidence in diabetic patients at a diabetic foot ulcer prevention clinic over a 10-year period. Wound Repair and Regeneration, 30(5), 546-552, 2022.9

Kitamura A, Nakagami G, Okabe M, Muto S, Abe T, Doorenbos A, Sanada H: An application for real-time, remote consultations for wound care at home with wound, ostomy and continence nurses: a case study. Wound Practice and Research. 30(2), 158-162, 2022.9

Shintani Y, Murayama R, Abe-Doi M, Sanada H: Incidence, causes, and timing of peripheral intravenous catheter failure related to insertion timing in the treatment cycle in patients with hematological malignancies: A prospective descriptive study. Japan Journal of Nursing Science, 19(4), e12484, 2022.10

Matsubara M, Haruna M, Yonezawa K, Yokoyama M, Tahara-Sasagawa E, Hikita N, Nakamura Y, Mizuno Y, Sanada H, Tamai N, Abe M, Kashiwabara K: Development and validation of an infant facial skin assessment tool: A prospective observational study. BMC Pediatrics, 22, 614, 2022.10

Sugama J, Ishibasi M, Ota E, Kamakura Y, Saitoh E, Sanada H, Nakayama T, Nomura T, Yamada M, Nakagami G, Sato N, Shibata S, Hase T, Fukada J, Miki T, Arita M, Urai T, Okawa Y, Kitamura A, Dai M, Takahashi T, Tamai N, Tobita I, Noguchi H, Matsumoto M, Miura Y, Mukai K, Mugita Y, Yoshida M, Kurachi M, Shirasaka T, Yamane Y. Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. Japan Journal of Nursing Science. 19(4), e12496, 2022.10

Takizawa C, Minematsu T, Nakagami G, Kitamura A, Koudounas S,

Kunimitsu M, Sanada H. Expression levels of NPPB, ITGB6, CPNE4, EML5, and ITSN1 in fresh exudates swabbed from critically colonised and infected full-thickness wounds in rats. *International Wound Journal*. Online ahead of print. 2020.10

Tsuruoka K, Oe M, Minematsu T, Tomida S, Ohashi Y, Shimojima Y, Qin Q, Abe M, Yamauchi T, Sanada H. Association between elevated skin temperature of the foot callus and inflammatory marker in people with diabetes. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management*. 26(3):261-268, 2022.11

Nakai A, Minematsu T, Nitta S, Hsu WJ, Tobe H, Sanada H: Development of a method to identify persistent and blanchable redness by skin blotting in mice. *International Wound Journal*. Online ahead of print, 2022.11

Koudounas S, Minematsu T, Mugita Y, Nakai A, Tobe H, Takizawa C, Kunimitsu M, Nakagami G, Sanada H: Bacterial invasion into the epidermis of rats with SLS-irritated skin increases damage and induces incontinence-associated dermatitis. *International Wound Journal*, 20(1), 191-200, 2023.1

Tobe H, Tamai N, Mugita Y, Nakai A, Nagata M, Minematsu T, Sanada H: Effect of a UV-free, carbon-arc phototherapy on eczema of a 3-year-old child: A single-case experimental study. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 10, 76-87, 2023.1

Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Hattori N, Sanada H: Nutritional management using ultrasonography of the temporal muscle for patients with pressure injuries in a home care setting: A case report. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management*. 26(4), 384-390, 2023.1

Murayama R, Abe-Doi M, Masamoto Y, Kashiwabara K, Komiyama C, Sanada H, Kurokawa M: Verification study on the catheterization of an upper arm vein using the new long peripheral

intravenous catheter to reduce catheter failure incidence: A randomized controlled trial. Drug Discovery & Therapeutics. Online ahead of print, 2023.2

Ogura K, Endo M, Hase T, Negami H, Tsuchiya K, Suzuki T, Ogai K, Sanada H, Okamoto S, Sugama J: Potential biomarker proteins for aspiration pneumonia detected by shotgun proteomics using buccal mucosa samples: A cross-sectional case-control study. Clinical Proteomics, 20, 9, 2023.3

Abe-Doi M, Murayama R, Takahashi T, Matsumoto M, Tamai N, Nakagami G, Sanada H: Effects of ultrasound with an automatic vessel detection system using artificial intelligence on the selection of puncture points among ultrasound beginner clinical nurses. The Journal of Vascular Access. Online ahead of print. 2023.3

Kunimitsu M, Nakagami G, Minematsu T, Koudounas S, Sanada H: An in vivo critically colonized wound model with dysbiotic wound microbiota. International Wound Journal, 20(3):648-658, 2023.3

新田汐里, 峰松健夫, 富田早苗, 戸部浩美, 前田智徳, 真田弘美: ドライスキン由来の痒み易知覚モデルラットにおける表皮及び真皮乳頭層でのC線維数の増加. 看護理工学会誌, In press.

<査読無>

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 真田弘美: 嚥下機能評価におけるエコー利用の可能性. 週刊医学界新聞, 第3467号, 4, 2022.4

四津里英, 大江真琴, 玉木毅, 真田弘美: 糖尿病性足病変の重症度の評価—糖尿病性足病変治癒過程モニタリングスケールの開発から—. 糖尿病プラクティス, 39(4), 401-408, 2022.7

峰松健夫, 真田弘美: 車いすアスリートの褥瘡予防. 日本医師会雑誌. 151(8), 1388, 2022.11

真田弘美: 褥瘡学会のこれまでの功績について (ガイドライン策定、

	<p>評価ツールDESIGN-R作成). エキスパートナース . 38(15), 93-94, 2022. 11</p> <p><u>真田弘美</u>: 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究調査プロトコル ver. 1. 0. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業). 2022. 12.</p> <p><u>真田弘美</u>: 特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究. 令和4年度厚生労働行政推進調査事業費補助金 (地域医療基盤開発推進研究事業). 2023. 2</p>
<p>その他の原稿</p>	<p><u>真田弘美</u>: 現場で使えるクリニカルパス実践テキスト第2版. 病院. 81(5), 443, 2022. 5</p> <p><u>真田弘美</u>: 生きる力を見る、とことん護る! 石川県立看護大学 CAMPUS NET. 41, 3, 2022. 5</p> <p><u>真田弘美</u>: 人は宝なり. 北國新聞. 第46533号, 1, 2022. 9</p> <p>館正弘, <u>真田弘美</u>, 袋秀平: 鼎談 褥瘡診療の変遷—いかにして世界一低い褥瘡有病率を成し遂げたか. 日本医師会雑誌. 151(8), 1329-1338, 2022. 11</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p>新田汐里, <u>峰松健夫</u>, 戸部浩美, 前田智徳, <u>真田弘美</u>: NGF/SEMA3A比の検出によるドライスキン由来の瘙痒症における痒み易知覚状態の同定. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 47, 2022</p> <p>板橋みずほ, 玉井奈緒, 三浦由佳, <u>峰松健夫</u>, 仲上豪二郎, 下澤達雄, 角田誠, 鈴木基文, 井口靖浩, <u>真田弘美</u>: オムツ内における尿路感染症同定を目的とした初尿中バイオマーカーの妥当性検証. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 48, 2022</p> <p><u>松本勝</u>, 高橋聡明, 北村言, 保坂朋美, 渡辺久美, 津田桃子, <u>紺屋千津子</u>, <u>真田弘美</u>: 訪問看護師に対する遠隔エコーコンサルテーションにおけるAR技術の活用による手技伝達方法の考案. 第31回日</p>

本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022.5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 50, 2022

牟田みや子, 玉井奈緒, 高橋聡明, 新川みなみ, 土屋悠, 仲上豪二郎, 真田弘美: 女性高齢者の骨盤底筋訓練支援の為にEラーニングによるセルフエコーの実施可能性を検証した一例. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022.5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 4, 2022

Kunimitsu M, Nakagami G, Minematsu T, Sanada H: A critically colonized wound model by transplanting microbiota dissimilar to that of peri-wound skin. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022.5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 5, 2022

Takizawa C, Minematsu T, Nakagami G, Kitamura A, Koudounas S, Kunimitsu M, Sanada H: Development of mRNA markers of wound infection in fresh exudate of rat full-thickness wounds. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022.5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 6, 2022

Haba, D, Nakagami G, Qin Q, Minematsu T, Sanada H: Local low-frequency vibration promotes wound healing of the full-thickness wound in the diabetic rat. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022.5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 7, 2022

Qin Q, Oe M, Ohashi Y, Dai M, Nakagami G, Sanada H: Feasibility of smartphone thermography for risk-assessment of diabetic foot ulcers in home settings. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022.5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会抄録集, 9, 2022

仲上豪二郎, 玉井奈緒, 村山陵子, 峰松健夫, 松本勝, 阿部麻里, 高橋聡明, 真田弘美: 文科省DX補正予算はこう活用しよう! 看護基礎教育で身につけたいエコーを用いた老年看護のフィジカルアセスメント技法. 日本老年看護学会第27回学術集会, かほく, 2022.6, 日本老年看護学会第27回学術集会抄録集, 88, 2022

滝沢知大, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 北村言, 國光真生, 真田弘美 : 高齢者の褥瘡管理におけるドレッシング交換及び創部洗浄の頻度の治癒遅延への影響 ラットクリティカルコロナイゼーション創モデルの作成. 日本老年看護学会第27回学術集会, かほく, 2022. 6, 日本老年看護学会第27回学術集会抄録集, 137, 2022

安藤有瑠聡, 仲上豪二郎, 北村言, 真田弘美 : 問看護における褥瘡管理の意思決定支援システムのためのエキスパートの知識を取り入れたアルゴリズムと創傷治癒変化を予測する階層ベイズモデル. 第26回日本医療情報学会春季学術大会, 岡山, 2022. 7, 第26回日本医療情報学会春季学術大会プログラム・抄録集, 108-109, 2022

志村知子, 仲上豪二郎, 小川令, 小野真平, 高橋聡明, 永田みさ子, 柏原康佑, 須釜淳子, 真田弘美, 大江真琴 : 急性重症患者における自重関連褥瘡と医療関連機器圧迫創傷の発生率とその要因. 第24回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2022. 8, 日本褥瘡学会誌, 24(3), 302, 2022

山根拓実, 林温子, 仲上豪二郎, 真田弘美, 大石祐一 : Hydrocellular foam dressingが創傷治癒プロセスにおける血管新生に及ぼす影響とその分子メカニズムの解明. 第24回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2022. 8, 日本褥瘡学会誌, 24(3), 296, 2022

國光真生, 仲上豪二郎, 峰松健夫, 真田弘美 : ディスバイオシス状態の創部細菌叢が惹起する臨界的定着と制御性T細胞の関連 : 機序解明に向けた基礎的検討. 第24回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2022. 8, 日本褥瘡学会誌, 24(3), 296, 2022

Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Sugama J, Sanada H: Reliability and validity of visual assessment of temporal muscle wasting: cross-sectional study. 44th European Society for Clinical Nutrition and Metabolism Congress, Vienna, 2022. 9

Haba D, Qin Q, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: A new strategy to enhance wound healing of diabetic foot ulcers based on the novel promotion mechanism of glycometabolism by local low-frequency vibration. The 22nd edition of the interdisciplinary Diabetic Foot Conference, Los Angeles,

2022.9

Qin Q, Oe M, Nakagami G, Sugama J, Sanada H, Jais Suriadi: The effectiveness of preventive foot care with thermography-based risk assessment on the recurrence of diabetic foot ulcers in Indonesia: an open-labeled randomized controlled trial. The 22nd edition of the interdisciplinary Diabetic Foot Conference, Los Angeles, 2022.9

加藤頼子, 藤井隆夫, 尾田友香, 平田善彦, 平大輔, 峰松健夫, 臺美佐子, 仲上豪二郎, 國光真生, 真田弘美: 褥瘡患者の創部細菌叢と予後との関連の予備的検討: 次世代シーケンサーによるメタ16S解析と機械学習. 第74回日本生物工学会大会, WEB, 2022.10, 第74回日本生物工学会大会プログラム, 17, 2022

高橋聡明, 仲上豪二郎, 松本勝, 北村言, 麦田裕子, 東村志保, 真田弘美: 複合現実技術を用いた医療技術シミュレーションの評価 -筋肉注射シミュレータの試用-. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022.10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 37, 2022

玉井奈緒, 板橋みずほ, 三浦由佳, 河本敦夫, 永田みさ子, 松本勝, 真田弘美: 成人・高齢者における尿路感染症とエコーを用いた膀胱内沈殿物所見の関係探索. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022.10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 42, 2022

幅大二郎, 大宮誉史, 関野正樹, 秦斉, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: ウェアラブルバイブレーションドレッシング材による糖尿病モデルラット皮膚全層欠損創への創傷治癒促進効果の検証. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022.10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 44, 2022

宮原真紀, 森武俊, 野口博史, 仲上豪二郎, 真田弘美: 病院情報システムデータとナースコールログの統合データベース開発 -ランダムフォレスト法を用いた臨床応用の検討-. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022.10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 67, 2022

板橋みずほ, 玉井奈緒, 三浦由佳, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 下澤達雄, 角田誠, 鈴木基文, 井口靖浩, 真田弘美: おむつ内センサーを用いた尿路感染症アセスメントを目的とした初尿中バイオマーカーの治療反応性検討. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022. 10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 74, 2022

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 北村言, 村山陵子, 阿部麻里, 高橋聡明, 麦田裕子, 永田みさ子, 小路和幸, 仲上豪二郎, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美: エコーを用いた排泄ケア実装の促進要因と阻害要因. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022. 10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 84, 2022

高橋聡明, 仲上豪二郎, 村山陵子, 阿部麻里, 真田弘美: 超音波検査で観察された末梢静脈カテーテル留置直後の皮下浮腫は中途抜去の要因となる. 国際リンパ浮腫フレームワーク・ジャパン研究協議会第11回学術集会, WEB. 2022. 11

國光真生, 仲上豪二郎, 峰松健夫, Koudounas Sofoklis, 真田弘美: 制御性T細胞とディスプレイオシス状態の創部細菌叢の関連: 新規臨界的定着予防介入の確立に向けた基礎的検討. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 59, 2022

幅大二郎, 秦斉, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: 局所低周波振動刺激による糖代謝と血管拡張/新生を介した糖尿病ラット全層欠損創治癒促進効果の検証. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 61, 2022

三浦由佳, 森田光治良, 仲上豪二郎, 北村言, 須釜淳子, 真田弘美: 特定行為研修修了者の専門性が褥瘡治癒促進に及ぼす効果. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 65, 2022

峰松健夫, 富田早苗, 中井彩乃, Koudounas Sofoklis, 真田弘美: アデノシン三リン酸(ATP)スキンプロット検査による圧迫皮膚の細胞障害の同定. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 78, 2022

中井彩乃, 峰松健夫, 竹原君江, 真田弘美: I 度褥瘡モデルマウス

	<p>を用いた変性コラーゲンの検出. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 83, 2022</p> <p>Kunimistu M, Nakagami G, <u>Minematsu T</u>, <u>Sanada H</u>: Relationship between healing status and microbial dissimilarity in wound and peri-wound skin in pressure injuries The 9th International Human Microbiome Consortium Congress, 2022.11</p> <p>阿部麻里, 村山陵子, 高橋聡明, <u>松本勝</u>, 玉井奈緒, 仲上豪二郎, <u>真田弘美</u>: 末梢静脈カテーテル留置のための穿刺部位選定におけるAIによるエコー画像読影サポート機能の効果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12, 第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 569, 2022</p> <p>高橋聡明, 東村志保, 寶萊哲彦, 阿部智子, 北村言, <u>松本勝</u>, 仲上豪二郎, <u>真田弘美</u>: 訪問系サービス利用者におけるコミュニケーションロボットの長期間活用 -バイタルサイン測定機器連動システムの開発-. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12, 第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 572, 2022</p> <p>幅大二郎, 秦斉, 滝沢知大, 富田早苗, <u>峰松健夫</u>, <u>真田弘美</u>, 仲上豪二郎: 超音波と低周波振動の糖代謝促進効果の比較検証. 日本物理療法合同学術大会2023, 東京, 2023. 2</p> <p>Tsuchiya H, Tomida S, Abe M, Higashimura S, <u>Minematsu T</u>, <u>Sanada H</u>. Nakagami G: Development and evaluation of a rapid taurine concentration measurement method for skin blot examination for early detection of dehydration. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2023. 3</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が研究代表者 <u>真田弘美</u>, <u>峰松健夫</u>, 仲上豪二郎, 大貝和裕, <u>紺家千津子</u>: 滲出液エクソソームマーカー検出人工リポソームの開発: 創傷アセスメントの新たな展開, R4～R7, 学術研究助成基金挑戦的研究(開拓)</p> <p><u>真田弘美</u>, 須釜淳子, <u>峰松健夫</u>, 大貝和裕, 岡本成史, 仲上豪二郎, 玉井奈緒, 下澤達雄: スマートホームケア構想実現のための非侵襲的リキッドアセスメント技術の開発, R2～R5, 科学研究費補助金基</p>

盤研究(A)

紺家千津子, 真田弘美, 須釜淳子, 松本勝, 大橋史弥: 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築, R4 ~ R7, 科学研究費補助金基盤研究(B)

松本勝, 河本敦夫, 小路和幸, 仲上豪二郎, 玉井奈緒, 三浦由佳, 須釜淳子, 真田弘美: 訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装, R3 ~ R6, 科学研究費補助金基盤研究(B)

峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎, Koudounas Sofoklis: 療養生活モニタリングに有用な採血に代わるスキンプロット生化学検査法の開発, R3 ~ R5, 科学研究費補助金基盤研究(B)

本学教員が分担者

玉井奈緒, 松本勝, 真田弘美, 高橋聡明, 仲上豪二郎: セルフエコーとAIケアリコメンデーションによる骨盤底筋訓練サポートシステムの開発, R4 ~ R6, 学術研究助成基金挑戦的研究(萌芽)

津田裕子, 紺家千津子, 真田弘美, 大橋史弥: 革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, R4 ~ R6, 学術研究助成基金基盤研究(C)

土井麻里(阿部麻里), 村山陵子, 真田弘美: 繰り返し抗がん剤投与を行う血管を温存する末梢静脈カテーテル留置技術の実装, R4 ~ R6, 学術研究助成基金基盤研究(C)

玉井奈緒, 峰松健夫, 真田弘美, 高橋聡明: スマートセンサーとAIによるがん性皮膚潰瘍においモニタリング・ケアシステムの開発, R4 ~ R7, 科学研究費補助金基盤研究(B)

三浦由佳, 河本敦夫, 松本勝, 真田弘美, 長谷剛志, 小路和幸, 玉井奈緒: 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証, R4 ~ R7, 科学研究費補助金基盤研究(B)

大江真琴, 真田弘美, 土屋紗由美: インドネシアにおける糖尿病足

潰瘍予防プロトコルの実装研究, R3 ~ R6, 国際共同研究加速基金国際共同研究強化(B)

仲上豪二郎, 関野正樹, 山内敏正, 栗田昌和, 南豪, 麦田裕子, 峰松健夫, 真田弘美: 新規糖代謝促進メカニズムによる糖尿病足潰瘍治療促進デバイス: 創傷看護学の新展開, 学術研究助成基金挑戦的研究(開拓)

大場美穂, 真田弘美, 野村美香, 大江真琴, 峰松健夫, 竹原君江, 小林珠実, 土井英子: 透析患者に対するテーラーメイドケアを目指した非侵襲的な皮膚生理機能評価方法の開発, R3 ~ R6, 学術研究助成基金基盤研究(C)

渡邊直美, 鎌倉やよい, 三浦由佳, 真田弘美, 深田順子, 坂上貴之: 喉頭摘出者の食道発声トレーニングプログラムの構築と効果の検証, R3 ~ R6, 学術研究助成基金基盤研究(C)

野口博史, 森武俊, 真田弘美, 大江真琴, 仲上豪二郎: 時空間レジストレーション技術に基づく創傷管理の3次元統合情報提示システム, R2 ~ R4, 学術研究助成基金基盤研究(C)

大江真琴, 須釜淳子, 森武俊, 真田弘美, 野口博史: 糖尿病足潰瘍予防支援システム: リスク状態検出機能の開発と有用性の検証, R2 ~ R4, 学術研究助成基金基盤研究(C)

森武俊, 山田憲嗣, 野口博史, 真田弘美, 高橋聡明, 仲上豪二郎: インピーダンストモグラフィ法に基づくシート型創傷モニタリングシステムの開発, R2 ~ R4, 科学研究費補助金基盤研究(B)

仲上豪二郎, 峰松健夫, 大貝和裕, 北村言, 須釜淳子, 真田弘美: 創傷環境調整による褥瘡細菌叢の最適化: 創部バイオフィーム制御法の開発, R2 ~ R4, 科学研究費補助金基盤研究(B)

村山陵子, 真田弘美, 土井麻里(阿部麻里), 小見山智恵子: 点滴トラブル発生を予防する末梢静脈カテーテル留置管理基準: 日本版の開発と普及, R2 ~ R4, 科学研究費補助金基盤研究(B)

大桑麻由美, 藤野陽, 真田弘美, 臺美佐子: 末梢動脈疾患ハイリスク患者への振動ケアがもたらす重症虚血肢移行遷延効果の検討, R1

	<p>～ R4, 学術研究助成基金基盤研究(C)</p> <p>田中真琴, 峰松健夫, 川上明希, 真田弘美: 非侵襲的検体採取法による直腸肛門粘膜からの炎症性サイトカインの検出, R1～R4, 学術研究助成基金基盤研究(C)</p> <p>奥津文子, 桂敏樹, 太田智美, 犀川由紀子, 星野明子, 真田弘美: モバイルデバイスを活用した下肢リンパ浮腫セルフケア支援システムの開発, H30～R4, 科学研究費補助金基盤研究(B)</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt;  本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>学内研究助成金</p>	
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等  受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>Haba D et al: 受賞, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会 学術集会 優秀演題賞 英語セッション, 2022. 6</p> <p>Nakagami G et al: 受賞, 令和4年度日本褥瘡学会大浦賞, 2022. 8</p> <p>Takizawa C et al: 受賞, 令和4年度日本褥瘡学会大浦賞, 2022. 8</p> <p>Higashimura S et al: 受賞, 看護理工学会 学会賞, 2022. 10</p> <p>Koudounas S et al: 受賞, 看護理工学会 奨励賞, 2022. 10</p> <p>松本勝ら: 受賞, 看護理工学会 奨励賞, 2022. 10</p> <p>幅大二郎ら: 受賞, 第52回日本創傷治癒学会 研究奨励賞, 2022. 11</p> <p>Abe-Doi M et al: 第42回日本看護科学学会学術論文賞 優秀賞, 2022. 12</p>



- ・一般社団法人 ライフサポート学会 理事 2016.6～現在
- ・一般社団法人日本医工ものづくりcommons: 理事 2022.6.25～2024.5
- ・一般社団法人日本老年看護学会: 査読委員 2022.8.01～2024.
- ・一般社団法人日本抗加齢医学会: 評議員 2010.6～現在
- ・一般社団法人日本看護研究学会: 評議員 2020.4.～2024.4
- ・日本医学会総会: 展示委員会副委員長 2019.10～
- ・日本医療経営実践学会: 理事 2012.7～現在
- ・一般社団法人日本在宅ケア学会: 在宅ケアイノベーション研究研修委員会委員 2022.7.9～2024社員総会終了後時

### 国際交流

#### Editorial Board

- ・International World Journal, Editorial Advisory Board 2023.10～
- ・Journal of World Care, Editorial Advisor 2003.10～
- ・Journal of Gerontology & Geriatric Research, Editorial Board Member 2012～現在
- ・Chronic Wound Care Management and Research (New Zealand), Editor (Honorary editorial board) 2013.5～
- ・Journal of Tissue Viability, Editorial Board 2018.4～
- ・Advances in Skin and World Care, Editorial Board 2018～
- ・Nursing Outlook, Reviewer

### 地域貢献

- ・河北地区日中友好協会: 顧問 2022.4.1～
- ・独立行政法人地域医療機関機能推進機構金沢病院: 地域連絡協議会委員 2022.4.1～2023.3.31
- ・北陸公衆衛生学会: 北陸公衆衛生学会理事 2022.4.1～
- ・第35回JAPANTENT: 開催委員会参事 2022.7～事業終結まで
- ・石川県観光戦略推進部いしかわ観光特使2022.2.29～2024.3.31
- ・学校法人金沢医科大学: 金沢医科大学病院選考委員会委員 2023.1.12～2023.3.31
- ・石川県医療計画推進委員会 委員 2022.4～2025.3.31

## 6.2 人間科学領域

所属（講座等）・職位	人間科学領域・教授	氏名	小林 宏光
	人間科学領域・教授		垣花 渉
	人間科学領域・准教授		松田 幸久
	人間科学領域・講師		工藤 義信
	人間科学領域・講師		中嶋 優太

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p><u>Matsuda, Y.</u>（分担執筆）: Two Dissociable Functions of Spatial Attention, Facilitation Effect and Inhibition of Return. <i>Current Overview on Science and Technology Research Vol. 4</i>, 135-157, 2022. 9.</p>
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>*<u>石井和美</u>, <u>中田弘子</u>, <u>小林宏光</u>: 圧力測定フィルムを用いた臨床看護師の清拭圧—健常皮膚に対する綿タオルとディスプレイタブレットの清拭の比較—. <i>看護理工学会誌</i>, 10, 37-42, 2022. 11</p> <p>*<u>Matsumoto M.</u>, <u>Hashiguchi N.</u>, <u>Kobayashi H.</u>: Short-and long-term reproducibility of peripheral superficial vein depth and diameter measurements using ultrasound imaging. <i>BMC Medical Imaging</i>, 22(1), 1-6, 2022. 12</p> <p><u>垣花渉</u>: 参加型の地域健康づくりが高齢者の行動や健康状態に及ぼす影響. <i>地域活性研究</i>, 18, 1-10, 2023. 3</p> <p><u>工藤義信</u>: 教訓的テキストの移動とミセラニー写本の文化的解釈の可能性—15世紀ノリッジの商人が所有していた2写本の新たな考察. <u>大沼由布</u>, <u>徳永聡子</u>: 旅するナラティブ—西洋中世をめぐる移動の諸相. <i>知泉書館</i>, 207-222, 2022.</p> <p><u>Kudo Y.</u>: Self-identity and self-presentation in the late-fifteenth-century Norwich merchant's miscellany manuscripts known as "The Fisher Miscellany." <i>Journal of the Early Book Society</i>, 25, 1-38, 2022.</p> <p>*<u>玉舎瑠衣</u>, <u>工藤義信</u>: 石川県立看護大学附属図書館所蔵フローレンス・ナイチンゲール書簡（J・A・ローバック宛）の転写・内容解釈・</p>

	<p>史料的意義の考察. 石川看護雑誌, 20, 11-22, 2023.</p> <p><u>Nakajima Yuta</u> (分担執筆), “Chapter 7 Pure Experience”, Matsumaru Hisao, Arisaka Yuko and Lucy Christive Schultz (ed.), <i>Tetsugaku Companion to Nishida Kitaro</i>, Springer, 2022, 10.</p> <p>広瀬雅一, <u>松田幸久</u>, 山中智香, 小川圭太, 長崎信浩, 高根浩: 改訂コア・カリキュラムに準拠した実務実習に関する薬局薬剤師の意識調査と実習受入の内的動機付けに影響する因子の探索, 医療薬学, 48(11), 507-515, 2022. 11.</p> <p>浅見洋, <u>中嶋優太</u>(共編著): 西田幾多郎未公開ノート研究資料化報告6 2022. 前田印刷株式会社出版部, 金沢, 2023. 3</p> <p>&lt;査読無&gt;</p> <p><u>垣花渉</u>, <u>瀬戸清華</u>: 看護学生を能動的な学習へ導く探究学習の実践研究. 初年次教育学会誌, 15, 50-57, 2023. 3</p> <p><u>垣花渉</u>, 西村秀雄, 大嶋康裕, 渡邊淳子: 「双方向型の授業」を問い直す—コロナ禍での遠隔授業の経験をきっかけとして—. 初年次教育学会誌, 15, 37-41, 2023. 3</p> <p><u>垣花渉</u>, *<u>横山希帆</u>, *<u>山岸未侑</u>, *<u>古市希亜</u>: 壮年期の運動不足を解消する実践的アプローチ. 令和4年度地域課題ゼミナール支援事業成果報告集, 17-20, 2023. 2</p> <p><u>松田幸久</u>, 菅本宙晃: クロニンジャーのパーソナリティ理論における気質を測定する通俗的心理テストの作成. 都市経営: Urban Management, 15, 137-145, 2023. 3.</p> <p><u>松田幸久</u>, 平田萌: きょうだい構成とヤマアラシのジレンマ—心理的接近・回避における葛藤との関連—. 都市経営: Urban Management, 15, 147-156, 2023. 3.</p>
その他の原稿	<p><u>垣花渉</u>: 初年次教育実践交流会in北陸. 初年次教育学会ニューズレター, 15, 3-4, 2023. 3</p> <p><u>工藤義信</u>: 中世イギリス文学における書物編纂者の役割とその文化的意義. 石川県立看護大学広報誌Campus Net 教員研究紹介, 41, 5,</p>

	<p>2022. 5</p> <p>浅見洋, 中嶋優太, 藤本夏実, 山名田沙智子: 企画展図録「漱石と幾多郎 ふたりを慕う人々」石川県西田幾多郎記念哲学館, 1-14, 2022. 11.</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p>小林宏光: 見つめなおす看護実践のカタチ～新しいケア用具の開発～. 第15回看護実践学会学術集会交流集会講演, 2022. 9</p> <p>垣花涉: 学生と高齢者が協働する「健康長寿のまちづくり」(招待講演), 日本世代間交流学会第13回全国大会, 聖路加国際大学, 2022. 9, 日本世代間交流学会第13回全国大会講演集, 20, 2022</p> <p>垣花涉: 看護学生を能動的な学習へ導く探究学習の実践研究 (課題研究委員会企画シンポジウム「ウィズコロナ・ポストコロナの初年次教育」), 初年次教育学会第15回大会, 多摩大学, 2022. 9, 初年次教育学会第15回大会発表要旨集, 21, 2022</p> <p>成田秀夫, 山本啓一, 吉村充功, 菊地滋夫, 垣花涉: 2030年の初年次教育を構想する～初年次教育の再定義を通じて, 初年次教育学会第15回大会, 多摩大学, 2022. 9, 初年次教育学会第15回大会発表要旨集, 28, 2022</p> <p>垣花涉, 西村秀雄, 大嶋康裕, 渡邊淳子: 「双方向型の授業」を問い直すーコロナ禍での遠隔授業の経験をきっかけとしてー, 初年次教育学会第15回大会, 多摩大学, 2022. 9, 初年次教育学会第15回大会発表要旨集, 35-38, 2022</p> <p>垣花涉, *横山希帆, *山岸未侑, *古市希亜: 壮年期の運動不足を解消する実践的アプローチ, 2022年度大学・地域連携アクティブフォーラム, 金沢, 2023. 2, 令和4年度地域課題ゼミナール支援事業成果報告集, 17-20, 2023</p> <p>工藤義信: 思考を深める問いとグループ・ディスカッションー英語講読授業における取組, 2022年度初年次教育実践交流会 in 北陸, 金沢, 2022. 10</p> <p>工藤義信: コロナ禍における双方向性コミュニケーション授業の成果と課題 パネリスト, 2022年度初年次教育実践交流会 in 北陸, 金沢, 2022. 10</p>

	<p>中嶋優太, 小浜善信: 書簡と遺稿が伝える哲学者九鬼周造の面影, 甲南大学人間科学研究所 第4回九鬼周造記念シンポジウム(招待講演), 神戸, 2022. 12.</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が研究代表者 本学教員が分担者</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者 小林宏光: 歩行対称性指標の妥当性およびその正常標準値の検討. R1 ~ R4, 科学研究費 基盤研究(C)</p> <p>田村幸恵, 中田弘子, 木森佳子, 小林宏光: 在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義. R2 ~ R4, 科学研究費 基盤研究(C)</p> <p>垣花渉, 澤田忠幸, 石川倫子, 西村秀雄: 主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践的研究, R1 ~ 4, 科学研究費補助金基盤研究(C) (600千円)</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>澤田忠幸, 垣花渉, 石川倫子: 初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかに関与しうるか? IRの視点からの検証, R2 ~ 5, 科学研究費補助金基盤研究(C) (100千円)</p> <p>工藤義信 (500千円): ピーター・イドリー教訓詩の伝播の実態を探るテキスト批評・人物研究・古写本学的分析. 学術研究助成基金助成金基盤研究(C), R3 ~ R7</p>
<p>学内研究助成金</p>	
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者 垣花渉, *横山希帆, *山岸未侑, *古市希重: 壮年期の運動不足を解消する実践的アプローチ, R4, 公益社団法人大学コンソーシアム石川 地域課題研究ゼミナール支援事業 (200千円)</p>

	<p>本学教員が分担者</p> <p><u>垣花渉</u>, <u>工藤義信</u>, 澤田忠幸, 小椋賢治: 学生と教師との双方向的コミュニケーションによる授業の活性化. 石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成プログラム (連携発展シーズ発掘型), 2022.4 ~ 2023.3</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p><u>小林宏光</u>: 日本人間工学会 2021年度 TOP10%査読者賞 (2022.6)</p> <p><u>小林宏光</u>: 日本生理人類学会 2021年度学会賞 (2022.10)</p> <p><u>小林宏光</u>: Journal of Physiological Anthropology, Best Reviewer Award 2021 (2022.10)</p> <p><u>垣花渉</u>, *<u>横山希帆</u>, *<u>山岸未侑</u>, *<u>古市希亜</u>: 受賞, 地域課題研究ゼミナール支援事業地域共創支援枠 最優賞, 2023.2</p> <p><u>垣花渉</u>: 新聞掲載, 北國新聞朝刊「かほくの坂で筋力増強」, 2022.4</p> <p><u>垣花渉</u>: 新聞掲載, 北國新聞朝刊「かほくの魅力 歩いて知って健康に」, 2022.8</p> <p><u>垣花渉</u>: 新聞掲載, 北國新聞朝刊「現役世代も「スモールチェンジ」心掛けで健康維持を」, 2022.10</p> <p><u>垣花渉</u>: 新聞掲載, 北國新聞朝刊「かほくの起伏歩いて心肺強化」, 2023.2</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>小林宏光</u>: 論文査読, 医学と生物学, 2022.5</p> <p><u>小林宏光</u>: 論文査読, Bioengineering, 2022.5-6</p> <p><u>小林宏光</u>: 論文査読, Science of The Total Environment (STOTEN) 2022.6-7</p> <p><u>小林宏光</u>: 非常勤講師, 「人間工学」講義担当, 高岡看護専門学校, 2022.4-7</p> <p><u>小林宏光</u>: 特別講義, 静岡県立大学大学院看護学研究科, 「看護学における人類学的視点」, 2023.2</p> <p><u>垣花渉</u>: 「健康長寿の秘訣 スモールチェンジ」招待講演, 金沢高砂大学校同窓会, 2023.3</p> <p><u>垣花渉</u>: 初年次教育学会 理事</p> <p><u>垣花渉</u>: 日本体力医学会 学会評議員</p>

垣花涉：地域活性学会 北信越支部副支部長  
垣花涉：石川県国民健康保険団体連合会介護サービス苦情処理委員会 委員  
垣花涉：かほく市空家等対策審議会 委員長  
垣花涉：初年次教育学会 2021年度教育実践賞 審査副委員長  
垣花涉：「健康サポート科学」非常勤講師，富山県高岡看護専門学校，2022.6～7

工藤義信：公益財団法人尚志社 北陸地区奨学生選考委員2022.4～2023.3  
工藤義信：慶應義塾大学通信教育部科目「中世英文学史」指導員2022.4～2023.3  
工藤義信：Annotated Chaucer Bibliography日本国内出版文献解題報告担当2022.4～2023.3

中嶋優太：西田哲学会幹事，事務局  
中嶋優太：「日本哲学史基礎演習」，京都大学，2022.10～2023.1  
中嶋優太：研究員，石川県西田幾多郎記念哲学館（かほく市），2022.10～2023.3  
中嶋優太：授業「西田哲学研究 『善の研究』の思想」（総合的な探究の時間「郷土が生んだ思想」1年生全10学級 Zoomおよび対面），石川県立金沢二水高等学校，2022.11.9/11.16/12.14/2023.1.11  
中嶋優太：講演「西田幾多郎『善の研究』を読む ～善く生きる～」（尾張町商店街歴史と伝統文化講演会），尾張町老舗交流館，2022.11.19  
中嶋優太：選書協力「哲学する本棚「健康？」」，石川県西田幾多郎哲学館，2023.1.21～3.12  
中嶋優太：哲学対話「理由があります」（石川県立金沢二水高等学校1年課外学習），石川県西田幾多郎記念哲学館，2023.2.5  
中嶋優太：講演「三木清「人生論ノート」入門」（能美市 まなびフェスタ2023），辰口福社会館，2023.2.12  
中嶋優太：哲学カフェ「わたし、病んでます」（石川県西田幾多郎哲学館 哲学する本棚「健康？」関連イベント），石川県西田幾多郎記念哲学館，2023.2.19  
中嶋優太：哲学カフェ「ふだん健康って気にしてる？」（石川県西田幾多郎哲学館 哲学する本棚「健康？」関連イベント），Zoom，2023.3.3

松田幸久：学術雑誌「心理学の諸領域」編集幹事補佐

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

垣花涉：初年次教育実践交流会 in 北陸 実行委員長

垣花涉：石川県立羽咋高等学校「総合的な探究の時間」講師

垣花涉：石川県地域スポーツ指導者養成講習会「中高齢者の体力とスポーツ指導」講師，いしかわ総合スポーツセンター（金沢市），2022.7

垣花涉：シティーカレッジ授業「石川の市町、かほく市・金沢市」授業コーディネーター，石川県政記念しいのき迎賓館（金沢市），2022.7

垣花涉：「医療、健康 食・筋トレ」講師，金沢高砂大学校同窓会，2022.4～2023.3

垣花涉：「健康カフェ事業」講師，津幡町中条地区老人会，2022.4～2023.

工藤義信：日本中世英語英文学会第38回全国大会 研究発表司会，オンライン・カンファレンス，2022.12.3.

## 6.3 健康科学講座

所属（講座等）・職位	健康科学講座・教授	氏名	岩佐 和夫
	健康科学講座・教授		今井 秀樹
	健康科学講座・教授		今井 美和
	健康科学講座・教授		平居 貴生
	健康科学講座・准教授		市丸 徹

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p><u>岩佐和夫</u>（監修）：Year Note 2024. メディックメディア, 東京, 2023. 3</p> <p><u>岩佐和夫</u>（分担執筆）：クエスチョンバンク 第111回看護師国家試験解説書. メディックメディア, 東京, 2022. 4</p> <p>今井秀樹, 日高未希恵, 他13名(共著):コンパクト公衆衛生学第7版, 朝倉書店, 2022. 11</p>
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>Hikishima S, Sakai K, Akagi A, Yamaguchi H, Shibata S, Hayashi K, Nakano H, Kanemoto M, Usui Y, Taniguchi Y, Komatsu J, Nakamura-Shindo K, Nozaki I, Hamaguchi T, Ono K, <u>Iwasa K</u>, Yamada M.: Deterioration after liver transplantation and transthyretin stabilizer administration in a patient with ATTRv amyloidosis with Leu58Arg (p.Leu78Arg) TTR variant. <i>Internal Medicine</i>, 61(15), 2347-2351, 2022. 1</p> <p>Noguchi-Shinohara M, Hamaguchi T, Sakai K, Komatsu J, <u>Iwasa K</u>, Horimoto M, Nakamura H, Yamada M, Ono K.: Effects of Melissa officinalis Extract Containing Rosmarinic Acid on Cognition in Older Adults Without Dementia: A Randomized Controlled Trial. <i>Journal of Alzheimers Disease</i>, doi: 10.3233/JAD-220953, 2022. 12</p> <p><u>Iwasa K</u>, Furukawa Y, Yoshikawa H, Yamada M, Ono K.: CD59 Expression in Skeletal Muscles and Its Role in Myasthenia Gravis. <i>Neurology Neuroimmunology and Neuroinflammation</i>, 10(1), e200057, doi: 10.1212/NXI.000000000200057, 2023. 1</p> <p>Noguchi-Shinohara M, Ono K, Yuki-Nozaki S, <u>Iwasa K</u>, Yokogawa M, Komai K, Thyreau B, Tatewaki Y, Taki Y, Shibata M, Ohara T, Hata J, Ninomiya T, Yamada M.: Association of the prefrailty</p>

with global brain atrophy and white matter lesions among cognitively unimpaired older adults: the Nakajima study. *Scientific Reports*. 12(1), 12129, doi: 10.1038/s41598-022-16190-7, 2022. 8

Yoshikawa H, Adachi Y, Nakamura Y, Kuriyama N, Murai H, Nomura Y, Sakai Y, Iwasa K, Furukawa Y, Kuwabara S, Matsui M; Taskforce of Validation of Evidence-based Diagnosis and Guidelines, and Impact on Quality of Life (QOL) in Patients with Neuroimmunological Diseases.: Two-step nationwide epidemiological survey of myasthenia gravis in Japan 2018. *PLoS One*, 17(9), e0274161, doi: 10.1371/journal.pone.0274161, 2022. 9

Yoshikawa H, Adachi Y, Nakamura Y, Kuriyama N, Murai H, Nomura Y, Sakai Y, Iwasa K, Furukawa Y, Kuwabara S, Matsui M.: Nationwide survey of Lambert-Eaton myasthenic syndrome in Japan. *BMJ Neurology Open*, 4(2), e000291, doi: 10.1136/bmjno-2022-000291. 2022. 9

Nozaki I, Hashiguchi A, Takashima H, Yamashita Y, Higashide T, Iwasa K, Ono K.: Charcot-Marie-Tooth Disease with A Novel Variant in Gap Junction Protein Beta 1 Presenting with Visual Field Defects. *Internal Medicine*, doi: 10.2169/internalmedicine.1403-22, 2023. 2

Orthodontic tooth movement-activated sensory neurons contribute to enhancing osteoclast activity and tooth movement through sympathetic nervous signalling: Kondo H., Kondo M., Hayashi K., Kusafuka S., Hamamura K., Tanaka K., Kodama D., Hirai T., Sato T., Ariji Y., Miyazawa K., Ariji E., Goto S., Togari A. *Eur J Orthod*. 2022. 8;44(4):404-411. doi: 10.1093/ejo/cjab072.

島田尚美, 今井秀樹: 日本人学童, 生徒の体格と気候との関連について—都道府県別データを用いた分析—. *石川看護雑誌*, 19, 33-40, 2022

林美穂, 今井秀樹: 乳がん、子宮がんおよび卵巣がんの死亡率に影響する生活時間について —都道府県別データを用いた検討—. 石

	<p>川看護雑誌, 20, 23-29, 2023</p> <p>&lt;査読無&gt;</p>
<p>その他の原稿</p>	
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p>岩佐和夫, 古川裕, 吉川弘明, 山田正仁, 小野賢二郎：重症筋無力症骨格筋における補体制御因子発現に関する検討, 第34回日本神経免疫学会学術集会, 長崎, 2022. 10, 神経免疫学 27(1), 131-131, 2022</p> <p>篠原もえ子, 岩佐和夫, 駒井清暢, 小野賢二郎：認知機能低下に対するレモンバーム抽出ロスマリン酸の介入効果 ランダム化プラセボ対照二重盲検比較試験, 第40回日本神経治療学会, 郡山, 2022. 11, 神経治療学 39(6) S257-S257, 2022</p> <p>吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝, 松井真, 桑原聡：ランバート・イートン筋無力症候群の臨床像-腫瘍の有無による比較-, 日本神経学会学術大会, 東京, 2022. 5, 日本神経学会学術大会プログラム・抄録集 63rd, 0-31-6, 2022</p> <p>篠原もえ子, 柚木颯偲, 横川正美, 岩佐和夫, 駒井清暢, 山田正仁, 小野賢二郎：高齢者の身体的フレイルと脳容積及び大脳白質病変との関連:なかじまプロジェクト研究, 日本神経学会学術大会, 東京, 2022. 5, 日本神経学会学術大会プログラム・抄録集 63rd, Pj-036-1 2022</p> <p>村松大輝, 小松潤史, 多田康剛, 岩佐和夫, 小野賢二郎：MELASにおける脳卒中様発作時の頭部MRI所見, 日本神経学会学術大会, 東京, 2022. 5, 日本神経学会学術大会プログラム・抄録集 63rd, Pj-098-2, 2022</p> <p>篠原もえ子, 小松潤史, 堀本真以, 浜口毅, 坂井健二, 岩佐和夫, 駒井清暢, 横山邦彦, 中村裕之, 山田正仁, 小野賢二郎：認知機能低下に対するレモンバーム抽出ロスマリン酸の有効性:ランダム化比較試験, 第41回日本認知症学会学術集会, 東京, 2022. 11, Dementia Japan, 36(4), 2022</p> <p>森彩香, 篠原もえ子, 柚木颯偲, 堀本真以, 横川正美, 岩佐和夫,</p>

	<p>駒井清暢, 小野賢二郎: コロナ禍の高齢者の孤独感ともの忘れの自覚との関連の検討, 第41回日本認知症学会学術集会, 東京, 2022.11, Dementia Japan, 36(4), 2022</p> <p>その他の発表</p> <p>Murono N., Ohkawa M., Sometani K., Okesaku K., Onishi Y., Hirai T., Kakihana W., Imai H.: Effect of coronavirus disease 2019 on lifestyle and mental health of Japanese information technology workers, 第26回東アジア看護学研究者フォーラム, 2023.3</p> <p>吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井真, 本村政勝, 鶴沢顕之, 今井富裕, 鈴木重明, 中根俊成, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝, 桑原聡: わが国の重症筋無力症の臨床像変化—全国疫学調査2006と2018の比較—, 令和4年合同班会議, 東京, 2023.1, 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班)AMED難治性疾患実用化研究班 令和4年合同班会議抄録集, 16-18, 2023.1</p> <p>吉川弘明, 中村好一, 栗山長門, 村井弘之, 酒井康成, 野村芳子, 松井真, 本村政勝, 鶴沢顕之, 今井富裕, 鈴木重明, 中根俊成, 足立由美, 岩佐和夫, 古川裕, 東昭孝, 桑原聡: ランバート・イートン筋無力症候群—全国疫学調査2018 より判明したわが国の課題—, 令和4年合同班会議, 東京, 2023.1, 厚生労働省難治性疾患政策研究班(神経免疫班)AMED難治性疾患実用化研究班 令和4年合同班会議抄録集, 23-25, 2023.1</p> <p>平居貴生, 橋本日菜子, 室野奈緒子, 垣花渉, 今井秀樹: 胆汁酸受容体TGR5によるfibroblast growth factor 21の発現調節, 第95回日本薬理学会年会, 福岡, 2022.3</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt;</p> <p>本学教員が研究代表者</p> <p>岩佐和夫, 吉川弘明, 野崎一郎: 重症筋無力症の新規病態: 免疫チェックポイント分子と補体制御因子および治療への発展, 2021-2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>日本学術振興会科学研究費補助金若手研究「地域特性に基づく社会的つながりに着目した高齢者ヘルスケアシステムに関する研究」(研究代表者: 日高未希恵, 2022-2026年度)</p>

<p>学内研究助成金</p>	<p>岩佐和夫, 平居貴生: 筋芽細胞の分化過程における免疫制御因子発現と外部誘導因子の解明, R4, 学内研究助成</p> <p>高齢化が進む地域に居住する住民の健康状態を決定する様々な要因とその複合影響の検討 (研究代表者: 今井秀樹, 2021-2022年度)</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>石田元彦, 市丸徹, 大江真吾, 他6名: 障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発, R4 ~ R5, 農研機構 生物系特定産業技術研究支援センター・イノベーション創出強化研究推進事業 基礎研究ステージ (基礎研究型)</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>岩佐和夫: ラジオ出演, FMかほく「なるほどインタビュー」, 2022. 4. 18</p> <p>平居貴生: ラジオ出演, FMかほく「骨と健康」, 2022. 11</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p>岩佐和夫: 講演「アルツハイマー型認知症治療薬」, 金沢市医師会もの忘れ健診症例検討会, 金沢健康プラザ大手町東館大研修室&amp;WEB配信, 2023. 2. 24</p> <p>岩佐和夫: コロナ禍で認知症を予防していくには -口から頭と身体を守る-講演, 北國健康生きがい事業, 北國新聞, 令和4年度石川県看護大学プログラム 2022. 10. 30</p> <p>岩佐和夫: 重症筋無力症と抗補体療法, ALEXIONファーマ, 金沢神経免疫エキスパートフォーラム, 2022. 4. 8</p> <p>岩佐和夫: 重症筋無力症-分子標的薬の使用経験からの考察を含めて-, ALEXIONファーマ, 全身性重症筋無力症 Meet The Expert in 信州, 2022. 10. 6</p> <p>岩佐和夫: 金沢大学教育教員, 金沢大学医学類4年生系統講義「末梢神経障害」, 2023. 1. 20</p> <p>岩佐和夫: 金沢市医師会 生涯教育委員会, 認知症健診精度委員会</p> <p>岩佐和夫: 日本神経学会 代議員</p> <p>岩佐和夫: 日本神経免疫学会 評議員</p> <p>岩佐和夫: 日本神経感染症学会 評議員</p> <p>岩佐和夫: 日本神経学会ガイドライン委員会</p> <p>今井秀樹: 長崎大学医学部非常勤講師「社会医学」(2007年度~)</p>

今井秀樹：羽咋市国民健康保険運営協議会委員（2021年度～）  
今井秀樹：羽咋市情報公開及び個人情報保護審査委員会委員（2020年度～）  
今井秀樹：羽咋市広域圏事務組合情報公開及び個人情報保護審査委員会委員（2020年度～）  
今井秀樹：環境省化学物質の内分泌かく乱作用に関連する報告の信頼性評価作業班班員（2003年度～）

今井美和：SWS健康セミナー「子宮頸がんを知っていますか？」講師，2023.3.6

今井美和：日本病理学会 学術評議員

今井美和：石川県奨学生選考審査会委員

平居貴生：日本薬理学会 評議員

平居貴生：日本時間生物学会 評議員

平居貴生：大学コンソーシアム情報発信部会 副部長

平居貴生：かほく市ケーブルテレビ放送番組審議会 委員

平居貴生：かほく市食育推進委員会 委員

平居貴生：石川県立羽咋高等学校学校 評議員

市丸徹：金城大学 病理学 非常勤講師 2022.9～2023.2

西本壮吾，市丸徹：金城大学 生理学実習 非常勤講師 2022.9～2023.2

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

岩佐和夫，牛村春奈(企画)，黒川恵子，榊原千秋（講演），木下采香（学生），浅田夏菜（学生）：はればれとおおらかに「気持ちよく出す」からはじめる健康づくり，地域ケア総合センター事業，第2回パーキンソン病いきいきリハビリ教室（かほく市）2022.7.18

岩佐和夫，牛村春奈(企画)，黒川恵子，柳明弘（講演），田川壮也（講演），菰池真麻（学生），寺田絢咲（学生）：パーキンソン病の運動療法LSVT@BIG，地域ケア総合センター事業，第3回パーキンソン病いきいきリハビリ教室（金沢市）．2022.11.6

今井美和：石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育課程「学内演習（微生物検査演習）」非常勤講師，2022.9.27-29

今井美和：大学広報誌 CAMPUS NET Vol.42, My Research 若年女性の子宮頸がん予防に関する研究，2022.11

## 6.4 基礎看護学講座

所属（講座等）・職位	基礎看護学講座・教授	氏名	石川 倫子
	基礎看護学講座・准教授		木森 佳子
	基礎看護学講座・准教授		寺井梨恵子
	基礎看護学講座・講師		田村 幸恵
	基礎看護学講座・助教		瀬戸 清華
	基礎看護学講座・助教		中嶋 知世
	基礎看護学講座・助教		千田明日香
	基礎看護学講座・助手		加藤 克典

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p><u>石川倫子</u>, <u>小原美帆子</u>: 「退院後の療養場所に関する患者と家族との意向のずれ」に対する退院支援看護師の支援. 看護実践学会誌, 34(2), 12-22, 2022.9</p> <p><u>北川奈美恵</u>, <u>丸岡直子</u>, <u>石川倫子</u>: 2年目看護師が新人看護師と看護ケアを協働した経験. 看護実践学会誌, 34(1), 14-25, 2022.3</p> <p><u>田村幸恵</u>, <u>木森佳子</u>: 看護師のための携帯型エコーを使用した下大静脈径測定教育プログラム評価, 日本循環器看護学会誌, 17(2), 47-54, 2022.7</p> <p><u>Kimori K</u>, <u>Furuichi Y</u>, <u>Ishimoto Y</u>, <u>Kubo M</u>, <u>Sato K</u>: Pilot study of a prototype for visualizing veins using near-infrared light to improve peripheral intravenous access capabilities. Journal of Nursing Science and Engineering, 9, 162-169, 2022.4.</p> <p><u>Dai M</u>, <u>Yamashita S</u>, <u>Okazaki M</u>, <u>Kimori K</u>, <u>Sanada H</u>: Real-time image-sharing education for self-care to wearing elastic stockings in a lymphedema patient: A case study. British Journal of Nursing, 31(15), 2022.8</p> <p><u>Kimori K</u>, <u>*Aoki S</u>, <u>*Tatsuta H</u>, <u>Dai M</u>: Influence of head-</p>

	<p>of-bed elevation on the measurement of inferior vena cava size using a pocket-sized ultrasound device in healthy male volunteers. Journal of Nursing Science and Engineering, 10, 2022.9</p> <p>Aswad AH, Sugama J, Haryanto, Imran, Ogai K, Oe M, Okuwa M, <u>Kimori K</u>, Suriadi: Characteristics of and factors related to red ring occurrence on diabetic foot ulcer, 26(4), 369-377, 2023.1</p> <p>&lt;査読無&gt;</p>
<p>その他の原稿</p>	
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p>岸凜太郎, <u>中嶋知世</u>, <u>石川倫子</u>：マスクの着用がコミュニケーションに及ぼす影響に関する文献検討, 第15回看護実践学会, 金沢, 2022.9</p> <p>今井咲希, <u>石川倫子</u>, <u>中嶋知世</u>：コロナ禍における臨地実習で看護学生がとった患者とのコミュニケーションの工夫, 第15回看護実践学会, 金沢, 2022.9</p> <p>池田瑠海, <u>中嶋知世</u>, <u>石川倫子</u>：コロナ禍における臨地実習で看護学生が患者とのコミュニケーションで感じた困難, 第15回看護実践学会, 金沢, 2022.9</p> <p>燕真理子, <u>丸岡直子</u>, <u>石川倫子</u>：教育担当者がスタッフ看護師を新人看護師教育に巻き込むために取る行動, 第26回日本看護管理学会学術集会, 福岡, 2022.8, 第26回日本看護管理学会学術集会抄録集, 368, 2022</p> <p>*<u>中村凜奈</u>, *<u>二宮梓</u>, *<u>青木駿之介</u>, <u>木森佳子</u>：とろみ濃度が異なる液状食品とろみ溶液の食感と味覚の官能的評価, 第20回日本看護技術学会学術集会講演抄録集, Web, 52, 2022.10</p> <p><u>Oohashi F</u>, *<u>Miya E</u>, *<u>Onishi Y</u>, *<u>Matsumoto M</u>, <u>Kimori K</u>, <u>Minematsu T</u>, Fujino N, <u>Konya C</u>: Using self-monitoring echocardiography to delineate and measure the inferior vena</p>

	<p>cava diameter bu patient receiving treatment for heart failure, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars: EAFONS conference, Tokyo, 2023.3</p> <p><u>寺井梨恵子</u>：認知症世界の歩き方ファシリテーターミーティング，実践紹介，issue+design, Zoom, 2022.6.20</p> <p><u>田村幸恵</u>，<u>長瀬佐知子</u>：シンポジウム2 コロナ禍における慢性～末期心不全高齢者へのケアのデザイン．第27回日本老年看護学会学術集会，金沢；2022.6.26</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が分担者 <u>林静子</u>，<u>任和子</u>，<u>丸岡直子</u>，<u>石川倫子</u>，<u>後藤彰彦</u>，<u>林篤司</u>：VR学習システムを活用した看護技術教育プログラムの開発と評価，R2～R6，科学研究費補助金基盤研究（B）</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者 <u>石川倫子</u>：診療看護師(NP)による症状マネジメントを強化する在宅療養移行支援システムの開発，H31-R4，科学研究費補助金若手研究</p> <p><u>木森佳子</u>，<u>田中志信</u>，<u>久保守</u>：最適な近赤外光波長を用いた目視困難末梢静脈可視化システムの開発，R3～R6，学術研究助成基金助成金基盤(C)</p> <p><u>寺井梨恵子</u>：パフォーマンス評価を用いた看護師の動作観察能力を高める教育プログラムの効果，2019年度～2023年度，研究活動スタート支援</p> <p><u>田村幸恵</u>，<u>木森佳子</u>，<u>小林宏光</u>：在宅療養患者への看護師による携帯エコーを使用した心不全評価の臨床的意義，2020～2023，学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>瀬戸清華</u>：ALS患者・家族のピアサポートの様相とピアサポート支援プログラムの試案の作成．R2～R4，学術研究助成基金助成金若手研究(課題番号20K19209)</p> <p><u>千田明日香</u>：看護管理職がCOVID-19患者専用病棟に配置する看護師</p>

	<p>の選択基準と評価の実態, R3, 令和3(2021)年度科学研究費助成事業(学術研究助成基金助成金) 研究活動スタート支援</p> <p>本学教員が分担者 丸岡直子, 武山雅志, 林一美, 吉田千文, 樋口キエ子, 石川倫子, 林静子, 田村幸恵, 田淵知世: 当事者視点と当事者との対話を基盤とする在宅療養移行支援システムの開発, H30-R4, 科学研究費補助金基盤研究(C)</p> <p>垣花渉, 澤田忠幸, 石川倫子, 西村秀雄: 主体的に考える力を養う看護系初年次教育の実践的研究, H31-R4, 科学研究費補助金基盤研究(C)</p> <p>澤田忠幸, 垣花渉, 石川倫子: 初年次教育は学生の汎用的技能の育成にいかに関与しうるか? IRの視点からの検証, R2 ~ R5, 科学研究費補助金基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p>石川倫子, 丸岡直子, 小西千恵子: 新人看護師の入職後1年間におけるコミュニケーション能力の変化と影響要因, 2021-2022.</p> <p>瀬戸清華, 垣花渉: かほく市を舞台にしたフィールドワーク型探究学習プログラムの作成. 2022-2023</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	<p>寺井梨恵子: 資格取得, 認知症世界の歩き方公認ファシリテーター, 2022. 4</p>
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p>石川倫子: 日本看護管理学会 評議員</p> <p>石川倫子: 日本看護管理学会 専任査読委員</p> <p>石川倫子: 日本看護学教育学会 評議員</p> <p>石川倫子: 日本看護学教育学会 専任査読者</p> <p>石川倫子: 日本看護研究学会 評議員</p> <p>石川倫子: 看護実践学会 専任査読委員</p> <p>石川倫子: 石川県看護協会認定看護管理者教育課程運営委員(委員長)</p> <p>石川倫子: 金沢医科大学病院特定行為研修部門運営委員会委員</p>

石川倫子：北陸大学薬学部「看護学」非常勤講師  
 石川倫子：石川県准看護師試験委員  
 石川倫子：認定看護管理者教育課程（セカンドレベル）非常勤講師，石川県看護協会，2022. 8. 11, 8. 18  
 石川倫子：新人看護職員研修 教育担当者研修講師，石川県看護協会，Web開催2022. 10. 7  
 石川倫子：新人看護職員研修 教育責任者研修講師，石川県看護協会，石川県地場産業会館，2022. 11. 25  
 石川倫子：金沢医科大学病院特定行為研修（OSCE）非常勤講師，金沢医科大学病院，金沢医科大学病院，2022. 11. 2  
 石川倫子：感染管理認定看護師教育課程「指導」非常勤講師，石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター，石川県立看護大学，2022. 8  
 石川倫子：2022年度石川県看護教員現任研修非常勤講師，石川県，2022. 6. 11, 8. 6  
 石川倫子：認定看護管理者教育課程（サードレベル）非常勤講師，石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター，石川県立看護大学，2022. 10. 27

木森佳子：看護理工学会 査読委員  
 木森佳子：看護実践学会 査読委員，編集委員  
 木森佳子：日本看護シミュレーションラーニング学会，編集委員  
 木森佳子：看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2022. 5. 20, 2023. 2. 1

寺井梨恵子：第15回看護実践学会学術集会，研究講評  
 寺井梨恵子：公立宇出津総合病院，看護研究指導，2022. 6～2023. 3  
 寺井梨恵子：金城大学公衆衛生看護学専攻科，「地域と看護」講義，2022. 5. 13  
 寺井梨恵子：星稜高校，土曜授業GSP，2022. 6. 18  
 寺井梨恵子：金城大学看護学部，「地域と看護」講義，2023. 1. 31  
 小椋賢治，寺井梨恵子，瀬戸清華，千田明日香，加藤克典：石川県看護教員現任研修，「自分の授業から学ぶワークショップ」，石川県立看護大学，2022. 11. 5  
 寺井梨恵子：石川県立看護大学キャリア支援センター，「医療安全教育」講義，2022. 7

田村幸恵：看護研究指導，JCH0金沢病院，2022. 4. 28, 6. 16, 9. 29, 11. 29, 2. 28

瀬戸清華：かほく市介護認定審査会委員

瀬戸清華：宝達志水町介護認定審査会委員

瀬戸清華：宝達志水病院研究指導・講評（2022. 8. 1 2022. 12. 26  
2023. 3. 3）

瀬戸清華：石川県立野々市明倫高等学校看護セミナー（2022. 10. 25）

瀬戸清華：令和4年度小児慢性特定疾病児童等の保護者交流会 講師  
（2022. 11. 8）

瀬戸清華：令和4年度石川県看護教員現任研修，2022. 6. 11，11. 5

千田明日香：石川県看護教員現任研修，2022. 6. 11，11. 5

加藤克典：石川県看護教員現任研修

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

石川倫子，瀬戸清華，千田明日香，加藤克典：ご当地版 在宅療養移行支援システム創り，石川県立看護大学地域ケア総合センター，Web開催，2022. 10. 15

石川倫子，池田富三香，田村幸恵，瀬戸清華，千田明日香：いしかわマネジメント塾，石川県立看護大学地域ケア総合センター，対面およびWeb開催，2022. 5～11月に計8回開催

寺井梨恵子，松本智里，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「SDGs de 地方創生カードゲーム体験会」，石川県立看護大学，2022. 4. 21，8. 4

寺井梨恵子，松本智里，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「認知症世界の歩き方play!体験会」，オンライン（Zoom），2023. 5. 13

寺井梨恵子：かほく市いきいき公開講座，認知症世界の歩き方ダイアログ，2023. 2. 2

寺井梨恵子，松本智里，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「SDGs de 地方創生カードゲーム体験会」，七塚生涯学習センター，2023. 2. 23

寺井梨恵子，松本智里，瀬戸清華：地域ケア総合センター事業「認知症世界の歩き方ダイアログ」，七塚生涯学習センター，2023. 2. 23

田村幸恵：地域公開講座「新型コロナ・インフルエンザウィルスから身を守ろう！」講師，七塚健康福祉センター，2022. 11. 10

瀬戸清華：ラジオ出演 FMかほく 電話インタビューコーナー「子育て応援隊ひよっこの活動とピアサポート」（2022. 8. 29）

千田明日香：金沢マラソン2022（2022. 10. 30）学生引率

千田明日香：子育て支援メッセージいしかわ2022（2022. 11. 20）未来への絆プロジェクト HbA1c・血糖測定室ボランティア

## 6.5 母性看護学講座

所属（講座等）・職位	母性看護学講座・教授	氏名	濱 耕子
	母性看護学講座・教授		亀田 幸枝
	母性看護学講座・教授		米田 昌代
	母性看護学講座・講師		曾山 小織
	母性看護学講座・助教		桶作 梢
	母性看護学講座・助教		河合 美佳
	母性看護学講座・助教		野沢ゆり乃

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p><u>Saori Soyama</u>, Noriko Tabuchi, Yoshiko Maida, Noami Kagami: Factors related to taking folic acid supplements before next pregnancy in parous women. Journal of Wellness and Health Care, 46(1): 23-38, 2022. 8</p> <p>曾山小織, 米田昌代: 妊婦の身体活動に対する保健指導の縦断的観察. 看護理工学会誌, 10, 122-134, 2023. 3</p> <p>桶作梢, 米田昌代, 濱耕子: がん治療のために妊娠中断を余儀なくされたAYA世代女性がんサバイバーの次子妊娠への思いと契機. 母性衛生, 63(4), 968-976, 2023. 1</p> <p>桶作梢, 濱耕子, 米田昌代: AYA世代がんサバイバーのセクシュアリティにまつわる経験. 日本看護科学会誌, 43, 1-10, 2023. 6</p> <p>*中田覚子, 濱耕子: Content Validity Indexを用いた日本人妊婦のQuality of Life尺度の内容的妥当性の検証. 母性衛生, 63(2), 622-629, 2022. 7</p> <p>*中田覚子, 濱耕子: COVID-19の収束の見通しが立たない状況下における日本人妊婦の Quality of Life～A県内における実態調査～. 長野県母子衛生学会誌, 25, 1-6, 2023. 3</p>

	<p>&lt;査読無&gt;</p> <p>野沢ゆり乃, 立田愛美, 米田昌代: コロナ禍における産後1か月時に抱く母親の育児不安の実態. 小児保健いしかわ第35号, 18-25, 2023. 3</p>
<p>その他の原稿</p>	<p>米田昌代: ペリネイタル・グリーフケア検討会, 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業報告書, 19, 3-4, 2022. 6</p> <p>米田昌代: あかちゃんをお空にみ送られた方の自助グループに対するサポート活動, 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業報告書, 19, 15-16, 2022. 6</p> <p>曾山小織: 新人助産師のスキルアップ研修, 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業報告書, 19, 6, 2022. 6</p> <p>石川倫子, 瀧耕子, 寺井梨恵子: 石川県看護教員現任研修, 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター事業報告書, 9, 26-30, 2023. 3</p>
<p>学会発表 (研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等)</p>	<p>曾山小織, 田淵紀子, 毎田佳子, 鏡真美: 経産婦の葉酸サプリメント摂取予定と知識との関連, 第38回石川母性衛生学会, 金沢, 2022. 6, 第38回石川県母性衛生学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 14, 2022. 6</p> <p>*中田覚子, 瀧耕子: COVID-19の収束の見通しが立たない状況下における日本人妊婦のQuality of Lifeの実態, 第25回長野県母子衛生学会総会・学術講演会, 松本, 2022. 10, 第25回長野県母子衛生学会総会・学術講演会プログラム, 5, 2022. 10</p> <p>*小村未来, 瀧耕子: 母子保健推進員が産後早期の母親に子育て支援を行う際の難しさと工夫, 第63回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2022. 9, 母性衛生, 63(3), 194, 2022. 8</p> <p>*山崎愛満, 瀧耕子: 妊婦への帝王切開に関する集団指導の現状と、看護職者の集団指導の困難感や必要性の認識, 第63回日本母性衛生学会総会・学術集会, 神戸, 2022. 9, 母性衛生, 63(3), 240, 2022. 8</p> <p>*野川眞咲貴, 乙崎亜希子, 亀田幸枝: 妊娠前女性の出産に対する価値観と出産に対する不安との関係性. 第38回石川県母性衛生学会学術集会, 金沢, 2022. 6, 第38回石川県母性衛生学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 10, 2022. 6</p>

	<p>*<u>石出舞</u>, <u>米田昌代</u>, <u>野沢ゆり乃</u>: 不育症女性の心理についての文献研究. 第38回石川県母性衛生学会学術集会, 金沢, 2022.6, 第38回石川県母性衛生学会総会・学術集会プログラム・抄録集, 9, 2022.6</p> <p>益子直紀, 岩崎多津代, 近江圭祐, 太田佳男, <u>桶作梢</u>, 加藤由香, 小林幹紘, 齊田菜穂子, 齊藤太樹, 斎藤寛子, 高根秀成, 津村明美, 西岡英菜, 橋本理恵子, 平田陽香, 横井夢律美: 第37回日本がん看護学会学術集会, 交流集会「妊孕性温存を望む小児・AYA世代への看護」一緒に考えよう、私たちにできること, 神奈川, 2023.2, 第37回日本がん看護学会学術集会抄録集 (web) , 426, 2023.2</p> <p>Naoko Muro, Mirai Ohkawa, Kana Sometani, <u>Kozue Okesaku</u>, Yoko Onishi, Takao Hirai, Wataru Kakihana, Hideki Imai: Effect of coronavirus disease 2019 on lifestyle and mental health of Japanese information technology workers, 26th East Asia Forum of Nursing Scholars, Abstract Books 3 to 6, 2023.</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者 <u>米田昌代</u>: 周産期喪失に対するオンラインサポートグループミーティングシステムの開発と評価, 2020-2023, 科学研究費補助金基盤研究(C) 学術研究助成基金助成金基盤研究(C) 400千円</p> <p><u>亀田幸枝</u>, <u>瀧耕子</u>, <u>米田昌代</u>, <u>曾山小織</u>, <u>河合美佳</u>, <u>野沢ゆり乃</u>: 周産期の助産実践能力形成を促すルーブリックの開発と有用性, 2019-2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C) 1,900千円</p> <p><u>曾山小織</u>: 神経管閉鎖不全の発生リスク低減のための葉酸サプリメント摂取に関する女性の認識, 2019-2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C) 700千円</p> <p><u>桶作梢</u>: 治療後に出産するAYA世代がんサバイバーの周産期ケアモデル構築のための研究, 2019-2023, 学術研究助成基金助成金若手研究</p>

	<p>1,068千円</p> <p><u>西村真実子</u>, <u>金谷雅代</u>, <u>千原裕香</u>, <u>米田昌代</u>, <u>曾山小織</u> : 虐待や育児困難に悩む母へのペアレンティングプログラムを活用した継続的支援の評価, 2019-2023, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C) 744千円</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>本学教員が分担者</p>
学内研究助成金	<p><u>河合美佳</u>, <u>野沢ゆり乃</u>, <u>桶作梢</u>, <u>後藤亜希</u>, <u>千原裕香</u> : 母性看護学実習の分娩期の学びに360度カメラとVRゴーグルを導入したことによる効果, R4-R5, 学内研究助成 配分金額728千円</p> <p><u>垣花渉</u>, <u>今井秀樹</u>, <u>平居貴生</u>, <u>大西陽子</u>, <u>室野奈央子</u>, <u>桶作梢</u> : 健康と観光を融合したヘルスプロモーションの推進, R4-5, 石川県立看護大学学内研究助成</p>
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	
<b>社会貢献・地域貢献</b> 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>米田昌代</u> : 第53回 (2022年度) 日本看護学会学術集会抄録選考委員</p> <p><u>米田昌代</u> : 一般社団法人日本看護研究学会 専任査読委員</p> <p><u>米田昌代</u> : 一般社団法人日本助産学会 代議員</p> <p><u>米田昌代</u> : 日本母性看護学会 評議員 第25回日本母性看護学会学術集会一般演題査読 2023. 2</p> <p><u>米田昌代</u> : 看護実践学会 査読委員</p> <p><u>米田昌代</u> : 公益社団法人大学コンソーシアム運営委員会委員</p>

米田昌代：教育用電子カルテMedi-EYE 映像化プロジェクト 母性看護学事例 監修, エア・ウォーター・バイオデザイン株式会社

米田昌代, 後藤亜希：令和4年度かほく市子育て支援事業「幼児NP」ファシリテーター, 2022. 8 ～ 9

亀田幸枝：全国助産師教育協議会 資格・専門能力委員会委員, 2022. 9. 5 ～ 2023. 2. 28

亀田幸枝：一般社団法人日本助産学会 代議員

瀧耕子：一般社団法人日本助産学会 機関誌「日本助産学会誌」専任査読者

瀧耕子：一般社団法人日本看護学教育学会 機関誌「日本看護学教育学会誌」専任査読者

瀧耕子：石川県建築審査会委員（区分：公衆衛生）

瀧耕子：石川県開発審査会委員（区分：公衆衛生）

瀧耕子：かほく市創生総合戦略推進計画事業に係る外部評価委員会（有識者会議）委員長

瀧耕子, 瀧恵美子：ファミリーサポート協力会員養成講座及び協力会員研修会「子どもの事故防止とその対応について考える」（七尾市ファミリーサポートセンター NPO法人ぽっかぽか主催）講師, 七尾サンライフプラザ内矢田郷地区コミュニティセンター, 2023. 3. 10

下山節子, 瀧耕子, 桶作梢, 河合美佳：石川県立看護大学看護キャリア支援センター主催 令和4年度石川県看護教員現任研修「臨地実習指導に活かすコーチング」（講師：NPO法人日本看護キャリア開発センター代表 下山節子氏）企画・運営, 石川県立看護大学（かほく市）, 2022. 8. 27

桶作梢, 河合美佳：令和4年度大学コンソーシアム石川出張オープンキャンパス「やってみよう！新生児の看護」講師, 私立星稜高等学校, 2023. 1. 28

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

米田昌代, 濱耕子: 日本助産師会主催 厚生労働省委託事業「不妊症・不育症ピアサポーター等の養成研修」都道府県委託業務ピアサポーター向けグループワークファシリテーター・医療従事者向け記録係, オンライン研修, 2022. 11. 20, 2022. 12. 4

米田昌代, 曾山小織, 桶作梢, 河合美佳, 野沢ゆり乃, 他: 地域ケア総合センター人材育成事業 ペリネイタル・グリーンケア検討会企画・進行, 2022. 7. 17, 2023. 2. 19

米田昌代: 地域ケア総合センター地域貢献・連携事業 あかちゃんをお空へみ送った方の自助グループに対するサポート活動, 通年

米田昌代: SIDS家族の会 医学アドバイザー

米田昌代: NPO法人ワークライフバランス北陸 副理事長

米田昌代: 石川グリーンケアの会 グリーンケア・カフェ運営 隔月

亀田幸枝, 他: 第43回～第45回 金沢がん哲学外来講演会開催, オンライン開催, 2022. 6. 19, 2022. 10. 16, 2023. 2. 19

東浩司, 仲泉優, 濱耕子, 源司瑞季: 石川県健康福祉部少子化対策監室主催 次代を担う大学生向けライフプラン・キャリアデザインセミナー①「人生発見伝! 今から考えよう、充実した人生・キャリアの形成について～仕事も生活も充実した毎日に向けて～」出前講座の開催 (講師: 株式会社ソラーレ 代表 東浩司氏) ②結婚や妊娠・出産等に関する正しい知識に基づいたライフプラン形成についての情報提供 (講師: 石川県少子化対策監室母子保健グループ 保健師 仲泉優氏) 運営, 石川県立看護大学 (かほく市), 2023. 1. 18

金谷雅代, 米田昌代, 千原裕香, 後藤亜希, 曾山小織: 地域ケア総合センター地域連携・貢献事業 子育てどろっふ・イン・さろん, かほく市総合センターおひさま (かほく市), 2022. 8 ~ 12

曾山小織, 米田昌代, 河合美佳, 野沢ゆり乃, 亀田幸枝, 濱耕子: 新人助産師のスキルアップ支援, 石川県立看護大学 (かほく市), 2022. 9. 10

益子直紀, 津村明美, 小林幹紘, 桶作梢, 他: 日本がん看護学会小児・AYA世代がん看護特別関心グループ主催学習会「小児・AYA世代の妊孕性に関する看護 ～私たちにできることを一緒に考えませんか?～」企画者, オンライン, 2022. 11. 18

益子直紀, 津村明美, 小林幹紘, 桶作梢, 他: 日本がん看護学会小児・AYA世代がん看護特別関心活動グループ主催イベント「妊孕性温存を望む小児・AYA世代への看護 ～一緒に考えよう、わたしたちにできること～」AYA week 2023, オンライン, 2023. 3. 10

## 6.6 小児看護学講座

所属（講座等）・職位	小児看護学講座・准教授	氏名	金谷 雅代
	小児看護学講座・助教		千原 裕香
	小児看護学講座・助教		後藤 亜希

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>金谷雅代, 西村真実子: 子育て中の母親グループによる被サポート感尺度の作成と信頼性・妥当性の検討, 看護実践学会誌, 35 (1), p 82-90, 2023.</p> <p>金谷雅代, 西村真実子, 千原裕香: 保育士の視点から見たA県における在宅育児家庭通園保育の効果, 看護理工学会誌, 10, p111-121, 2023.</p> <p>千原裕香, 西村真実子: 高校生のための「親子交流を通して親になることを考えるプログラム」の効果. 小児保健研究, 81(4), 351-358, 2022.</p> <p>千原裕香, 西村真実子: 高校生のための「親子交流を通して親になることを考える」プログラムの効果に関連する要因の検討. 看護実践学会誌, 35 (1), p91-99, 2023.3</p> <p>*前川弓枝, 西村真実子, 千原裕香: 早期産褥期の母親を対象とした「ママにっこり安心子育てプログラム」の効果. 看護実践学会誌, 35 (1), p71-81, 2023.3</p> <p>&lt;査読無&gt;</p>
その他の原稿	<p>金谷雅代, 武山雅志, 柳井清治, 大丸裕武, 皆巳幸也, 長野峻介: 令和4年度石川県立看護大学と石川県立大学との共同研究助成プログラム成果報告書</p>

<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）</p>	<p>金谷雅代，曾根志穂，佐藤大介，酒井彰久，武山雅志：交流集会「防災意識をつなげていくために必要なことーコロナ禍の活動制限を受けて、その後の試みー」，日本災害看護学会第24回年次大会講演集，24（1），p96，オンラインLIVE配信</p> <p>子吉知恵美，千原裕香：発達障害児の早期支援のための実践能力としての保健師の共感性の特徴．日本地域看護学会第25回学術集会，富山，2022.8，日本地域看護学会学術集会講演集 25th（CD-ROM），2022</p> <p>Neyoshi C，Tsukasaki K，<u>Chihara Y</u>：Development of an evaluation scale for health guidance practice to support parents to accept their preschool child's developmental disability.26th East Asia Forum of Nursing Scholars（EAFONS），Tokyo，2023.3 EAFONS 2023 Abstract Book 4，390，2023</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者 <u>千原裕香</u>，<u>西村真実子</u>，<u>金谷雅代</u>：親になる前から始める子ども虐待の世代間伝達防止支援プログラムの開発，2019-2023，学術研究助成基金助成金基盤研究（C） R3年度直接経費 1192千円</p> <p><u>西村真実子</u>，<u>金谷雅代</u>，<u>千原裕香</u>，<u>米田昌代</u>，<u>曾山小織</u>：虐待や育児困難に悩む母へのペアレンティングプログラムを活用した継続的支援の評価，2019-2023，学術研究助成基金助成金基盤研究（C） R3年度直接経費 744千円</p> <p>本学教員が分担者 <u>武山雅志</u>，<u>曾根志穂</u>，<u>金谷雅代</u>：科学研究費助成事業（基盤研究C）「看護学生のコミュニケーション教育に及ぼす体験活動とフォーカシングの有効性の検証」</p> <p><u>桜井志保美</u>，<u>河野由美子</u>，<u>牛村春奈</u>，<u>金谷雅代</u>：科学研究費助成事業（基盤研究C）「訪問看護師向け2歳未満の医療的ケア児における食と発達に関する育児支援ガイド作成」</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>

<p>学内研究助成金</p>	<p>金谷雅代, *松本郁海, 千原裕香, 後藤亜希: AYA世代がんサバイバーの雇用促進に関連する事業所側の要因. R4, 石川県立看護大学学内助成, 配分金額205,435円</p> <p>河合美佳, 野沢ゆり乃, 千原裕香, 後藤亜希, 桶作梢: 母性看護学実習の分娩期の学びに360度カメラとVRゴーグルを導入したことによる効果. R4 ~ R5, 石川県立看護大学学内助成, 配分金額728千円</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	
<p>社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p>金谷雅代: 「小児保健コンサルテーション」講義, 石川県立保育専門学園専攻科, 2022. 4 ~ 2022. 8</p> <p>金谷雅代: 令和4年度特別支援学校における医療的ケアサポート運営協議会委員, 2022. 4 ~ 2023. 3</p> <p>金谷雅代: かほく市子ども・子育て支援会議委員, 2022. 4 ~ 2023. 3</p> <p>金谷雅代: 石川県立小松瀬領特別支援学校医療的ケアアドバイザー, 2022. 8</p> <p>金谷雅代: 石川県立いしかわ特別支援学校医療的ケアアドバイザー, 2022. 8</p> <p>金谷雅代: 石川県立明和特別支援学校医療的ケアアドバイザー, 2022. 9</p> <p>金谷雅代: 石川県立七尾特別支援学校医療的ケアアドバイザー, 2022. 11</p> <p>金谷雅代: 石川県立ろう学校医療的ケアアドバイザー, 2022. 11</p> <p>金谷雅代, 千原裕香: かほく市子育て支援事業「乳児NP」ファシリテーター, 2023. 2 ~ 2023. 3</p> <p>千原裕香, 西村真実子: かほく市子育て支援事業「乳児NP」ファシリテーター, 2022. 3~2022. 4</p> <p>後藤亜希, 米田昌代: かほく市子育て支援事業「幼児NP」ファシリテーター, 2022. 8~9</p> <p>千原裕香: 石川県立鹿西高校「総合的な探究の時間」学習支援講師, 2022. 7 ~ 2023. 2</p> <p>後藤亜希, 千原裕香: 金沢大学子どもまごころ発達研究センター・金沢市主催「友達づくりのソーシャルスキルトレーニングPEERSプロ</p>

グラム学校版」実証事業 講師, 2021.4 ~ 2023.2

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

金谷雅代, 武山雅志: 地域ケア総合センター事業「小・中・高校生と考える防災」実施, 2022.8, 2022.10, 2022.12

金谷雅代, 米田昌代, 千原裕香, 後藤亜希, 曾山小織: 子育てどろっふ・イン・さろん ファシリテーター, かほく市総合センターおひさま (かほく市), 2022.8 ~ 12

## 6.7 成人看護学講座

所属（講座等）・職位	成人看護学講座・教授	氏名	牧野 智恵
	成人看護学講座・教授		紺家千津子
	成人看護学講座・教授		峰松 健夫
	成人看護学講座・准教授		松本 智里
	成人看護学講座・准教授		松本 勝
	成人看護学講座・講師		大西 陽子
	成人看護学講座・助教		今方 裕子
	成人看護学講座・助教		瀧澤 理穂
	成人看護学講座・助教		大橋 史弥

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>峰松健夫：感染症をめぐる新たな動向と課題。真田弘美，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する。448-451，南江堂，東京，2023.3</p> <p>峰松健夫，北村言，真田弘美：老年看護の将来に向けた看護技術の動向。真田弘美，正木治恵（編集）：老年看護学技術（改訂第4版）最後までその人らしく生きることを支援する。452-458，南江堂，東京，2023.3</p> <p>松本勝，須釜淳子：高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 7.体温。真田弘美，正木治恵（編集）老年看護学技術(改訂第4版) 最後までその人らしく生きることを支援する。108-114，南江堂，東京，2023.3</p> <p>東村志保，松本勝，大江真琴，真田弘美：高齢者の生活と看護—加齢変化とフィジカルアセスメントの技術 4.排泄。真田弘美，正木治恵（編集）老年看護学技術(改訂第4版) 最後までその人らしく生きることを支援する。65-84，南江堂，東京，2023.3</p>
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>Hasegawa N, Makino T, Nakajima K, Matsumoto C, Takizawa R, Imakata Y: Protective measures to minimize Cyclophosphamide-induced surface contamination risk in breast cancer patients. International Journal of Nursing &amp; Clinical Practices, 9(361), 2022.</p>

Koizumi T, Nishino Y, Takiguchi T, Kanda S, Otsuki K, Tanaka Y, Tomita R, Araki T, Hayashi R, Yasumoto K, Uramoto H, Hirono Y, Makino T, Nakada M, Yano S: Epidemiological and therapeutic analyses of lung cancer patients in the Hokushin region: a retrospective hospital administrative database study. BMC Pulmonary Medicine, 2022.

Koizumi T, Nishino Y, Takiguchi T, Kanda S, Otsuki K, Tanaka Y, Tomita R, Araki T, Hayashi R, Yasumoto K, Uramoto H, Hirono Y, Makino T, Nakada M, Yano S: Epidemiological and therapeutic analyses in Lung Cancer patients over 80 years old in the Hokushin region: A retrospective hospital administrative database study. Clinical Lung Cancer, 24(2), 145-152, 2022.

Konya C, Takeuchi Y, Nakagami G, Kitamura A, Morita K, Ishizawa M, Abe Y, Higuchi H, Mizuki T, Motegi S, Shoju S, Shimada K, Tanaka K, Kawakami S, Sanada H: Nationwide time-series surveys of pressure ulcer prevalence in Japan. Journal of Wound Care, 31(Sup12), S40-S47, 2022. 12

Miyanaga A, Miyanaga T, Sakai K, Konya C, Asano K, Shimada K: Patient experience of negative pressure wound therapy: A qualitative study. Nursing Open, 10(3), 1415-1425, 2023. 5

Fujisawa C, Hamanoue M, Kawano Y, Murata D, Akishima-Fukasawa Y, Okaneya T, Minematsu T, Sanada H, Tsuburaya K, Isshiki T, Mikami T, Hanawa T, Akasaka Y: The Role for miR-146b-5p in the Attenuation of Dermal Fibrosis and Angiogenesis by Targeting PDGFR $\alpha$  in Skin Wounds. Journal of Investigative Dermatology, 142(7), 1990-2002, 2022. 7

Minematsu T, Tomida S, Tobe H, Koudounas S, Nakagami G, Sanada H: Evaluation of liquid-less biofilm staining on wound blotting samples. Journal of Nursing Science and Engineering, 9, 222-228, 2022. 7

Dai M, Minematsu T, Ogawa Y, Kawamoto A, Nakagami G, Sanada H: Association of dermal hypoechogenicity and a history of cellulitis in lower extremity lymphedema patients: A cross-

sectional observational study. *Lymphatic Research and Biology*, 20(4), 376-381, 2022. 8

Nitta S, Maeda T, Koudounas S, Minematsu T, Weller C, Sanada H: Which objective itch-assessment tools are applicable to patients with cognitive impairments? A scoping review. *International Journal of Older People Nursing*, 17(5), e12458, 2022. 9

Takizawa C, Minematsu T, Nakagami G, Kitamura A, Koudounas S, Kunimitsu M, Sanada H: Expression levels of NPPB, ITGB6, CPNE4, EML5, and ITSN1 in fresh exudates swabbed from critically colonised and infected full-thickness wounds in rats. *International Wound Journal*, Online ahead of print. 2020. 10

Nakai A, Minematsu T, Nitta S, Hsu WJ, Tobe H, Sanada H: Development of a method to identify persistent and blanchable redness by skin blotting in mice. *International Wound Journal*, Online ahead of print, 2022. 11

Tsuruoka K, Oe M, Minematsu T, Tomida S, Ohashi Y, Shimojima Y, Qin Q, Abe M, Yamauchi T, Sanada H: Association between elevated skin temperature of the foot callus and inflammatory marker in people with diabetes. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management*, 26(3):261-268, 2022. 11

Koudounas S, Minematsu T, Mugita Y, Nakai A, Tobe H, Takizawa C, Kunimitsu M, Nakagami G, Sanada H: Bacterial invasion into the epidermis of rats with SLS-irritated skin increases damage and induces incontinence-associated dermatitis. *International Wound Journal*, 20(1), 191-200, 2023. 1

Tobe H, Tamai N, Mugita Y, Nakai A, Nagata M, Minematsu T, Sanada H: Effect of a UV-free, carbon-arc phototherapy on eczema of a 3-year-old child: A single-case experimental study. *Journal of Nursing Science and Engineering*, 10, 76-87, 2023. 1

Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Hattori N, Sanada H: Nutritional management using ultrasonography of the temporal muscle for patients with pressure injuries in a home care setting: A case report. *Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management*, 26(4), 384-390, 2023.1

Kunimitsu M, Nakagami G, Minematsu T, Koudounas S, Sanada H: An in vivo critically colonized wound model with dysbiotic wound microbiota. *International Wound Journal*, 20(3): 648-658.

新田汐里, 峰松健夫, 富田早苗, 戸部浩美, 前田智徳, 真田弘美: ドライスキン由来の痒み易知覚モデルラットにおける表皮及び真皮乳頭層でのC線維数の増加. *看護理工学会誌*, In press.

Sugama J, Ishibasi M, Ota M, Kamakura Y, Saito E, Sanada H, Nakayama T, Nomura T, Yamada M, Nakagami G, Sato N, Shibata S, Hase T, Fukada J, Miki T, Arita M, Urai T, Okawa Y, Kitamura A, Dai M, Takahashi T, Tamai T, Tobida I, Noguchi H, Matsumoto M, Miura Y, Mukai K, Mugita Y, Yoshida M, Kurachi M, Sirasaka T, Yamane Y: Japanese clinical practice guidelines for aspiration and pharyngeal residual assessment during eating and swallowing for nursing care. *Japan Journal of Nursing Science*, e12496, 2022.

Takahashi T, Murayama R, Abe M, Nakagami G, Matsumoto M, Sanada H: Automatic Vein Measurement by Ultrasonography to Prevent Peripheral Intravenous Catheter Failure for Clinical Practice Using Artificial Intelligence: Development and Evaluation study of an Automatic Detection Method Based on Deep Learning. *BMJ Open*, 12, e051466, 2022.

Takizawa C, Kitamura A, Nakagami G, Matsumoto M, Hayashi C, Kawasaki A, Sanada H: The relationship between the temperature distribution detected by thermography and suspected deep tissue injuries. *Japan Journal of Pressure Ulcers*, 24(1): 14-28, 2022.

Kitamura A, Nakagami G, Matsumoto M, Hayashi C, Kawasaki A,

Sanada H: Effectiveness of a robotic mattress with automatic inner-air cell adjustment and continuous pressure mapping on prevention of pressure ulcer deterioration in a critically ill patient with a pressure ulcer in the sacrum. Journal of Japanese Society Wound, Ostomy, and Continence Management, 25(4): 689-696, 2021.

Abe-Doi M, Murayama R, Takahashi T, Matsumoto M, Tamai N, Nakagami G, Sanada H: Effects of ultrasound with an automatic vessel detection system using artificial intelligence on the selection of puncture points among ultrasound beginner clinical nurses. The Journal of Vascular Access, 2023. in press.

Astrada A, Fajrianita I, Nakagami G, Matsumoto M, Kawamoto A, Sanada H: Ultrasonographic features of diabetic foot osteomyelitis: a case series. J Wound Care, 31(9):748-754, 2022.

秋山和宏, 浦田克美, 佐野由美, 大塚菜月, 松本勝, 真田弘美: 多職種協働による排便サポート回診の実践. 日本創傷・オストミー失禁管理学会誌, 26(3), 298-302, 2022.

須釜淳子, 石橋みゆき, 大田えりか, 鎌倉やよい, 才藤栄一, 真田弘美, 中山健夫, 野村岳志, 山田雅子, 仲上豪二郎, 佐藤直子, 柴田斉子, 長谷剛志, 深田順子, 三鬼達人, 有田弥棋子, 浦井珠恵, 大川洋平, 北村言, 臺美佐子, 高橋聡明, 玉井奈緒, 飛田伊都子, 野口博史, 松本勝, 三浦由佳, 向井加奈恵, 麦田裕子, 吉田美香子, 倉智雅子, 白坂誉子, 山根由起子: 摂食嚥下時の誤嚥・咽頭残留アセスメントに関する看護ケアガイドライン. 日本看護科学会誌, 42, 790-810, 2022

Imakata Y, Sugama J, Ichihashi S, Oohashi F, Kobayashi M, Oe M: Characteristics of development and healing process of docetaxel-induced lower limb edema in patients with Stage IV breast cancer: A case series. Journal of Palliative Reports, 4(1), 269-277, 2023,

Imakata Y, Miyamae N, Sugama J, Oe M: Clinical features of

	<p>edema in patients with breast cancer receiving docetaxel: A scoping review. Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management, 26(4), 325-334, 2022,</p> <p><u>Imakata Y</u>, Sugama J, Okuwa M, Kayahara M, Munemoto M, Sakakura K., Yamamor Y., Dake K., Edo C, Oe M.,: Clinical features of lower limb edema in patients with breast cancer who underwent docetaxel chemotherapy: A retrospective observational study. Journal of Japanese Society of Wound, Ostomy and Continence Management, 26(3), 2022,</p> <p><u>Oohashi F</u>, Oe M, Sugama J: Cumulative recurrence rate of pressure ulcers in bedridden older adults healed with conservative treatment. Japanese Society of Wound, Ostomy, and Continence Management, 27(1), 2023.3 (in press)</p> <p>&lt;査読無&gt;</p> <p><u>牧野智恵</u>: 実存的苦悩をいただくがん患者の生きる意味を呼び覚ます看護～V.E. フランクル理論を手がかりに～. SGH看護特別賞報告書, 2023.</p> <p><u>紺家千津子</u>: 褥瘡発生の要因とリスクアセスメント. 日本医師会雑誌, 151(8), 1348-1351, 2022. 11</p> <p><u>紺家千津子</u>: 排尿自立支援講習会後の現状と外来実践への示唆 在宅患者訪問看護・指導料3の算定要件拡大を図る ICT利用でストーマ周囲皮膚障害の看護指導. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(1), 20-22, 2022. 6</p> <p>石澤美保子, 佐竹陽子, 西林直子, <u>紺家千津子</u>: 高齢者における防ぎきれない褥瘡の実態調査(予備調査)報告 「防ぎきれない褥瘡」実態調査の目的について 日本褥瘡学会実態調査への組み入れ. 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(1), 28, 2022. 6</p> <p><u>峰松健夫</u>, <u>真田弘美</u>: 車いすアスリーの褥瘡予防. 日本医師会雑誌. 151(8), 1388, 2022. 11</p>
その他の原稿	<p><u>松本勝</u>, 玉井奈緒, 三浦由佳, 高橋聡明, 北村言, <u>真田弘美</u>: Seminar 3. エコーを用いたアセスメントに基づく高齢者の便秘ケ</p>

	<p>ア. 特集：老年看護学の新しい姿. Geriatric Medicine(老年医学), 61(3), 221-226, 2023.</p> <p><u>松本勝</u>：セミナーレポート「第2回慢性便秘エコー研究会：チーム医療としての便秘エコー」シンポジウム①『便秘エコー普及のための教育とAIによる読影支援』看護師がフィジカルアセスメントに用いるエコーの教育プログラム開発とAI支援. 映像情報メディカル, 55(3), 66-69, 2023.</p> <p><u>松本勝</u>：看護研究の玉手箱：高齢者の便秘アセスメントのために直腸エコー画像から便貯留・硬便貯留を検出するAIの開発. 公益社団法人日本看護科学学会. オンライン. 2022. 8.</p> <p><u>真田弘美</u>, <u>松本勝</u>：特集 学会横断テーマ「少子高齢化社会を支える革新技术の提案」看護理工学におけるイノベーション. 日本機械学会誌, 126(1252), 7-11, 2023.</p> <p>三浦由佳, 玉井奈緒, <u>松本勝</u>, 永田みさ子, <u>真田弘美</u>：寄稿：嚥下機能評価におけるエコー利用の可能性. 週間医学会新聞第3467号, 2022.</p> <p><u>瀧澤理穂</u>：石川県立看護大学附属地域ケア総合センター事業報告書, 19, 29-30.</p>
<p>学会発表（研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等）</p>	<p><u>紺家千津子</u>：今、皮膚・排泄ケアの原点に立ち返る（理事長講演）, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜(Web開催), 2022. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(2), 89, 2022</p> <p><u>紺家千津子</u>, 小柳礼恵：エクセレント排便管理に向けて：新アドホック委員会の活動（シンポジウム）, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜（Web開催）, 2022. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(2), 143, 2022</p> <p>石澤美保子, 仲上豪二郎, <u>紺家千津子</u>, 北村言, 西林直子, 森田光治良, 安倍吉郎, 田中克己, 茂木精一郎, 正寿佐和子, 島田賢一, 樋口浩文, 水木猛夫：コンセンサスシンポジウム 実態調査委員会報告 分析方法の検討と第5回実態調査報告, 第25回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2022. 8, 日本褥瘡学会誌, 24(3), 278, 2022</p>

内匠薫, 吉本聡美, 紺家千津子: 多発褥瘡を有する寝たきり患者の安楽な体位を体動センサで評価した1事例, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜 (Web開催), 2022. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26 (2), 185, 2022

新田汐里, 峰松健夫, 戸部浩美, 前田智徳, 真田弘美: NGF/SEMA3A比の検出によるドライスキン由来の癢痒症における痒み易知覚状態の同定. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26 (2), 47, 2022

板橋みずほ, 玉井奈緒, 三浦由佳, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 下澤達雄, 角田誠, 鈴木基文, 井口靖浩, 真田弘美: オムツ内における尿路感染症同定を目的とした初尿中バイオマーカーの妥当性検証. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26 (2), 48, 2022

Kunimitsu M, Nakagami G, Minematsu T, Sanada H: A critically colonized wound model by transplanting microbiota dissimilar to that of peri-wound skin. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26 (2), 5, 2022

Takizawa C, Minematsu T, Nakagami G, Kitamura A, Koudounas S, Kunimitsu M, Sanada H: Development of mRNA markers of wound infection in fresh exudate of rat full-thickness wounds. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26 (2), 6, 2022

Haba D, Nakagami G, Qin Q, Minematsu T, Sanada H: Local low-frequency vibration promotes wound healing of the full-thickness wound in the diabetic rat. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26 (2), 7, 2022

仲上豪二郎, 玉井奈緒, 村山陵子, 峰松健夫, 松本勝, 阿部麻里, 高橋聡明, 真田弘美: 文科省DX補正予算はこう活用しよう! 看護基礎教育で身に着きたいエコーを用いた老年看護のフィジカルアセスメント技法. 日本老年看護学会第27回学術集会, かほく, 2022. 6,

日本老年看護学会第27回学術集会抄録集, 88, 2022

滝沢知大, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 北村言, 國光真生, 真田弘美: 高齢者の褥瘡管理におけるドレッシング交換及び創部洗浄の頻度の治癒遅延への影響 ラットクリティカルコロナイゼーション創モデルの作成. 日本老年看護学会第27回学術集会, かほく, 2022.6, 日本老年看護学会第27回学術集会抄録集, 137, 2022

國光真生, 仲上豪二郎, 峰松健夫, 真田弘美: ディスバイオシス状態の創部細菌叢が惹起する臨界的定着と制御性T細胞の関連: 機序解明に向けた基礎的検討. 第24回日本褥瘡学会学術集会, 横浜, 2022.8, 日本褥瘡学会誌, 24(3), 296, 2022

Hasegawa Y, Yoshida M, Minematsu T, Sugama J, Sanada H: Reliability and validity of visual assessment of temporal muscle wasting: cross-sectional study. 44th European Society for Clinical Nutrition and Metabolism Congress, Vienna, 2022.9

Haba D, Qin Q, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: A new strategy to enhance wound healing of diabetic foot ulcers based on the novel promotion mechanism of glycometabolism by local low-frequency vibration. The 22nd edition of the interdisciplinary Diabetic Foot Conference, Los Angeles, 2022.9

加藤頼子, 藤井隆夫, 尾田友香, 平田善彦, 平大輔, 峰松健夫, 臺美佐子, 仲上豪二郎, 國光真生, 真田弘美: 褥瘡患者の創部細菌叢と予後との関連の予備的検討: 次世代シーケンサーによるメタ16S解析と機械学習. 第74回日本生物工学会大会, WEB, 2022.10, 第74回日本生物工学会大会プログラム, 17, 2022

幅大二郎, 大宮誉史, 関野正樹, 秦斉, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: ウェアラブルバイブレーションドレッシング材による糖尿病モデルラット皮膚全層欠損創への創傷治癒促進効果の検証. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022.10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 44, 2022

板橋みずほ, 玉井奈緒, 三浦由佳, 峰松健夫, 仲上豪二郎, 下澤達雄, 角田誠, 鈴木基文, 井口靖浩, 真田弘美: おむつ内センサーを

用いた尿路感染症アセスメントを目的とした初尿中バイオマーカーの治療反応性検討. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022. 10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 74, 2022

國光真生, 仲上豪二郎, 峰松健夫, Koudounas S, 真田弘美: 制御性T細胞とディスバイオシス状態の創部細菌叢の関連: 新規臨界的定着予防介入の確立に向けた基礎的検討. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 59, 2022

幅大二郎, 秦斉, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: 局所低周波振動刺激による糖代謝と血管拡張/新生を介した糖尿病ラット全層欠損創治癒促進効果の検証. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 61, 2022

峰松健夫, 富田早苗, 中井彩乃, Koudounas S, 真田弘美: アデノシン三リン酸(ATP)スキンプロット検査による圧迫皮膚の細胞障害の同定. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 78, 2022

中井彩乃, 峰松健夫, 竹原君江, 真田弘美: I度褥瘡モデルマウスを用いた変性コラーゲンの検出. 第52回日本創傷治癒学会, 名古屋, 2022. 11, 第52回日本創傷治癒学会プログラム・抄録集, 83, 2022

Kunimistu M, Nakagami G, Minematsu T, Sanada H: Relationship between healing status and microbial dissimilarity in wound and peri-wound skin in pressure injuries The 9th International Human Microbiome Consortium Congress, 2022.11

峰松健夫: リンパ浮腫に伴う皮膚の脆弱化. 国際リンパフレームワーク・ジャパン研究協議会第11回学術集会, WEB, 2022. 11

幅大二郎, 秦斉, 滝沢知大, 富田早苗, 峰松健夫, 真田弘美, 仲上豪二郎: 超音波と低周波振動の糖代謝促進効果の比較検証. 日本物理療法合同学術大会2023, 東京, 2023. 2

Tsuchiya H, Tomida S, Abe M, Higashimura S, Minematsu T, Sanada H, Nakagami G: Development and evaluation of a rapid taurine concentration measurement method for skin blot

examination for early detection of dehydration. 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, 2023. 3

松本智里, 今方裕子: 看護師がアピアランスケアにおいて多職種との協働を行う際に抱く困難感, 第37回日本がん看護学会学術集会, P8-109 ; 2023. 2

\*橋本愛美, 松本智里, 瀧澤理穂: 老年期にある終末期がん患者が表出するスピリチュアルペインの特徴に関する文献検討, 第37回日本がん看護学会学術集会, P6-80 ; 2023. 2

\*小竹彩華, 松本智里, 瀧澤理穂: 妊孕性低下が懸念されるAYA世代女性がん患者の心理とその看護に関する文献検討, 第37回日本がん看護学会学術集会, P13-191 ; 2023. 2

\*上村美鈴, 松本智里, 瀧澤理穂: 初回離床における臨地実習と学内実習のそれぞれの学生の学びについて, 第48回日本看護研究学会学術集会, P-22 ; 2022. 8

松本勝: ハンズオンセミナー1 WOCNと多職種の排便サポートチームによる便秘への新しい介入方法. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, オンライン, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会プログラム・抄録集. 34, 2022.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 真田弘美: ランチオンセミナー3 在宅・訪問看護におけるPOCUS教育・遠隔支援の現状. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, 2022. 5, 日本超音波医学会第95回学術集会 プログラム・抄録集.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 真田弘美: パネルディスカッション 救急 (POCUS・横断) 1, 『チーム医療におけるPOCUS—多職種連携とPOCUS—』看護におけるエコーを用いた第6のフィジカルアセスメント: 可視化. 日本超音波医学会第95回学術集会, 名古屋, 2022. 5, 日本超音波医学会第95回学術集会 プログラム・抄録集.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 真田弘美: シンポジウム6: ものづくりに必要なノウハウ. 看護師がフィジカルアセスメントに用いるエコー装置および教育プログラムの開発. 第97回日本医療機器学会大会, 横浜, 2022. 6, 医療機器学, 2022;92(2):74.

松本勝：イブニングセミナー 4ポータブルエコーを用いた排便アセスメントで臨床現場が変わる. 第35回日本老年泌尿器科学会, 甲府. 2022. 6, 第35回日本老年泌尿器科学会 プログラム・抄録集.

松本勝：教育講演2 第6のフィジカルアセスメント「エコーによる可視化」を利用した高齢者の便秘アセスメント. 日本老年看護学会第27回学術集会. オンライン. 2022. 6-7, 日本老年看護学会第27回学術集会プログラム・抄録集.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 紺家千津子, 真田弘美：看護師によるエコーを用いた便秘のアセスメント. オーガナイズドセッションOS3-3-2「新時代の健康ニーズに応える看護学と工学の共創」第61回日本生体医工学会大会. 新潟, 2022. 6, 第61回日本生体医工学会大会 プログラム・抄録集.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 紺家千津子, 真田弘美：看護師による第6のフィジカルアセスメント：エコーによる可視化. 交流集会「経験と勘に基づくケアから科学的エビデンスに基づくケアへ変換！！」, 第53回日本看護学会学術集会, 札幌, 2022. 9, 第53回日本看護学会学術集会 プログラム・抄録集.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 紺家千津子, 真田弘美：看護師による第6のフィジカルアセスメント：エコーによる可視化. 交流集会「経験と勘に基づくケアから科学的エビデンスに基づくケアへ変換！！」, 第53回日本看護学会学術集会, 札幌, 2022. 9, 第53回日本看護学会学術集会 プログラム・抄録集.

松本勝：看護ケア開発・標準化委員会企画シンポジウム「看護行為の開発ならびに標準化のプロセス」CS-2 ガイドライン アルゴリズムとCQ. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12, 第42回日本看護科学学会学術集会 プログラム・抄録集, 143, 2022.

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 紺家千津子, 真田弘美：シンポジウムI 『便秘エコー普及のための教育とAIによる読影支援』, 看護師がフィジカルアセスメントに用いるエコーの教育プログラム開発とAI 支援. 第2回慢性便秘エコー研究会, 2022. 12, 第2回慢性便秘エコー研究会プログラム・抄録集, 9, 2022.

松本勝, 高橋聡明, 北村言, 保坂明美, 渡辺久美, 津田桃子, 紺家

千津子, 真田弘美: 訪問看護師に対する遠隔エコーコンサルテーションにおけるAR技術の活用による手技伝達方法の考案. 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会, オンライン, 2022. 5, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会プログラム・抄録集, 50, 2022.

増田稔, 脇田早苗, 田中香美, 鈴木基文, 久米春喜, 松本勝, 玉井奈緒, 真田弘美: イブニングセミナー4泌尿器科病棟看護師によるポータブルエコーを用いた排尿アセスメントと骨盤底筋訓練. 第35回日本老年泌尿器科学会, 甲府, 2022. 6, 第35回日本老年泌尿器科学会プログラム・抄録集.

玉井奈緒, 松本勝, 三浦由佳, 永田みさ子, 真田弘美: 教育講演5在宅ケアに活かす可視化によるアセスメント: 看護のエコー. 第27回日本在宅ケア学会学術集会, オンライン, 2022. 7, 第27回日本在宅ケア学会学術集会プログラム・抄録集.

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 須釜淳子, 真田弘美: パネルディスカッション3「The 嚥下エコー」, 誤嚥と残留物を可視化する嚥下エコーのこれまでと将来展望. 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会, 千葉, 2022. 9, 第28回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会プログラム・抄録集.

玉井奈緒, 板橋みずほ, 三浦由佳, 河本敦夫, 永田みさ子, 松本勝, 真田弘美: 成人・高齢者における尿路感染症とエコーを用いた膀胱内沈殿物所見の関係探索. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022. 10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 42, 2022.

高橋聡明, 仲上豪二郎, 松本勝, 北村言, 麦田裕子, 東村志保, 真田弘美: 複合現実技術を用いた医療技術シミュレーションの評価 -筋肉注射シミュレータの試用-. 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022. 10, 第10回看護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 37, 2022.

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 北村言, 村山陵子, 阿部麻里, 高橋聡明, 麦田裕子, 永田みさ子, 小路和幸, 仲上豪二郎, 須釜淳子, 紺家千津子, 真田弘美: エコーを用いた排泄ケア実装の促進要因と阻害要因, 第10回看護理工学会学術集会, 東京, 2022. 10, 第10回看

護理工学会学術集会プログラム・抄録集, 84, 2022.

三浦由佳, 玉井奈緒, 松本勝, 永田みさ子, 須釜淳子, 真田弘美: 日常生活行動「食べる」を支える看護ケアイノベーション. シンポジウム「生きる」を支える看護ケアのイノベーション. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12, 第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 119, 2022.

高橋聡明, 東村志保, 寶萊哲彦, 阿部智子, 北村言, 松本勝, 仲上豪二郎, 真田弘美: 訪問系サービス利用者におけるコミュニケーションロボットの長期間活用 -バイタルサイン測定機器連動システムの開発-. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12, 第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 572, 2022.

阿部麻里, 村山陵子, 高橋聡明, 松本勝, 玉井奈緒, 仲上豪二郎, 真田弘美: 末梢静脈カテーテル留置のための穿刺部位選定におけるAIによるエコー画像読影サポート機能の効果. 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12, 第42回日本看護科学学会学術集会抄録集, 569, 2022.

佐野由美, 山脇衣織, 浦田克美, 大塚菜月, 秋山和宏, 松本勝: 経臀裂アプローチ走査法によりガス像を確認できた高齢患者の2症例. 第2回慢性便秘エコー研究会, 2022. 12, 第2回慢性便秘エコー研究会プログラム・抄録集, 23, 2022.

Shimada S, Takahashi T, Kitamura A, Matsumoto M, Mugita Y, Nakagami G, Sanada H: Assessing the reliability of the video-based objective evaluation checklist for skill of pressure injury care provided in home healthcare setting. The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, 2023. 3, The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars Abstract Book3, 209, 2023.

松本勝, 山中知子, 皆月美幸, 水谷衣里, 高田千嘉, 紺家千津子, 真田弘美: 携帯型エコーを用いた大腸便貯留観察により下剤投与量および排便回数が減少した寝たきりPEG患者の一例, 第26回PEG・在宅医療学会学術集会, 金沢 (Web開催), 2022. 9, PEG・在宅医療学会学術集会プログラム抄録集26回, 79, 2022

松本勝, 玉井奈緒, 三浦由佳, 永田みさ子, 紺家千津子, 真田弘美:  
ポータブルエコーを用いた排便アセスメントで臨床現場が変わる。  
第35回日本老年泌尿器科学会, 山梨, 2022. 6, 日本老年泌尿器科学  
会誌, 35(1), 73, 2022

大西陽子, 村井嘉子, 中島恵美子: リンパ浮腫患者のセルフケア支  
援に関する文献レビュー. 第6回日本リンパ浮腫学会総会, 大阪,  
2023. 3, 第6回日本リンパ浮腫学会総会プログラム・抄録集, 84,  
2023.

Imakata Y, Miyamae N, Sugama J, Oe M: Clinical features of  
edema in patients with breast cancer receiving docetaxel: A  
scoping review. Japanese Society of Wound, Ostomy& Continence  
Management, 2022

宮前奈央, 今方裕子, 大江真琴: 放射線治療を受ける頭頸部がん患者  
の重症放射線皮膚炎の形態的特徴に関するスコوپングレビュー.  
日本創傷治癒学会, 2022

瀧澤理穂, 牧野智恵: 乳がん患者が子どもに病名を伝えることへの  
看護介入の困難感に関するアンケート調査, 第27回日本緩和医療学  
会学術集会, 神戸, 2022. 7

Takizawa R, Makino T: Experiences of breast cancer patients  
who worry about telling their children about the disease. 26<sup>th</sup>  
East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, 2023. 3

Kazama J, Oohashi F, Kurabayashi S, Oyama Y: Resilience and  
mutual assistance activities that affect subjective quality  
of life in community-dwelling older adults and their  
associations. 26<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars 2023,  
Tokyo, 2023. 3

Oohashi F, Oe M, Sugama J: The most appropriate duration for  
preventing recurrent pressure ulcers among patients with  
pressure ulcers undergoing conservative treatment. 26<sup>th</sup> East  
Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, 2023. 3

大橋史弥: 心不全療養者によるセルフモニタリング心エコーの確立

	<p>に向けて. 第1回次世代看護研究会, 東京大学, 2022. 8</p> <p><u>大橋史弥</u>, <u>紺家千津子</u>: 作業療法士が希望する褥瘡ケアへの相談・教育支援と多職種連携の在り方, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜 (Web開催), 2022. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(2), 223, 2022</p> <p><u>大橋史弥</u>, <u>紺家千津子</u>: 看護師が希望する褥瘡ケアに関する相談・教育支援の実態, 第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会, 横浜 (Web開催), 2022. 5, 日本創傷・オストミー・失禁管理学会誌, 26(2), 223, 2022</p> <p><u>Oohashi F</u>, <u>*Katano S</u>, <u>*Miya M</u>, <u>Onishi Y</u>, <u>Matsumoto M</u>, <u>Kimori K</u>, <u>Minematsu T</u>, <u>Fujino N</u>, <u>Konya C</u>: Using self-monitoring echocardiography to delineate and measure the inferior vena cava diameter by patient receiving treatment for heart failure, 26<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars 2023, Tokyo, 2023. 3</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が研究代表者</p> <p><u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>須釜淳子</u>, <u>松本勝</u>, <u>大橋史弥</u>: 介護保険施設のリモート支援による最良な皮膚障害予防・管理実装モデルの構築, R4 ~ R7, 科学研究費助成金助成金基盤研究 (B)</p> <p><u>峰松健夫</u>, <u>真田弘美</u>, <u>仲上豪二郎</u>, <u>Koudounas Sofoklis</u>: 療養生活モニタリングに有用な採血に代わるスキンプロット生化学検査法の開発, R3 ~ R5, 科学研究費補助金基盤研究 (B)</p> <p><u>真田弘美</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>仲上豪二郎</u>, <u>大貝和裕</u>, <u>紺家千津子</u>: 滲出液エクソソームマーカー検出人工リポソームの開発: 創傷アセスメントの新たな展開, R4 ~ R7, 学術研究助成基金挑戦的研究 (開拓)</p> <p><u>真田弘美</u>, <u>須釜淳子</u>, <u>峰松健夫</u>, <u>大貝和裕</u>, <u>岡本成史</u>, <u>仲上豪二郎</u>, <u>玉井奈緒</u>, <u>下澤達雄</u>: スマートホームケア構想実現のための非侵襲的リキッドアセスメント技術の開発, R2 ~ R5, 科学研究費補助金基盤研究 (A)</p> <p><u>松本勝</u>, <u>河本敦夫</u>, <u>小路和幸</u>, <u>玉井奈緒</u>, <u>三浦由佳</u>, <u>仲上豪二郎</u>,</p>

真田弘美：訪問看護師のための超音波検査技術遠隔学習システムの構築と在宅での実装。R3～6, 科学研究費助成事業, 基盤研究(B)

本学教員が分担者

北川敦子, 野村義宏, 佐久間淳, 峰松健夫, 松崎恭一, 紺家千津子: スキンテアを惹起する皮膚脆弱モデルの創出から革新的な予防・治療促進ケア方法の確立, R4～R7, 科学研究費助成金助成金基盤研究(B)

玉井奈緒, 峰松健夫, 真田弘美, 高橋聡明: スマートセンサーとAIによるがん性皮膚潰瘍においモニタリング・ケアシステムの開発, R4～R7, 科学研究費補助金基盤研究(B)

北川敦子, 野村義宏, 佐久間淳, 峰松健夫, 松崎恭一, 紺家千津子: スキンテアを惹起する皮膚脆弱モデルの創出から革新的な予防・治療促進ケア方法の確立, R4～R6, 科学研究費補助金基盤研究(B)

仲上豪二郎, 関野正樹, 山内敏正, 栗田昌和, 南豪, 麦田裕子, 峰松健夫, 真田弘美: 新規糖代謝促進メカニズムによる糖尿病足潰瘍治療促進デバイス: 創傷看護学の新展開, R3～R5, 学術研究助成基金挑戦的研究(開拓)

竹原君江, 常深祐一郎, 峰松健夫, 野口博史, 本田育美: 看護理工学的手法を用いた足白癬トータルケアシステムの確立, R3～R5, 科学研究費補助金基盤研究(B)

大場美穂, 真田弘美, 野村美香, 大江真琴, 峰松健夫, 竹原君江, 小林珠実, 土井英子: 透析患者に対するテーラーメイドケアを目指した非侵襲的な皮膚生理機能評価方法の開発, R3～R6, 学術研究助成基金基盤研究(C)

仲上豪二郎, 峰松健夫, 大貝和裕, 北村言, 須釜淳子, 真田弘美: 創傷環境調整による褥瘡細菌叢の最適化: 創部バイオフィルム制御法の開発, R2～R4, 科学研究費補助金基盤研究(B)

米澤かおり, 樋口幸, 峰松健夫, 春奈めぐみ: スキンブロッティング法を用いた新生児の皮膚トラブル発症のメカニズム解明, R2～R5, 科学研究費補助金基盤研究(B)

田中真琴, 峰松健夫, 川上明希, 真田弘美: 非侵襲的検体採取法による直腸肛門粘膜からの炎症性サイトカインの検出, R1 ~ R4, 学術研究助成基金基盤研究 (C)

内山美枝子, 近藤世範 (李鎔範), 峰松健夫, 大貝和裕, 飯島淳彦, 黒瀬雅之, 玉井奈緒, 小山諭, 坂上百重, 横野知江, 柏美智, 奥田明子, 坂井さゆり: 抗がん剤脱毛時の頭皮悪化が予測できるウィッグ装着型ウェアラブル端末の開発, R1 ~ R4, 科学研究費補助金基盤研究 (B)

三浦由佳, 河本敦夫, 松本勝, 真田弘美, 長谷剛志, 小路和幸, 玉井奈緒: 在宅でのエコーを用いた嚥下視える化データベースに基づく介入の肺炎予防効果の検証. R4~7, 学術研究費助成事業, 基盤研究 (B)

< 科学研究助成基金助成金 >

本学教員が研究代表者

牧野智恵, 松本智里, 瀧澤理穂, 今方裕子: がん遺伝子パネル検査を受ける患者の体験. R3 ~ R6, 学術研究基金補助金基盤研究 (C)

大西陽子: 浅い鎮静管理における人工呼吸器装着患者の固有反応の理解とその習得方法に関する研究, R4 ~ R6, 科学研究費助成事業 若手研究

大橋史弥: 在宅心不全療養者へのセルフ心エコー導入による先駆的な遠隔医療システムのモデリング, R4~R6, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究

瀧澤理穂: 乳がん患者が子どもに病名を伝える苦悩の体験, R2 ~ R5, 科学研究費助成事業若手研究

本学教員が分担者

松井優子, 久村和穂, 紺家千津子, 大貝和裕: がん患者のピアランス問題解決のための美容業と患者の互助を促すICTツールの開発, R4 ~ R7, 科学研究助成基金助成金基盤研究 (C)

木下幸子, 須釜淳子, 松井優子, 浅野きみ, 紺家千津子, 北村佳子: チューブやカテーテル類による圧迫創傷予防のためのモデル作成と予防ケアの構築, R2 ~ R4, 科学研究助成基金助成金基盤研究 (C)

	<p>浅野きみ, <u>紺家千津子</u>, 野口美樹, 道合万里子, 中島由香里: 非造影CT画像における乳癌術後リンパ浮腫の予測ツールの開発, R2 ~ R5, 科学研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>津田裕子, <u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>大橋史弥</u>: 革新的な観察手技によるおむつ内皮膚障害のアセスメントツールの開発と検証, R4 ~ R7, 科学研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>牧野真弓, 加藤真由美, 古江由加里, <u>松本智里</u>, 正源寺美穂, 泉キヨ子: 認知症患者へ身体拘束を回避した転倒予防ケアを行う看護師チームメンタルモデルの構築, R2~R5, 科学研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p>玉井奈緒, <u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>, 高橋聡明, 仲上豪二郎: セルフエコーとAIケアリコメンデーションによる骨盤底筋訓練サポートシステムの開発. R4~R6, 学研究費助成事業, 挑戦的研究(萌芽)</p> <p>風間順子, 佐藤由美, 大山良雄, 大場志野, 倉林しのぶ, <u>大橋史弥</u>, 柏瀬淳: 高齢者サロンを活用した高齢者のレジリエンス向上モデルの構築と有効性の検証, R1~R5, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C)</p>
学内研究助成金	<p><u>牧野智恵</u>, *<u>池上暁</u>, <u>松本智里</u>: 便秘のある進行がん患者をケアする訪問看護師の困難感の経験, 2022年度.</p> <p><u>紺家千津子</u>, <u>真田弘美</u>, <u>川島和代</u>, <u>岩佐和夫</u>: PROGを活用した本学学部生の教育評価と課題の探究, 2022年度.</p> <p><u>松本智里</u>, <u>牧野智恵</u>: コロナ禍でのがん体験者の求める支援, 2022年度~2023年度.</p> <p><u>松本勝</u>, <u>真田弘美</u>, 須釜淳子, 仲上豪二郎, 高橋聡明, 野口博史, 小池武嗣, 北村言, 小路和幸, 東村志保, 麦田裕子, 須藤翔太, 山家亮太: 訪問看護におけるAI/ARを活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの効果検証. 2022~2023年度.</p> <p><u>大西陽子</u>, <u>大橋史弥</u>, <u>松本勝</u>, <u>紺家千津子</u>: 従来のモデル人形による演習とVR教材を活用した演習による教育効果の比較—術後観察に</p>

	<p>焦点を当てて一，2022～2023年度.</p> <p><u>今方裕子</u>，<u>牧野智恵</u>，<u>高地弥里</u>，<u>時山麻美</u>：臨床で行うリンパ浮腫ケアセミナーへのエコー導入におけるセミナー効果. 2022年度.</p> <p><u>Imakata Y</u>，<u>Sugama J</u>，<u>Ichihashi S</u>，<u>Oohashi F</u>，<u>Kobayashi M</u>，<u>Oe M</u>：Characteristics of the development and healing process of docetaxel-induced lower limb edema in patients with stage IV breast cancer: A case series . Palliative Medicine Reports 2023. 2.</p> <p><u>瀧澤理穂</u>，*<u>天日更織</u>，<u>牧野智恵</u>，<u>松本智里</u>：新型コロナウイルス感染症の感染拡大における終末期がん患者家族の経験，2022年度.</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p><u>真田弘美</u>，<u>仲上豪二郎</u>，<u>高橋聡明</u>，<u>野口博史</u>，<u>小池武嗣</u>，<u>松本勝</u>，<u>北村言</u>，<u>小路和幸</u>，<u>東村志保</u>，<u>麦田裕子</u>，<u>須藤翔太</u>，<u>山家亮太</u>：AI/ARを活用した排泄ケア・褥瘡ケア・スキンケア・点滴ケア技術自己学習支援システムの開発. R3-5，日本医療研究開発機構(AMED)長寿科学研究開発事業.</p> <p><u>紺家千津子</u>，<u>松本勝</u>，<u>秋山和宏</u>，<u>須釜淳子</u>，<u>仲上豪二郎</u>，<u>小柳礼恵</u>，<u>真田弘美</u>：排泄関連診療報酬拡大のためのエビデンス構築に関する研究-多職種協働による排便サポート回診の有効性検証-. R4，一般社団法人看護系学会等社会保険連合（看保連）2022 年度研究助成.</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>なし</p>
<p>その他受賞等 受賞，特許，臨床活動</p>	<p><u>Haba D</u>，<u>Minematsu T</u>，<u>Sanada H</u>，et al：受賞，第31回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会 優秀演題賞 英語セッション，2022. 6</p> <p><u>Koudounas S</u>，<u>Minematsu T</u>，<u>Sanada H</u>，et al：受賞，看護理工学会奨励賞，2022. 10</p> <p><u>幅大二郎</u>，<u>峰松健夫</u>，<u>真田弘美</u>ら：受賞，第52回日本創傷治癒学会研究奨励賞，2022. 11</p> <p><u>松本勝</u>：受賞，2021年度看護理工学会 奨励賞，2022. 10</p> <p><u>Takizawa C</u>，<u>Kitamura A</u>，<u>Nakagami G</u>，<u>Matsumoto M</u>，<u>Hayashi C</u>，</p>

	<p>Kawasaki A, <u>Sanada H</u> : 受賞, 日本褥瘡学会大浦賞, 2022. 8</p> <p><u>松本勝</u> : ラジオ出演, FMかほく. 聴いててよかった! FMかほくなるほどインタビュー, 2023. 2</p> <p><u>Oohashi F</u>, <u>Oe M</u>, <u>Sugama J</u> : 26th East Asian Forum of Nursing Scholars 2023 Best Poster Presentation Award 「The most appropriate duration for preventing recurrent pressure ulcers among patients with pressure ulcers undergoing conservative treatment」, 2023. 3. 10-11.</p> <p><u>瀧澤理穂</u>, <u>牧野智恵</u> : 受賞, 第27回日本緩和医療学会. 優秀演題, 2022. 7</p>
<p><b>社会貢献・地域貢献</b></p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>牧野智恵</u>: 日本がん看護学会評議委員</p> <p><u>牧野智恵</u>: 日本がん看護学会査読委員</p> <p><u>牧野智恵</u>: 日本看護科学学会</p> <p><u>牧野智恵</u>: 日本看護科学学会査読委員</p> <p><u>牧野智恵</u>: 令和4年度専門看護実践力研修事業「がん看護」講師, 2022. 8. 27.</p> <p><u>牧野智恵</u>: 令和4年度 厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業「本人の意向に沿った意思決定のための指導者研修会」ファシリテーター, 2022. 11. 20</p> <p><u>牧野智恵</u>: 令和4年度 厚生労働省委託事業 人生の最終段階における医療体制整備事業「本人の意向に沿った意思決定のための研修会」ファシリテーター, 2023. 1. 29</p> <p><u>牧野智恵</u>: かほく市いきいきシニア活動推進事業 講演. 「苦しみの中でも見出せる人生の価値」, 2022. 9. 13</p> <p><u>牧野智恵</u>: 看護部看護研究倫理審査会審議, 石川県立中央病院, 2022. 2. 27.</p> <p><u>牧野智恵</u>: 石川県立中央病院 看護管理者研究 講演, 「看護理論を活用した看護実践の指導に向けて」, 2023. 1. 29.</p> <p><u>牧野智恵</u>: 一般社団チャイルドライフ 講演. 「実存的苦悩を抱くがん患者の生きる意味を呼び覚ます看護」, 2023. 2. 18.</p> <p><u>牧野智恵</u>: 北陸大学「看護学」非常勤講師, 2022. 12. 16.</p> <p><u>牧野智恵</u>: 財団法人メンタルケア協会メンタルケア・スペシャリスト養成講座 講演. 「ターミナルケア」, 2022.</p> <p><u>牧野智恵</u>: 第6回金沢医科大学特定認定再生医療等委員, 2022. 4. 1 ~ 2023. 3. 31.</p>

紺家千津子：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 理事長，評議員，将来構想検討委員会委員長，便秘対策アドホック委員会委員

紺家千津子：日本褥瘡学会 評議員，実態調査委員会委員，在宅褥瘡管理者認定委員会委員，国際委員会委員

紺家千津子：日本創傷治癒学会 理事，評議員，将来構想検討委員会委員長，規約委員会委員，ガイドライン委員会委員

紺家千津子：日本看護科学学会 和文誌専任査読委員

紺家千津子：日本がん看護学会 評議員

紺家千津子：看護理工学会 評議員，教育委員会副委員長

紺家千津子：日本老年医学会 代議員

紺家千津子：日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会 評議員，規約委員

紺家千津子：第32回日本創傷・オストミー・失禁管理学会学術集会プログラム委員

紺家千津子：第27回日本老年看護学会学術集会 企画委員

紺家千津子：第53回（2022年度）日本看護学会学術集会抄録選考委員

紺家千津子：北越ストーマリハビリテーション講習会 幹事

紺家千津子：北陸ストーマ研究会 世話人

紺家千津子：北陸PEG・在宅栄養研究会 世話人

紺家千津子：日本褥瘡学会中部地方会 世話人

紺家千津子：公益社団法人 日本オストミー協会石川県支部 顧問

紺家千津子：「DESIGN-R2020<sup>®</sup>の採点方法とケアへの活用方法」講師，令和4年度石川県医療在宅ケア事業団研修会（WEB開催），2022. 8. 6

紺家千津子：専門的看護実践力研修事業（分野別実践看護師養成研修「がん看護」）「危機理論」講師，金沢大学附属病院（WEB開催），2022. 8. 7

紺家千津子：褥瘡管理スキルアップ支援「医療関連機器圧迫創傷（MDRPU）の評価方法」講師，石川県立看護大学（WEB開催），2022. 7. 30

紺家千津子：「クリティカルケア看護学特論C（急性・重症患者治療感理論）：創傷管理」講義（非常勤講師），金沢医科大学大学院看護学研究科，2022. 7. 29

紺家千津子：「看護学：クリティカルケアと周手術期ケア，創傷とその管理方法，臓器移植に関する法的整備と倫理的問題」講義（非常勤講師），北陸大学 薬学部，2022. 11. 11，18，25

紺家千津子：「創傷のアセスメントと管理」講義（非常勤講師），京都橘大学看護教育研究センター 皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程，2022. 9. 20

紺家千津子：「地域の高齢者の皮膚を護る最新ケア」ConvaTec Professional Education Online Seminar Series 2022講師，株式会社コンバテック（WEB開催），2022. 11. 12

川島和代，中道淳子，額奈々，小林真依子，宮本奈々恵，紺家千津子，松本智里，大西陽子，大橋史弥：第27回 日本老年看護学会学術集会事務局

峰松健夫：東京大学大学院医学系研究科 非常勤講師

峰松健夫：金沢大学医薬保健研究域保健学系 協力研究員

峰松健夫：看護理工学会 常任理事，理事，評議員，編集委員会委員長，倫理委員会委員，会則検討委員会委員

峰松健夫：日本創傷治癒学会 理事，評議員，将来構想検討委員会委員

峰松健夫：日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員，学会連携委員会委員

峰松健夫：日本褥瘡学会 車いすアスリート支援委員会委員

松本智里：運動器看護学会 査読委員

松本智里：看護実践学会 査読員

松本智里：第27回日本老年看護学会企画委員

松本智里：北陸大学「看護学」非常勤講師，2022. 12. 2，12. 9

松本智里：看護研究指導・講評，公立能登総合病院，2022. 5. 20，2023. 2. 1

松本智里：看護研究指導・講評，石川県立中央病院，2022. 6. 24，7. 8，2023. 2. 26

松本勝：「エコーを使えばここまでできる訪問看護」訪問看護トピックス研修，石川県看護協会，2022. 7

松本勝：「訪問看護におけるエコーを用いたフィジカルアセスメント」令和4年度 訪問看護専門研修WEB配信講座，大阪公立大学，2022. 8

松本勝：「排便管理におけるエコーの活用方法」第17回ブラッシュアップセミナー，日本創傷・オストミー・失禁管理学会，2022. 8

松本勝：「次世代看護教育・研究へのDXの導入 - VR, AR, アバターロボット等の活用に向けて -」令和4年度石川県立大学・県立看護大学合同研究発表会・FD研修会，2022. 8

松本勝：「新たな教育で排泄ケアに活かす」令和4年度事業看護に活かすポケットエコーを一つ一つわかりやすく，石川県立看護大学地域ケア総合センター，2022. 9

松本勝：「創傷のアセスメントと管理Ⅰ」講義，京都橘大学 看護教育研修センター認定看護師教育課程（皮膚・排泄ケア），2022.9

松本勝：「創傷のアセスメントと管理」講義，静岡県立静岡がんセンター 認定看護師教育課程（皮膚・排泄ケア），2022.9

松本勝：「高齢者に多い症状・便秘について知ろう」地域公開講座，かほく市いきいきシニア活動推進事業／石川県立看護大学地域ケア総合センター，2022.10

松本勝：「看護教育・研究へのDXの導入-石川県立看護大学での取り組み-」令和4年度FD・SD研修会，大学コンソーシアム石川，2022.12

松本勝：大学コンソーシアム石川，産学官連携人材育成専門部会，学都いしかわグローバルチャレンジプログラムWGメンバー

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2022年4月10日(日)，北美原クリニック（函館，オンライン）.

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年6月18日(土)，よどきり医療と介護のまちづくり株式会社（大阪）.

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年7月16日(土)，（医療法人 原三信病院，オンライン）

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年8月6日(土)，石川県立看護大学（石川）

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2022年8月7日(日)，石川県立看護大学（石川）

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2022年8月8日(月)，よどきり医療と介護のまちづくり株式会社（大阪，オンライン）.

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年9月23日(金)，よどきり医療と介護のまちづくり株式会社（大阪）.

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年10月29日(土)，パラマウントベッド仙台支店（仙台，オンライン）.

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年11月30日(水)，石川県立看護大学（石川）

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2022年12月2日(金), 石川県立看護大学(石川)

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2022年12月10日(土), 北美原クリニック(函館, オンライン).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2022年12月11日(日), 北美原クリニック(函館, オンライン).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2023年1月8日(日), 札幌市立大学(札幌, オンライン).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2023年1月9日(月), 札幌市立大学(札幌, オンライン).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2023年1月28日(土), パラマウントベッド広島支店(広島, オンライン).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2023年1月29日(日), パラマウントベッド広島支店(広島, オンライン)

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2023年2月11日(土), よどきり医療と介護のまちづくり株式会社(大阪).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2023年3月4日(土), 石川県立看護大学(石川)

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2023年3月5日(日), 石川県立看護大学(石川)

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」技術講習会 講師. 2023年3月25日(土), よどきり医療と介護のまちづくり株式会社(大阪).

松本勝：一般社団法人次世代看護教育研究所「エコーを用いた排泄ケアコース」OSCE 講師. 2023年3月26日(日), よどきり医療と介護のまちづくり株式会社(大阪).

松本勝：第95回日本超音波医学会プログラム委員会 救急(POCUS・横断)領域 委員

松本勝：第96回日本超音波医学会プログラム委員会 救急(POCUS・

横断) 領域 委員

松本勝 : 看護理工学会 評議員

松本勝 : 看護理工学会 教育委員会委員

松本勝 : 日本看護科学学会 和文誌査読委員

松本勝 : 第2回慢性便秘エコー研究会 事務局・プログラム委員

松本勝 : 第3回慢性便秘エコー研究会 プログラム委員

松本勝 : 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 評議員

松本勝 : 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会 委員

松本勝 : 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 便秘対策アドホック委員会ワーキンググループ

松本勝 : 日本創傷・オストミー・失禁管理学会 社会保険委員会 委員

松本勝 : 日本看護科学学会 看護ケア開発・標準化委員会 委員

松本勝 : 日本看護科学学会 「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」作成メンバー

松本勝 : 日本看護科学学会 「看護ケアのための高齢者の便秘時の大腸便貯留アセスメントに関する診療ガイドライン」パネル会議メンバー

松本勝 : 日本在宅ケア学会 在宅ケアイノベーション研究研修委員会 委員

松本勝 : 日本褥瘡学会 評議員

松本勝 : The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars conference, Reviewer

大西陽子 : 日本老年看護学会第27回学術集会事務局

大西陽子 : 珠洲市総合病院研究指導・講評, 2022.4～現在

大橋史弥 : 日本看護科学学会 (JANS若手の会エリア・コーディネーター), 2022.9～現在

大橋史弥 : 大学コンソーシアム「文化系芸術祭」実行委員会 委員, 2022.4～現在

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

牧野智恵, 松本智里 : がんサロン「ロゴス」IN富士家, 企画実施責任者, 2022.5～2023.3

牧野智恵 : 「看護研究に活かせる現象学を楽しく学ぼう」, 石川県立看護大学地域ケア総合センター事業, 2022.8.23, 9.20, 11.8.

牧野智恵, 今方裕子, 瀧澤理穂 : 「終末期看護実践の悩みを共に語り心

も体もリフレッシュ」, 石川県立看護大学地域ケア総合センター事業, 2022. 7. 9, 9. 18, 10. 10

牧野智恵, 今方裕子: 臨床で行うリンパ浮腫ケア, 2022.

牧野智恵, 今方裕子, 瀧澤理穂: 終末期実践の悩みを語り心も体もリフレッシュ, 石川県立看護大学地域ケア総合センター, 2022. 7. 9, 8. 20

紺家千津子: 「公益社団法人日本オストミー協会 第34回全国大会 (石川大会)」ボランティア, 2022. 6. 18, 19

紺家千津子, 大橋史弥: 褥瘡管理スキルアップ支援 企画・運営, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2022. 7. 30

紺家千津子: 褥瘡管理スキルアップ支援 「医療関連機器圧迫創傷 (MDRPU) の評価方法」講師, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2022. 7. 30

紺家千津子, 大橋史弥: 専門的看護実践力研修事業 (分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア」) 企画・運営, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2022. 11

紺家千津子: 専門的看護実践力研修事業 (分野別実践看護師養成研修「皮膚・排泄ケア」) 「創傷治癒とDESIGN-R2020」, 「ストーマケアの基礎」, 「スキン-ケア」, 「褥瘡のケア計画1・2」講師, 石川県立看護大学 (WEB開催), 2022. 11

紺家千津子: 看護師に対するスキンケア教育支援, 千木病院、芳珠記念病院、二ツ屋病院, 2022

松本智里: 地域ケア総合センター事業「多職種とともに考えるがん患者の事例検討会」 2022. 6. 7, 8. 2, 10. 4, 12. 6, 2023. 2. 7, 3. 7 実施

松本勝: 「新たな教育で排泄ケアに活かす」令和4年度事業看護に活かすポケットエコーを一つ一つわかりやすく, 石川県立看護大学地域ケア総合センター, 2022. 9

松本勝: 「高齢者に多い症状・便秘について知ろう」地域公開講座, かほく市いきいきシニア活動推進事業/石川県立看護大学地域ケア総合センター, 2022. 10

松本勝: 研究発表支援, 東京大学医学部附属病院看護部, 2022. 6

松本勝: 研究発表支援, 東葛クリニック病院, 2022. 12

松本勝: 研究発表支援, 訪問看護ステーションフレンズ, 2023. 2

松本勝: 研究発表支援, よどきり訪問看護ステーション, 2023. 2

松本勝: 届出研究員, 東京大学医学部附属病院看護部

松本勝：客員研究員， 東京大学大学院医学系研究科老年看護学／創傷看護学分野

松本勝：客員研究員， 一般社団法人次世代看護教育研究所

木森佳子， 松本勝， 大橋史弥：石川県立看護大学 地域ケア総合センター「看護に活かすポケットエコーを一つ一つわかりやすく」  
2022. 9. 3

大西陽子， 大橋史弥， 松本勝， 紺家千津子：石川県立看護大学 地域ケア総合センター「クリティカルケア看護師のための事例検討会」  
2022. 10. 8， 2023. 2. 18

大西陽子， 大橋史弥， 松本勝， 紺家千津子：クリティカルケア看護師のための事例検討会， 地域ケア総合センター事業， 企画・運営

今方裕子：地域ケア総合センター事業「臨床で行うリンパ浮腫ケアセミナー」を基礎編9.1， 応用編9.22開催

今方裕子：地域ケアセンター事業「CNS関係者による看護事例検討会」  
9.13， 2.28開催

瀧澤理穂， 牧野智恵：一人で悩まないで！乳がんサバイバー同士で語り合おう， 石川県立看護大学地域ケア総合センター， 2022. 5. 28，  
8. 6， 11. 5

大橋史弥：JANS（日本看護科学学会）若手の会 第2回 甲信越・北陸エリア検討会 コーディネーター 2023. 2. 26

## 6.8 老年看護学講座

所属（講座等）・職位	老年看護学講座・教授	氏名	川島 和代
	老年看護学講座・准教授		中道 淳子
	老年看護学講座・助教		額 奈々
	老年看護学講座・助教		小林真依子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	中道淳子（分担執筆）：第7章A認知症施策の動向と看護，第7章G4介護老人福祉施設に入所した認知症高齢者と家族への看護，日本看護協会出版会，最新老年看護学 第4版2023年版，三重野英子，會田信子，深堀浩樹（編集），304-309，347-349，2023.
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>*長瀬佐知子，畑真夕美，中道淳子：急性期病棟における看護師の認知症ケアに対する気づき-院内デイケアへの参加体験研修を行って-，日本看護学会誌，vol. 18. no. 1，2023.</p> <p>*吉崎彩，川島和代，中道淳子：老人看護専門看護師が躊躇しつつも非がん疾患高齢者・家族とアドバンス・ケア・プランニングが行えた理由，日本エンドオブライフケア学会誌，vol. 7 no. 1，2023.</p> <p>&lt;査読無&gt;</p> <p>なし</p>
その他の原稿	中道淳子：金沢だから生まれた『いのちの停車場』対談 語り手：南杏子（医師／作家）聞き手：中道淳子（石川県立看護大学）第27回日本老年看護学会学術集会抄録集，45，2023.
学会発表（研究発表・ 招聘講演， パネリスト， 基調講演等）	<p>研究発表 小林真依子，中道淳子，川島和代：人口的水分・栄養補給法の選択における高齢者家族の思い-経鼻経管栄養を実施している高齢者家族への質問紙調査を通して-，第27回日本老年看護学術集会，石川，2022. 6.</p> <p>*吉崎彩，中道淳子，川島和代：老人看護専門看護師の非がん疾患高齢者・家族とのACPにおける躊躇の実態-躊躇の理由別にみた行動レベルの実践から-，第27回日本老年看護学会学術集会，石川，2022. 6.</p> <p>*磯光江，中道淳子，川島和代：高齢慢性腎不全患者の血液透析開始</p>

	<p>時の意思決定－後期高齢者が血液透析を受容していく過程と将来への思い－, 第42回日本看護科学学会学術集会, 広島, 2022. 12.</p> <p>*Yonezawa.M, <u>Nakamichi.J</u>, <u>Kawashima.K</u>: Nursing practice of certified nurses in dementia nursing for people with dementia with Lewy bodies and their families at home, EAFONS, Tokyo, 2023. 3.</p> <p>座長 南杏子, <u>中道淳子</u>: 金沢だからできたいのちの停車場 (対談), 第27回日本老年看護学会学術集会 市民公開講座, 石川, 2022.</p> <p><u>額奈々</u>, <u>川島和代</u>, <u>中道淳子</u>: 介護保険施設における新型コロナウイルス感染流行時の入所者とその家族への対応, 日本老年看護学会第27回学術集会 (2022. 6)</p> <p>*<u>関利志子</u> (事例提供者), *<u>中田弘子</u>, <u>小林真依子</u>, <u>川島和代</u> (事例検討者): 老年看護における事例検討会-事例検討からエッセンスをとりだす-, 第27回日本老年看護学術集会教育セミナー 1, 石川, 2022.</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が研究代表者 本学教員が分担者 なし</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者 <u>川島和代</u>, <u>中道淳子</u>, <u>渡辺達也</u>, <u>額奈々</u>: 介護保険施設における認知症高齢者の難聴に着目した支援プログラム作成に関する研究, 2021年度～2023年度 基盤研究(C) 本学教員が分担者 *<u>磯光江</u>, <u>吉武将司</u>, <u>川島和代</u>, <u>横田文子</u>, <u>中道淳子</u>: 高齢腎不全患者におけるフレイル改善への介入効果と腎代替療法への影響についての調査, 2021年度～2023年度 基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>額奈々</u>, <u>川島和代</u>: 就寝前の足浴による認知症高齢者の夜間睡眠への影響 (予備的調査)</p>

<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>&lt;R4年度公益社団法人全国老人福祉施設協議会調査研究助成事業&gt;</p> <p><u>額奈々</u>：高齢者施設における看取り期の説明に関する実態調査及び看取りの説明を担う看護職に必要な実践能力と説明者育成のための支援の検討</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>なし</p>
<p>その他受賞等 受賞、特許、臨床活動</p>	<p><u>中道淳子</u>：ラジオ出演, FMかほく「第27回日本老年看護学会市民公開講座；金沢だからうまれたいのちの停車場 予告」2022. 6. 20</p>
<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>中道淳子</u>：第27回日本老年看護学会 企画委員・事務局長</p> <p><u>中道淳子</u>：日本老年看護学会 災害支援検討委員会</p> <p><u>中道淳子</u>：日本認知症予防学会 評議員</p> <p><u>中道淳子</u>：石川県介護支援専門員実務研修 企画委員</p> <p><u>中道淳子</u>：かほく市地域密着型サービス運営協議会 委員長</p> <p><u>中道淳子</u>：かほく市地域密着型サービス施設等整備事業者選考委員会 委員</p> <p><u>中道淳子</u>：津幡町介護予防メイト養成講座 講師, 2022.</p> <p><u>中道淳子</u>：羽咋市地域包括支援センター研修, 羽咋市キャラバン・メイト研修会, 講師, 2022. 8. 24.</p> <p><u>中道淳子</u>: 白山市ボランティアのつどい, 「地域における認知症予防」講師, 2023. 10. 30</p> <p><u>中道淳子</u>：看護研究・講評, 河北中央病院, 2023. 1. 19.</p> <p><u>中道淳子</u>：かほく市地域包括支援センター研修, かほく市認知症サポーターステップアップ研修「認知症の理解・地域との交流」2023. 2. 9.</p> <p><u>額奈々</u>：かほく市 介護認定審査会 審査員</p> <p><u>額奈々</u>：看護研究指導, 河北中央病院</p> <p><u>額奈々</u>：羽咋市キャラバン・メイト研修会, 2022. 8. 24.</p> <p><u>額奈々</u>：学園台サンライズ会員のための講演会と健康教室の開催, 講師, 2022. 11. 11.</p> <p><u>小林真依子</u>：かほく市介護保険認定審査会 委員</p> <p><u>小林真依子</u>：羽咋市役所地域包括支援センター研修, 2022. 8. 24</p> <p><u>小林真依子</u>：学園台サンライズ「講演会と健康教室」2022. 11. 11</p>

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

中道淳子：JICA日系研修（遠隔研修），コーディネーター・講師，オンライン

中道淳子：日本老年看護学会災害支援検討会研修「突然やってくる災害に備えて ～様々な災害支援のプロフェッショナルと学ぶ～」，ファシリテーター，2023. 2. 23

中道淳子：高齢者ケア研究会事例検討会，2022. 5. 19， 8. 25， 2. 16

額奈々：日本ACLS協会 BLSインストラクター

額奈々：日本ACLS協会 ACLSインストラクター

額奈々：日本看護研究学会近畿・北陸地方会 広報委員

小林真依子：高齢者ケア研究会事例検討会，2022. 5. 19， 8. 25， 2. 16

## 6.9 地域看護学講座

所属（講座等）・職位	地域看護学講座・教授	氏名	塚田 久恵
	地域看護学講座・教授		米澤 洋美
	地域看護学講座・准教授		金子 紀子
	地域看護学講座・助教		室野奈緒子
	地域看護学講座・助教		黒川 恵子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>米澤洋美, 石垣和子: 日本の高齢者の就労と健康づくり・健康管理に関する文献検討, 地域ケアリング, 24 (12), 46-51, 2022.</p> <p>&lt;査読無&gt;</p>
その他の原稿	<p>塚田久恵: 地域ケア総合センター INFORMATION, 石川県立看護大学広報誌「CAMPUS NET」, 42巻, 7, 2022. 11</p> <p>塚田久恵: 地域ケア総合センター「事業報告書（第19巻）」発刊に寄せて, かほく市との包括的連携協定に関わる取り組み. 石川県立看護大学附属地域ケア総合センター第19巻事業報告書, 19巻, 0, 35, 2022, 6</p> <p>塚田久恵: シンポジウムC「地域ケアに必要な多職種間の情報共有を支えるICTの利活用」趣旨, 日本地域看護学会第25回学術集会講演集, 86, 2022, 8</p>
学会発表（研究発表・ 招聘講演, パネリスト, 基調講演等）	<p>*<u>Keiko Agawa</u>, Kazuko Ishigaki, <u>Hisae Tsukada</u>: Mothers of congenital heart disease infants: Experience from delivery to discharge from hospital influenced by attitude of medical staff. 26<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars 2023. Tokyo. 2023. 3.</p> <p>米澤洋美: シルバー人材センター（SC）会員の健康課題、健康づくり・健康管理に関する文献検討, 第11回日本公衆衛生看護学会, 仙台, 2022, 12, 第11回日本公衆衛生看護学会21-5, 2022.</p> <p>Kimura Hitoe, Ishigaki Kazuko, <u>Yonezawa Hiromi</u>, Kamo Toshiko, Fukumaru Yuka, Kasahara Akiko: Effects of Child-Adult</p>

	<p>Relationship Enhancement on child behavior and parenting stress in community health - a randomized controlled trial. 26<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars 2023. Tokyo. 2023. 03.</p> <p><u>金子紀子</u>, 西野善一, 伊藤ゆり, 中谷友樹, 金村政輝: 地理的剥奪指標とがん罹患、検診発見状況との関連: 地域がん登録データを用いた分析, 第81回日本公衆衛生学会, 山梨, 2022. 10, 第81回日本公衆衛生学会総会抄録集, 69(10), 310, 2022</p> <p>瀧口知彌, 西条旨子, 奥野太寿生, 入谷敦, 出村昇, 長澤晋哉, <u>金子紀子</u>, 高橋裕太郎, 西野善一: 地域在住高齢者における口腔機能と歩行能力との関連, 第93回日本衛生学会学術総会, 東京, 2023. 3, 第93回日本衛生学会学術総会講演集, 78, S204, 2023</p> <p><u>Naoko Murono</u>, *Mirai Ohkawa, *Kana Sometani, Kozue Okesaku, Yoko Onishi, Takao Hirai, Wataru Kakihana, Hideki Imai: Effect of coronavirus disease 2019 on lifestyle and mental health of Japanese information technology workers, 26<sup>th</sup> East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, 2023</p>
<p>研究助成金・ 研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt; 本学教員が分担者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>&lt;科学研究助成基金助成金&gt; 本学教員が研究代表者 <u>米澤洋美</u>, 長谷川美香, 北出順子, 秋原志穂: 基盤研究(C) 20K11069団塊世代男性を対象とした定年退職後の再就労の場における介護予防プログラム構築</p> <p><u>金子紀子</u>, *<u>阿川啓子</u>, 石垣和子: 妊娠・子育て期に都市部から農村部へ転入した母親の地域のつながりの過程の解明, 2019～2022, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p> <p><u>室野奈緒子</u>, 森河裕子, 中田ゆかり, <u>塚田久恵</u>: メンタル不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連携の影響因子, R3～5年, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)</p>

	<p>本学教員が分担者</p> <p><u>室野奈緒子</u>, 森河裕子, 中田ゆかり, <u>塚田久恵</u>:メンタル不調者の職場復帰支援における産業看護職の人事労務担当者との連携の影響因子, R3～5年, 学術研究助成基金助成金 基盤研究(C)</p> <p>谷本千恵, 河西千秋, <u>大江真吾</u>, <u>塚田久恵</u>, 船山健二:患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, R1～R5, 科学研究費助成事業基盤(C)</p> <p>秋原志穂, 藤村一美, <u>米澤洋美</u>:基盤研究(C)20K10766 隔離状況下にある結核患者のQOL評価および包括的ストレス緩和プログラムの開発</p> <p>長谷川美香, <u>米澤洋美</u>, 川口めぐみ, 北出順子:基盤研究(C) 20K11096 学生のデートDV予防と援助要請行動促進を一体化した教育プログラムの開発</p> <p>北出順子, 長谷川美香, <u>米澤洋美</u>:基盤研究(C) 18K09970住民と国保保健婦が協働した戦後健康づくり活動の過程と展開に関する歴史社会学的研究</p> <p>*<u>阿川啓子</u>, 安田謙二, <u>金子紀子</u>, 佐藤基, 小田香澄:コロナ禍対応:先天性心疾患児(幼児期)と家族のための運動と遊びのプログラム開発, 2022～2024, 学術研究助成基金助成金基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p><u>塚田久恵</u>(申請代表者及び共同研究者), *<u>宮田広成</u>(研究代表者):アルコール依存症者が断酒会継続参加に至る逡巡過程(321, 110)</p> <p><u>室野奈緒子</u>, <u>塚田久恵</u>, <u>米澤洋美</u>, <u>金子紀子</u>, <u>黒川恵子</u>:地域看護学実習における実習環境DX整備事業(1843, 000)</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p>
<p>その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動</p>	

<p><b>社会貢献・地域貢献</b></p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>塚田久恵</u>：日本公衆衛生看護学会査読委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：北陸公衆衛生学会査読委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：一般社団法人日本公衆衛生学会代議員</p> <p><u>塚田久恵</u>：日本地域看護学会第25回学術集会企画委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：日本地域看護学会第25回学術集会シンポジウムC「地域ケアに必要な多職種間の情報共有を支えるICTの利活用」座長, 2022, 8. 28</p> <p><u>塚田久恵</u>：JANPU高度実践看護師教育課程認定委員会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：石川県障害者施策推進協議会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：石川県防災会議震災対策部会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：石川県介護保険審査会委員</p> <p><u>塚田久恵</u>：石川県新任保健師研修会講師, 2022. 11. 22, 11. 29</p> <p><u>塚田久恵</u>：令和4年度石川県石川中央保健福祉センター「新任保健師研修会フォローアップ研修」講師, 2023. 2. 28</p> <p><u>米澤洋美</u>：南加賀保健福祉センター新任保健師研修, 2023. 2. 27</p> <p><u>米澤洋美</u>：宝達清水町介護予防サポーターフォローアップ研修, 2023. 3. 3</p> <p><u>米澤洋美</u>：令和4年度福井県保健師人材育成検討委員会座長, 2023. 3. 20</p> <p><u>米澤洋美</u>：福井県大野市認知症初期集中支援チーム事業検討会委員 2022. 4. 1 ~ 2023. 3. 31</p> <p><u>金子紀子</u>：かほく市介護認定審査会 委員</p> <p><u>金子紀子</u>：かほく市健康づくり推進協議会 会長</p> <p><u>金子紀子</u>：かほく市地域包括支援センター運営協議会 委員</p> <p><u>金子紀子</u>：かほく市地域自立支援協議会 委員</p> <p><u>金子紀子</u>：宝達志水町健康づくり推進協議会 委員</p> <p><u>金子紀子</u>：日本地域看護学会第25回学術集会 実行委員</p> <p><u>金子紀子</u>：文化看護学会第16回学術集会 企画委員</p> <p><u>室野奈緒子</u>：かほく市いきいきシニア活動推進事業 石川県立看護大学による『地域公開講座』第3回「あなたの血管は何歳？血管若返り大作戦」, 七塚健康福祉センター 多目的ホール (かほく市), 2022. 11. 28</p> <p><u>黒川恵子</u>：日本地域看護学会第25回学術集会実行委員</p>
---	---

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

塚田久恵：JICA日系社会研修「高齢者福祉におけるケアシステムと人材育成」講師, 2022. 9. 1, 9. 7, 9. 13, 9. 16, 9. 20

塚田久恵：大学コンソーシアム石川地域連携専門部会委員

塚田久恵：能登キャンパス推進協議会幹事会委員

今井秀樹, 垣花渉, 平居貴生, 大西陽子, 桶作梢, 室野奈緒子：地域ケア総合センター事業「モーニング Walk&Eat」, 石川県立看護大学, 2022. 7. 16

室野奈緒子：石川県委託事業 2022年度石川県新任保健師研修(補助), 石川県庁(金沢市), 2022. 11. 22, 29

黒川恵子：本学オープンキャンパス模擬授業講師, 2022. 7. 10

黒川恵子：「第3回パーキンソン病いきいきリハビリ教室」運営補助, 金沢文化センター, 2022. 11. 6

黒川恵子：令和4年度石川県保健師新任保健師等研修会, 石川県庁, 2022. 11. 22, 11. 29

黒川恵子：石川県(新型コロナウイルス感染症)陽性者フォローアップセンター業務, 2022, 8 ~ 2023. 3

## 6.10 在宅看護学講座

所属（講座等）・職位	在宅看護学講座・教授	氏名	桜井志保美
	在宅看護学講座・講師		日高未希恵
	在宅看護学講座・助手		牛村 春奈

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	<p>日高未希恵（共著）．コンパクト公衆衛生学 第7版，第15章 高齢者保健・在宅ケア．松浦賢長，小林廉毅，苅田香苗（編）．朝倉書店，p108-114，2022. 11</p>
学術論文	<p>&lt;査読有&gt;</p> <p>土師しのぶ，<u>桜井志保美</u>，河野由美子：未就学の医療的ケア児を養育する親の育児ストレスの実態．<i>インターナショナルNursing Care Research</i>，21(1)：21-30，2022</p> <p>枝川奈都美，山崎智可，北林正子，<u>桜井志保美</u>，河野由美子：介護職の倫理教育に関する文献レビュー．<i>看護ケアサイエンス学会誌</i>，21(1)：1-9，2023</p> <p>小林明子，<u>日高未希恵</u>，浦中桂一：救命救急センターに勤務する看護師の人工呼吸器装着患者へのリハビリテーション介入の規定要因．<i>日本臨床救急医学会雑誌</i>．25(6)：893-901，2022.</p> <p><u>日高未希恵</u>，<u>今井秀樹</u>：日本の農村集落の人口動態の傾向に関する考察-地域差に着目して-．<i>東京医療保健大学紀要</i>．16(1)：10-16，2022.</p> <p>&lt;査読無&gt;</p> <p>なし</p>
その他の原稿	なし
学会発表（研究発表・ 招聘講演， パネリスト， 基調講演等）	<p><u>Hidaka M</u>，<u>Imai H</u>，<u>Murono N</u>，<u>Ushimura H</u>，<u>Sakurai S</u>： Seasonal changes in weight and lean body mass of the older adult population living in Suzu city in Japan. <i>The 26th East Asian Forum of Nursing Scholars</i>，(2023)，Tokyo，Abstract Book 4 - Posters Category B: Nursing Practice, p397.</p>

	<p>牛村春奈, 栗木利咲, 鶴野李佳, 桜井志保美: 訪問看護師の看取り後のグリーフケアに関する配慮, 第12回日本在宅看護学会学術集会, 2022. 11</p>
<p>研究助成金・研究費等の獲得</p>	<p>&lt;科学研究費補助金&gt;  本学教員が研究代表者  なし  本学教員が分担者  なし  &lt;科学研究助成基金助成金&gt;  本学教員が研究代表者  <u>桜井志保美</u>, 河野由美子, <u>金谷雅代</u>, <u>牛村春奈</u>: 訪問看護師向け2歳未満の医療的ケア児における食と発達に関する育児支援ガイド作成, 2022-2025 (代表: 700千円), 学術研究助成基金基盤研究 (C)</p> <p><u>桜井志保美</u>: 小児訪問看護における医療的ケアが必要な乳幼児の育児支援ハンドブックの作成 (2018-2020, 2022年まで延長), 科学研究費基金・若手研究</p> <p><u>日高未希恵</u>: 地域特性に基づく社会的つながりに着目した高齢者ヘルスケアシステムに関する研究, R4~R8 (R4年度800千円/4, 680千円), 学術研究助成基金助成金若手研究</p> <p>本学教員が分担者  河野由美子, <u>桜井志保美</u>, 北林正子, 山崎智可, 小泉由美, 枝川奈都美: 認知症グループホームの介護職に対する倫理観の確立を目指す研修パッケージの開発, 2020-2022年 (分担金100千円), 学術研究助成基金基盤研究(C)</p> <p>河野由美子, <u>桜井志保美</u>, 小泉由美: 介護職の虐待予防を目指したストレス緩和を図るストレッチプログラムの開発, 2019 - 2020, 2022まで延長, 学術研究助成基金基盤研究(C)</p>
<p>学内研究助成金</p>	<p>牛村春奈: 在宅Parkinson病療養者の低栄養状態予防に向けた舌・咀嚼機能と摂取栄養素に関する研究, R3-R4, 学内助成</p>
<p>研究助成金</p>	<p>本学教員が研究代表者  なし  本学教員が分担者</p>

	なし
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	なし
社会貢献・地域貢献 公開講座 他団体との連携事業 国際交流 非常勤講師等 看護研究指導 学会や学外団体での活動	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>桜井志保美</u>：かほく高松訪問看護ステーション運営委員</p> <p><u>桜井志保美</u>：かほく市介護保険運営協議会委員</p> <p><u>桜井志保美</u>：宝達志水町在宅医療・介護連携推進協議会委員</p> <p><u>桜井志保美</u>：宝達志水町認知症初期集中支援評価委員</p> <p><u>桜井志保美</u>：喀痰吸引等研修事業企画委員</p> <p><u>桜井志保美</u>：北陸大学 非常勤講師「看護学」</p> <p><u>桜井志保美</u>：七尾市介護保険事業者連絡会合同勉強会 講師</p> <p><u>桜井志保美</u>：第三号研修のための喀痰吸引等研修「重度障がい児・者についての理解」講師</p> <p><u>日高未希恵</u>：能登キャンパス「能登・祭りの環」関係人口創出事業実行委員会委員，2022.4～現在</p> <p><u>日高未希恵</u>：七尾市地域包括センター，七尾市介護保険事業者連絡会合同勉強会「複合的な課題をかかえる世帯の事例について学ぼう」アドバイザー，2022.10.7</p> <p><u>松本智里</u>，<u>木森佳子</u>，<u>日高未希恵</u>：石川県立中央病院令和4年度看護研究発表会講評，2023.2.26</p> <p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来ていないもの&gt;</p> <p><u>日高未希恵</u>，<u>松本勝</u>，<u>金子紀子</u>：第35回猿鬼歩こう走ろう健康大会（能登町）における「看護大健康キャンペーンテント」開催実行委員，2022.9.25</p> <p><u>日高未希恵</u>：FMかほく出演「冬の健康管理について」，2022.12.19</p> <p><u>日高未希恵</u>：島根県，第58回のあカフェオンライン講演「人生の選択 住み慣れた地域で暮らし続ける」，2022.11.24</p> <p><u>日高未希恵</u>：世田谷区生活支援NPO等福祉団体協議会 オブザーバー，2022.2～現在</p> <p><u>日高未希恵</u>：世田谷区子育て支援チャリティイベント「三茶にサンタがやってくる！2022」感染対策・医療的ケア児支援，2022.12.4</p>

## 6.11 精神看護学講座

所属（講座等）・職位	精神看護学講座・教授	氏名	美濃由紀子
	精神看護学講座・講師		大江 真吾
	精神看護学講座・助教		川俣 文乃
	精神看護学講座・助教		高濱 圭子

評価領域	個人の記載
研究業績 書籍（著書）	
学術論文	< 査読有 >  < 査読無 >
その他の原稿	
学会発表（研究発表・ 招聘講演、 パネリスト、 基調講演等）	<u>Ayano Kawamata</u> , Masami Miyamoto, <u>Yukiko Mino</u> : Psychiatric Nurses' Emotional Experience as the Foundation of Relationship Building, 26th East Asian Forum of Nursing Scholars, Tokyo, 2023.3.10-11, EAFONS 2023 Abstract Book 4 Posters B. Nursing Practice, 535, 2023
研究助成金・ 研究費等の獲得	< 科学研究費補助金 > 本学教員が研究代表者  本学教員が分担者  < 科学研究助成基金助成金 > 本学教員が研究代表者 <u>美濃由紀子</u> ：文部科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金） 他害行為を行った精神障がい者の評価, 治療, 社会復帰支援における看護師の役割, 基盤(C)4, 290千円（課題番号 16K12240）  <u>大江真吾</u> ：精神科訪問看護師が実践する地域で生活するASD者への効果的な看護ケアに関する研究, R2～R4, 科学研究費助成事業若手研究

	<p>本学教員が分担者</p> <p>谷本千恵, 河西千秋, <u>大江真吾</u>, 塚田久恵, 船山健二: 患者の自殺を体験した精神科看護師のメンタルヘルスケアプログラムの開発, R1 ~ R5, 科学研究費助成事業基盤(C)</p>
学内研究助成金	
研究助成金	<p>本学教員が研究代表者</p> <p>本学教員が分担者</p> <p>石田元彦, 浅野桂吾, <u>市丸徹</u>, <u>大江真吾</u>, 清水暢子, 山崎智可, 奥原浩之, 村中隆史, 藤原和也, Rene Antonio・Oliveira・Nzinga, : 障害者による粗飼料生産での機械利用とヒツジ生産を支援する技術開発, R4 ~ R5, イノベーション創出強化研究推進事業</p>
その他受賞等 受賞, 特許, 臨床活動	
<p>社会貢献・地域貢献</p> <p>公開講座</p> <p>他団体との連携事業</p> <p>国際交流</p> <p>非常勤講師等</p> <p>看護研究指導</p> <p>学会や学外団体での活動</p>	<p>&lt;委嘱状や依頼文書等が来たもの&gt;</p> <p><u>美濃由紀子</u>, <u>川俣文乃</u>: 一般社団法人日本精神科看護協会 精神科認定看護師教育課程 精神科看護学3 精神科看護実践における援助関係 (援助関係、プロセスレコード、事例検討という方法、患者一看護者関係に焦点をあてた事例検討会)企画委員, ファシリテーター. 2022. 7. 25 ~ 31.</p> <p><u>美濃由紀子</u>: ストレス、ストレスコーピング (講義・対談). 「暮らし」メンタルヘルス, FMかほく. 2022. 5. 16 (石川県かほく市)</p> <p><u>美濃由紀子</u>, <u>高濱圭子</u>: ストレスとその対処について考えてみよう ~こころの健康を保つために~ (講師). かほく市地域公開講座, 七塚健康福祉センター. 2023. 3. 17 (石川県かほく市)</p> <p><u>美濃由紀子</u>: 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部 客員研究員</p> <p><u>大江真吾</u>: 「精神看護学概論」講義, 金沢医療技術専門学校, 2022. 8 ~ 2022. 9</p> <p><u>大江真吾</u>: あおカフェ, かほく市こども発達相談支援センター</p> <p><u>大江真吾</u>: 看護研究指導・講評, 国立病院機構金沢医療センター</p> <p><u>大江真吾</u>: 看護師国家試験試験対策テスト 作問, メディカ出版</p>

大江真吾: ストレスとの上手な付き合い方(講師). かほく市健康レス  
スニオンモールかほく, 2022. 10. 7 (石川県かほく市)

<委嘱状や依頼文書等が来ていないもの>

美濃由紀子, 大江真吾, 川俣文乃, 高濱圭子, 宮本眞巳: 地域ケア  
総合センター事業「感性を磨く事例検討会」, 石川県立看護大学, オ  
ンライン開催, 2022. 5. 12, 6. 9, 7. 14, 9. 8, 10. 13, 11. 10, 12. 8,  
2023. 1. 12, 2. 9, 3. 9.

美濃由紀子: 日本司法精神医学会 査読委員

## 7. 国際交流

---

### 7.1 国際交流委員会

委員長：石川 倫子 教授

委員：木森准教授、金谷准教授、松本智准教授、工藤講師、大江講師

委員補助：大橋助教、川俣助教

事務局：久保石専門員

活動内容：

<前年度までの課題>

コロナ禍の影響を受け、海外研修をオンラインで企画した。アメリカ研修の参加者は4名で催行、タイ研修は参加者がいなかったため中止した。今年度も参加者が少なく、催行できない状況が予測される。学生の異文化理解を深めるために、米国教員によるオンライン講義の実現を図り、日本在留の海外留学生との対面での交流機会をつくる。

<今年度の目標・年度計画>

1. 国際看護演習Ⅰ（アメリカ）、国際看護演習Ⅱ（韓国）を実施し、学生の異文化理解や海外における保健医療福祉活動の理解を深める。新型コロナウイルス感染症の感染状況により、現地研修が難しい場合は、オンライン研修を検討する。
2. 国際コミュニケーション力を強化するために、米国からの教員を招聘し、コミュニケーションを図る機会の提供を行う。
3. 日本在留の海外留学生等との交流を実施し、異文化理解を深める機会とする。
4. 学生向けのネイティブによる語学講座を実施し、語学力の向上を図る。

<今年度の活動実績・評価>

1. 国際看護演習Ⅰ（アメリカ）、国際看護演習Ⅱ（韓国）は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受けて、現地での海外研修は中止とし、代替えとしてオンラインでの企画に変更した。
  - 1) 国際看護演習Ⅰ（アメリカ）は2名の応募があった。2名の学生の演習実現のために、企画が同じであった一般向けの企画に参加することにし、2名の学生が履修し単位を取得できた。
  - 2) 国際看護演習Ⅱ（韓国）は募集を行い応募2名で定員を満たせず、中止となった。
2. 米国からの教員の招聘は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大のために実現できなかった。米国教員によるオンラインでの講演会および教員向けの個別指導は実施できた。

（法人本部事業 中期計画達成等事業に応募し、採択されて事業を実施した。）

  - 1) イリノイ大学教授Doorenbos先生による本学教員・大学院生向け講義「Pragmatic Trials to Advance Nursing Practice」を8月23日（火）15:00－16:30に開催した。参加者は51名で、看護実践を進歩させるための実用的な臨床試験研究デザインに関する講義で、今後の研究について活発な議論がなされた。
  - 2) イリノイ大学教授Doorenbos先生による教員向け個別研究指導を8月30日（火）15:00－16:30に行い、本学教員2名が個別指導を受けた。

- 3) コロラド大学看護学部教授Heather Coats先生による学部生向け講義「Pathways to Becoming Nurse Leaders: My Nursing Story」を8月24日（水）8:00-10:00に開催した。参加者は9名であった。看護師のリーダーになるための道として講師の経験を語って頂き、学生からの活発な質問がなされた。
3. International Caféは、石川県タイ友好協会の協力を得て、3月1日（水）13:30～15:00に本学地域ケア研修室にて対面で開催し、学生・教員7名の参加があった。留学生の母国の文化や生活をプレゼンテーションして頂き、意見交換など行い交流を深めた。
4. 学生向け語学講座は、昨年から引き続き業者による英語講座（初級コース、中級コース学生4名）を5月から、ネイティブの講師による韓国語講座（学生7名）を在学学生は4月、新入生は7月から、月2回通年でオンラインまたは対面にて開講した。語学力修得支援の評価を受講前後に実施して、その効果を明らかにした。  
（法人本部事業 中期計画達成等事業に応募し、採択されて事業を実施した。）

#### <次年度以降に向けた課題・発展>

国際看護研修への参加者を増やすために、前期授業時も国際看護演習を開講する、新年度ガイダンスで国際看護演習のアナウンスをするなど、学生の参加しやすい時期、学生の国際研修の関心度を高める工夫を行う。米国教員の招聘を実現し、学生の異文化理解、国際看護への関心を高める。

## 7.2 アメリカ看護研修

アメリカ看護研修に1年生2名が参加し、オンラインでの視察、講義などの学びを学生一人一人が英語で発表し研修を終えた。今回は一般向け研修に参加したので、日本の他大学の学生との交流もあり学びがより広がった。

日 時：8/22～8/27（月～土）8:30～11:40（現地時間16:30～19:40）

方 法：オンライン

内 容：

- ・ワシントン大学看護学部 Simulation Center オンライン研修  
ワシントン大学看護学部学生と Q & A
- ・ワシントン大学看護学部准教授 上月頼子先生によるオンライン講義とQ & A  
「アメリカの保健医療制度や看護教育、ナースプラクティショナーの役割」
- ・Harbourview Medical Center オンライン研修
- ・チルドレンズホスピタル オンライン研修  
日本人ナースによる看護オンラインセミナー「現場から見た日米医療と看護の違い」  
日本人ナースへの Q & A
- ・ニッケイマナー オンライン研修 ※ 軽介護施設での高齢者看護ケアについて学ぶ
- ・ワシントン大学の教員によるEnglish Lesson
- ・プレゼンテーション(学びの発表) Closing 修了証書の授与

## 8. 附属図書館

### 8.1 図書館運営委員会

委員長：岩佐 和夫 教授（附属図書館長）

委員：石川教授、峰松教授、千原助教

事務局：中村主幹兼係長、藤田専門員

石川県立看護大学附属図書館は、看護学の教育・研究拠点に相応しい人間形成と学術情報発信の基盤となることを使命と考えています。学生・教員・本図書館を利用される学外の皆様の教育・研究活動を支援し、情報サービスを学内外に提供していくことを目指すとともに看護学の発展に寄与していくために、以下の基本方針に則り委員会での活動を行っております。

1. 学生・教職員・学外の利用者のニーズを把握し利用しやすい図書館となる。
2. 最新の看護学の学術情報活用のための利用者支援システムを構築する。
3. 館内の歴史的な知的資産を将来にわたって利用できるように内容を精査・管理する。
4. 利用者の利便性を図るために図書館スタッフの向上心を育み、設備・施設の充実を図る。
5. 県内および他大学の図書館と連携を強化し利用者が必要とする情報を提供する。

### 8.2 今年度の主な活動概況

#### 8.2.1 図書館事業の実施

##### 1. 文献検索データベース講習会の実施

・11月10日（木） 3年生対象 文献検索学習会 外部講師要請

##### 2. 企画・展示の実施

###### ①教員、学生からの推薦図書コーナーの展示

8月～9月	健康科学講座（岩佐）	「わたしを離さないで」「奇跡の人」
	基礎看護講座（加藤）	「100万回生きたねこ」
	小児看護講座（千原）	「見えてますか？子どもからのシグナル」 「おこだでませんように」
10月～11月	人間科学領域（小林宏）	「人類が知っていることすべての短い歴史」
	成人看護講座（峰松）	「生物と無生物のあいだ」
	在宅看護講座（牛村）	「ゼロからわかる知らないと損する行動経済学」
12月～1月	老年看護講座（中道）	「いのちの停車場」「アルツ村」
	健康科学講座（平居）	「ブラックジャック」
	地域看護講座（米澤）	「その島の人たちはひとの話をきかない」
2月～3月	学生からの推薦図書	「彼女が最後に見たものは」「あの日、君は何をした」「不滅のウイルス」 「イマジン？」「夢をかなえるゾウ」（全5巻）

②実習に役立つ雑誌、図書の展示

11月1日（火）～2月24日（金） 雑誌:21冊 図書:37冊

③学長図書コーナーの展示 11月17日（木）～ 15種44冊

「真田弘美教授 退任記念誌」「真田弘美東京大学教授 最終講義録」  
「真田弘美の自己紹介と大学人としての実績」「看護理工学」「排泄ケアガイドブック」  
「車いすバスケット日本代表はいかにして強くなったのか!?!」「スキンケアガイドブック」  
「New褥瘡のすべてがわかる」「役立つ!使える!看護のエコー」「老年看護学概論」  
「看護に役立つ!エコーの読み方活かし方」「東京大学大学院医学系研究科老年看護学」  
「特定行為にかかる評価指標を用いた活動実態調査研究」「老年看護学技術」  
「Bioengineering nursing : New horizons of nursing research」

④重複本リユース市の展示

10月17日（月）～12月27日（火） 384冊展示 108冊リユース

⑤研究、論文おすすめ本の展示

3月13日（月）～ 図書53冊

⑥公衆衛生看護実習関連本の展示

3月15日（水）～ 図書60冊

3. サイネージの設置 8月5日（金）～

図書館入り口にサイネージを設置し図書館に関する情報提供を行っている。

4. ナーシングチャネルのアクセス

4月よりナーシングチャネルのアクセスが可能となっている。2023年2月現在での登録数78名、アクセス状況201件となっている。

5. 洋雑誌のオンライン化

図書館で契約している洋雑誌33誌のうち、オンラインからのアクセスが可能となっている雑誌は18誌となっている。

6. 電子図書館導入に向けた準備

電子図書館の導入準備として2023年2月15日～3月16日までKinodenのトライアルを実施した。トライアル期間中のアクセス件数は24件であった。

7. 選定図書購入

各講座より購入希望図書を選定してもらい図書362冊およびDVD10点の購入を行った。また、本年度は学生からの図書選定も行い図書9冊の購入を行った。

## 8.3 資料整備状況

資料整備状況（令和5年3月31日現在）（ ）内令和4年度受入れ数

コレクション別		総数	内訳	合計
図書	和書	62,119冊（冊）	購入：733冊 寄贈：272冊	合計68,184冊 (1,019冊)
	洋書	6,062冊（冊）	購入：3冊 寄贈：11冊	
雑誌	和雑誌	1,256誌 (紀要等を含む)	継続購入265誌 (紀要等を含む)	合計 1,443誌
	洋雑誌	187誌	継続購入26誌	
新聞	日本紙	6紙	—	7紙
	英字紙	1紙	—	
視聴覚資料	CD-ROM	109点	—	合計 2,146点 (26点)
	ビデオ	916点	—	
	DVD	989点（14点）	購入：12点 寄贈：4点	
	eBOOK	132点（10点）	購入：10点	

### 8.3.1 分野別蔵書構成（令和5年3月31日現在）

○総冊数：68,180冊

分類	0	1	2	3	4-480	49	N	5	6	7	8	9
標目	総記	哲学宗教	歴史	社会科学	自然科学	医学	看護学	技術・工学	産業	芸術	言語	文学
冊数	4,619	3,980	821	10,797	1,836	23,289	15,136	1,302	270	1,797	1,473	2,860

### 8.3.2 医学分類蔵書構成（令和5年3月31日現在）

○医学書（看護学を除く）の総冊数：23,289冊

分類	490	491	492	493	494	495	496	497	498	499
標目	医学総記	基礎医学	臨床医学	内科学	外科学	周産期医学	耳鼻咽喉科	歯学	公衆衛生学	薬学
冊数	1,901	3,489	1,879	7,506	2,210	1,154	249	173	4,432	296

### 8.3.3 看護系資料分類別構成（令和5年3月31日現在）

○看護学関係図書の総冊数：15,136冊

分類	N0	N1	N2	N3	N4	N5	N6	N7	N8	N9
標目	看護総記	看護理論	看護実践	母性看護	小児看護	成人看護	老年看護	精神看護	地域家庭看護	状態別看護
冊数	2,348	1,321	4,024	679	523	1,938	578	608	2,012	1,105

## 8.4 利用統計

### 8.4.1 開館日数・入館者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開館日数	25	23	26	26	24	23	25	23	23	19	19	16	272
入館者数	2,240	2,291	2,903	3,653	2,831	1,982	2,768	2,434	2,717	3,110	2,651	574	30,154
1日平均	90	100	112	141	118	86	111	106	118	164	140	36	1,322

### 8.4.2 館外利用者数及び冊数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
学生	人数	160	166	123	132	149	201	330	212	159	226	62	13	1,933
	冊数	364	325	245	251	322	455	817	472	375	563	143	59	4,391
院生	人数	68	49	65	34	25	20	12	17	14	23	12	10	349
	冊数	145	135	144	75	57	64	42	65	29	74	25	19	874
教職員	人数	46	42	56	75	61	71	59	51	59	36	41	34	631
	冊数	101	92	118	140	123	183	117	155	125	52	95	80	1,381
一般	人数	24	20	19	23	33	29	36	28	14	18	16	18	278
	冊数	74	62	56	61	97	89	117	78	47	39	37	61	818
計	人数	298	277	263	264	268	321	437	308	246	303	131	75	3,191
	冊数	684	614	563	527	599	791	1,093	770	576	728	300	219	7,464

### 8.4.3 他大学・国立国会図書館・公共図書館への文献複写依頼件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	17	13	3	9	25	9	3	5	13	9	11	7	124
学生	14	39	15	58	46	79	19	7	1	2	5	32	317
一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	31	52	18	67	71	88	22	12	14	11	16	39	441

### 8.4.4 他大学・公共図書館・個人からの文献複写受付件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
教員	2	14	4	5	19	10	6	4	6	5	11	13	99
学生	27	37	32	32	48	39	22	29	11	20	19	8	324
一般	5	3	16	3	2	3	11	0	1	3	3	1	51
計	34	54	52	40	69	52	39	33	18	28	33	22	474

#### 8.4.5 館内設置コピー機による複写件数・枚数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	19	24	24	16	23	24	27	28	20	5	10	7	227
枚数	292	718	691	197	330	226	398	352	333	135	262	155	4,089

#### 8.4.6 相互貸借貸出冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
公共	9	3	3	7	3	11	9	4	5	2	5	2	63
大学	2	1	4	3	3	1	3	4	4	3	2	5	35
合計	11	4	7	10	6	12	12	8	9	5	7	7	98

#### 8.4.7 相互貸借借受冊数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
公共	1	9	13	11	22	32	29	39	47	30	32	11	276
大学	1	1	1	2	0	0	0	0	0	0	1	2	8
合計	2	10	14	13	22	32	29	39	47	30	33	13	284

#### 8.4.8 データベース利用状況

○洋雑誌：Nursing & Allied Health Premium (ProQuest社) (検索件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	9	51	19	57	48	60	40	24	23	21	62	7	421

○和雑誌：メディカルオンライン (メテオ社) (ダウンロード件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
件数	997	732	813	827	675	563	443	788	398	254	412	472	7,374

## 8.5 利用者サービス

### 8.5.1 学内向図書館サービス

新入生、新任教職員等を対象に、図書館の利用方法等について説明した。

実施時期	対象者・内容	参加人数	内 容
4月 5日 (火)	院生説明会	約30名	新システムの概要説明
4月 7日 (木)	新入生ガイダンス	約90名	図書館の使い方 新システムの概要説明
7月 6日 (水)	感染管理認定看護師 図書館ガイダンス	約40名	図書館の使い方 文献検索の仕方
10月19日 (水)	認定看護管理者 図書館ガイダンス	約30名	図書館の使い方 文献検索の仕方
2月10日 (金)	卒業研究ガイダンス (3年生)	約80名	館内文献複写依頼方法 他大学への文献複写依頼方法

### 8.5.2 学外向図書館サービス

日 時	名 称	対 象・参加者	内 容
7月10日 (日)	オープンキャンパス	高校生、保護者	図書館見学
10月22日 (土)	オープンキャンパス	高校生、保護者	図書館開放

### 8.5.3 学内で利用できるデータベース

	内 容	同時 使用
最新看護 索引web	看護分野に限定した雑誌文献情報データベース。「日本看護学会論文集」平成23年度(第42回)より、電子版を掲載。全10領域の「論文集(電子版)」を閲覧・ダウンロードできる。収録件数、約20万件、収録誌数812誌。更新頻度月1回。	3
PubMed	医学分野の代表的文献情報データベース。米国NLM作成。医学・歯学・生命科学関係の4,800誌以上の雑誌から収録。収録データ数約1,600万件。	フリー アクセス
メディカル オンライン	医学文献の検索をはじめ、医薬品・医療機器・医療関連サービスの情報を幅ひろく提供。	フリー アクセス
Nursing & Allied Health Premium	看護・保健・医療分野の文献情報データベース。550誌以上の専門誌が対象。データ数1万件以上。(ProQuest社)	フリー アクセス
医学中央雑誌	日本国内の医学・歯学・薬学及び関連分野の文献を網羅した文献情報データベース。収録誌数約5,000誌。収録件数約630万件。	フリー アクセス
JDreamIII*	日本国内の科学関連分野の文献を網羅した総合抄録誌のインターネット版。医学・薬学領域予稿集全文DB。収録約5,200万件。	2
Nii、CiNii (国立情報学研究所)	国立情報学研究所主宰の資料検索、学術雑誌文献検索、研究成果論文検索等を収録した総合検索システム。 (主宰：国立情報学研究所)	フリー アクセス
ELSEVIER Science Direct*	購読タイトル(9誌)の2007年以降に出版された論文全て。購読誌「Applied Nursing Research」他9誌 サブジェクト・コレクションの論文すべて 対象サブジェクト：Nursing and Health Professions	フリー アクセス

※「\*」は学内からのみアクセス可能です。

## 8.6 職員研修

### 8.6.1 附属図書館職員の研修

日 時	場 所	名 称	内 容	参加者名
6月17日(金)	Zoom	公立大学図書館協議会総会	業務報告・決算報告 予算承認等	藤田 一彦
6月23日(木)	石川県立 図書館	図書館協力業務・ネットワーク 担当者会議	協力業務の運営 県立図書館のサービス Library-Net いしかわ	古橋 和子
8月 2日(火)	Zoom	公立大学協会図書館協議会 東海・北陸地区会議	事業進捗報告 ローテーション確認 活動予定と現状	藤田 一彦
10月17日(月)	Zoom	県大学図書館協議会研修会	講演会	藤田 一彦
11月 9日(水)	Zoom	医中誌Web バージョンアップ ミニ質問会	医中誌Webの基本的 な使い方等	山田 美花

## 9. 附属地域ケア総合センター

### 9.1 地域ケア総合センター運営委員会

委員長：塚田 久恵 教授（附属地域ケア総合センター長）

委員：平居教授、木森准教授、松本勝准教授、中道准教授、日高講師

事務局：河端教務学生課長、久保石専門員

開催頻度：年7回開催

活動内容：

<前年度までの課題>

1. 感染拡大予防に十分注意し、事業の企画を図る。
2. 参加者の増大を図る。
3. 「JICA草の根技術協力事業」については、コロナの収束を見据えながら、実現できる方法についてJICAとコンサルテーションを受け、検討する。

<今年度の目標・年度計画>

1. 感染拡大予防に十分注意し、事業の企画を図る。
2. 周知方法を工夫し、参加者の増大を図る。
3. 「JICA草の根技術協力事業」については、コロナの収束を見据えながら、実現できる方法についてJICAとコンサルテーションを受け、内容及び実施時期を決める。

<今年度の活動実績・評価>

運営委員会は主に第3木曜日（隔月開催）に開催し、人材育成、地域活動・地域創生、国際貢献の3部会の審議事項・報告、大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会の議案の検討、かほく市と石川県立看護大学の包括的連携に関する議案について検討した。

1. 人材育成事業、地域連携・貢献事業について

1) COVID-19（新型コロナウイルス）による感染拡大予防に十分注意し、企画の内容によって様々な方法を考え、少しでも多くの方にご参加いただけるよう工夫し、開催した。その結果、予定していた人材育成事業の13事業及び地域連携・貢献事業の11事業すべて実施できた。今年度からセンター事業に加わった地域創生事業の「能登・祭りの環」関係人口創出事業及び学都いしかわグローバルチャレンジプログラムについては、本学学生の参加者希望者はいなかった。

2) 令和5年度事業については、12月に募集し、専門部会長間でセンター事業の採択基準に基づき審査、人材育成事業として7事業、地域連携・貢献事業として11事業を採択した。

2. 国際貢献事業について

1) 「JICA日系研修」について

「JICA日系研修」は、世界的にCOVID-19（新型コロナウイルス）による感染が減少傾向にあったが、昨年同様、パラグアイから研修員を本学に招くことはできず、ZOOMテレビ

会議システムを用いて開催した。その結果、パラグアイ（エンカルナシオン、エステ）から3名とブラジルから1名の参加があり、参加者は計4名であった。そして、パラグアイからは、これまでに研修に参加経験のある10名がサポートとして参加し、報告会では、12時間の時差があるとは思えない活発な意見交換が行われた。

2) 「JICA草の根技術協力事業」について

コロナの収束を見据えながら、実現できる方法についてJICAとコンサルテーションを受けつつ検討したが、都合により中止となった。

3. 大学コンソーシアム石川の地域連携専門部会について

地域課題研究ゼミナール支援事業地域共創支援枠に、垣花教授のゼミによる「壮年期の運動不足を解消する実践的アプローチについて」が採択された。そして、2023年2月18日に学生による発表が行われ、優秀賞を受賞した。

4. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会について

今年度は本学が事務局を勤め2回開催した。感染拡大予防に十分注意し、すべての事業を実施することができた。

<次年度以降に向けた課題・発展>

1. 人材育成事業、地域連携・貢献事業について

各事業について広く周知し、また、オンラインを使用する等企画の内容により方法を工夫し、参加者の増加を図る。また、地域公開講座等における学生のボランティア活動を促す。

2. 地域創生事業について

学生への周知を積極的に行い、参加者を募る。

3. かほく市との包括的連携協定締結に係わる協議会

かほく市との連携事業を発展させ、事業評価に繋げる。

## 9.1.1 人材育成部会

部会長：木森 佳子 准教授

部会員：垣花教授、瀧澤助教

事務局：久保石専門員

開催頻度：随時

活動内容：

<前年度までの課題>

コロナ禍で引き続きオンライン開催やハイブリット開催で事業を実施した影響があり、参加者数が限定的で評価がアンケートに限られ、実際の満足度等、成果が見えにくい状況にある。

<今年度の目標・年度計画>

引き続きコロナ禍の影響を受ける事業実施であるが、単に中止せず工夫の上、事業を継続、開催し、中期目標である能登北部地区での専門職研修、事例検討会を中心に人材育成につなげる。

### <今年度の活動実績・評価>

今年度の人材育成事業は14事業と昨年度の8事業を大きく上回った。いずれもコロナ対策をたてながらの開催で中止となることはなかった。参加者数も維持、もしくは増加となりオンラインでの広報や事業の開催はそのメリットを活かせたと考えられる。

### <次年度以降に向けた課題・発展>

今後は、事業成果を研究成果としていくことも期待される。だが、人材育成の本質的な基盤は地域貢献であり、研究フィールドとしてだけでなく、臨床で苦慮する看護職の支援の場でもある。発展的な要素を追加しながら、参加者の数や職種を拡大させ、問題解決に向けた組織づくりの場としても発展していくことが必要である。

## 9.1.2 地域活動・地域創生部会

部会長：松本 勝 教授

部会員：金子准教授、日高講師

事務局：久保石専門員

開催頻度：随時

活動内容：

### 1. 地域活動・貢献事業について

本年度は、新型コロナウイルス感染症による感染拡大の影響を受けながらも、これまでコロナ禍で培ってきたノウハウを活かし、十分な感染防止対策の下で、オンラインとのハイブリッド方式も含め、可能な限り対面でも実施することができた。

また、計画していた11事業のうち、10事業を実施し、中止は1事業に留まった。

ワンストップサービス事業については依頼がなかったため、実施していない。

かほく市いきいきステーションの協力を得て実施している地域活動部会員による「地域公開講座」は、10月から5回実施し、1回あたりの参加人数も多い回では40名程度の参加があり、昨年度よりも活発な活動をすることができた。

来年度も引き続き地域住民のニーズ等を踏まえながら企画を練っていきたい。

### 2. 能登キャンパス推進協議会関係事業について

本年度内に、協議会（年2回）及び幹事会（年3回）に出席した他、「能登・祭りの環」関係人口創出事業実行委員会（年13回）において、「能登・祭りの環」長期インターンシップ事業及び短期・当日インターンシップ事業に参加した。

両事業において本学は、従前から引き続き能登町の矢波諏訪祭りを担当し、参加学生の募集、事前の連絡・調整、祭り当日の引率等を行った。

矢波諏訪祭りには長期インターンシップ事業として3名、短期・当日インターンシップ事業として8名の合計11名の参加があったが、本学からの参加者はいなかった。病院や施設等での実習に支障が生じる可能性があり、参加が難しかったと思われる。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、当日の学生の参加は見送られることとなった。

しかしながら、後日開催された意見交換フォーラムでは、活動への参加の意義に対する学生のポジティブな意見が目立った。

次年度は、新型コロナウイルス感染症の対策の状況を鑑みながら本学の学生に積極的な参加

を促していく。

### 3. グローカルチャレンジプロジェクト関係事業について

本学では本年度も「ローカルチャレンジプログラム」及び「グローバルチャレンジプログラム」を設定し、大学コンソーシアム石川の「学都いしかわグローバルチャレンジプログラム」として認定された。

しかしながら、コロナ禍の影響もあり学生にとってプログラムの要件を満たすことが難しく、グローバル人材の育成には至らなかった。

同プログラムについては、大学コンソーシアム石川の産学官連携人材育成専門部会において、認定が就職活動に有利になりにくい（認定時期が間に合っていない）問題点等の指摘があり、今後はその点も踏まえてプログラムの科目構成を検討する必要がある。

## 9.1.3 国際貢献部会

部会長：中道 淳子 准教授

部会員：塚田教授、平居教授、額助教

部会補助：黒川助教、中嶋（知）助教

事務局：久保石専門員

開催頻度：随時

活動内容：JICA関連の事業の実施

<前年度までの課題>

- ・日系研修では、新型コロナウイルスの影響で研修員が来日できる体制が整えられない。
- ・パラグアイ・ピラポ日本人会をパートナーとしたJICA草の根技術協力事業「日系社会における高齢者の介護予防活動を支援するプロジェクト事業」が令和元年度に採択されたが、内容を現状に即した形に修正し、再度申請を行う必要がある。

<今年度の目標・年度計画>

- ・JICA日系研修の実施可能性について引き続き羽咋市社会福祉協議会と検討する。
- ・研修員を受け入れる通常の形では実施できないため、日系研修は、遠隔研修を継続する。
- ・JICA草の根技術協力事業は、活動を研究にしていくための体制を整える。

<今年度の活動実績・評価>

JICA日系研修は、昨年に引き続き遠隔研修を実施した。研修生4名は、パラグアイから3名、ブラジルから1名の計4名が参加した。昨年度の研修から1年が経過し、研修を活かして地域で活動した内容の報告も聞かれた。

JICA草の根技術協力事業の計画については、辞退することとなった。

<次年度以降に向けた課題・発展>

2023年度は本格的にJICA草の根支援事業を実施する予定であったため、2023年度の日系研修は中断することにしたが、その後JICA草の根支援事業を辞退することとなったため、2024年度以降の日系研修に関しては2023年度の検討課題となった。

## 10. 看護キャリア支援センター

### 10.1 看護キャリア支援センター運営委員会

委員長：紺家 千津子 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：真田弘美学長、西田義明事務局長

活動内容：

<今年度の目標・年度計画>

新型コロナウイルス感染症拡大にともなう教育課程の運営について、大学のコロナ対策措置に沿いながら、適切な教育課程の運営をおこなう。次年度からの教育課程の開講の方針を検討し、決定する。

<今年度の活動実績・評価>

教育課程の運営の判断・決定にあたり、適宜運営会議を開催した。主な内容は以下であった。

- 1) 令和4年度「感染管理認定看護師教育課程」の運営について
- 2) 令和4年度「看護管理者教育課程(サードレベル)」募集要項、入学試験体制、運営について
- 3) 令和5年度教育課程開講のニーズ調査と、今後の方針について
- 4) 令和5年度予算について

<次年度以降に向けた課題・発展>

県内の医療施設等のニーズを把握し、令和6年度より特定行為研修を含む皮膚・排泄ケア認定看護師教育課程を開講するために準備を行い、受講生を確保する。

### 10.2 感染管理認定看護師教育課程

主任教員：池田 富三香特任准教授

専任教員：北川洋子特任講師、松澤麻里特任講師、大井希美佳特任講師

<今年度の活動実績>

1. 令和4年度教育課程の実施

- 1) 開講期間：令和4年7月4日（月）～令和5年2月10日（金）授業時間：630時間
- 2) 履修生人数：42名（男性12名、女性30名）/出身：石川県内施設15名、石川県外27名

<次年度以降に向けた課題・発展>

新型コロナウイルス感染症拡大状況下に応じた、対面・Webなどの教育方法の工夫しながら運営が行えた。履修生数増員に伴う教育環境についても大学内施設を活用しながら行えた。

#### 10.2.1 感染管理認定看護師教育課程教員会

委員長：紺家 千津子 教授（附属看護キャリア支援センター長）

委員：川島和代教授(学長補佐)、池田富三香特任准教授、北川洋子特任講師、松澤麻里特任講師、大井希美佳特任講師

飯沼由嗣(金沢医科大学病院)、小藤幹恵(石川県看護協会)、  
中瀬美恵子(浅ノ川病院)、嶋田由美子(公立つるぎ病院)  
活動実績：教育課程の開始・修了(判定)にともない2回の開催を行った。

## 10.3 認定看護管理者教育課程サードレベル

池田 富三香特任准教授、出口 まり子特任講師

<今年度の活動実績>

### 1. 令和4年度教育課程の実施

- 1) 開講期間：Ⅰ期：令和4年10月19日(水)～11月11日(金) /Ⅱ期：令和4年11月21日(月)～12月1日(木) /Ⅲ期：令和4年12月12日(月)～12月22日(木) 授業時間：180時間
- 2) 履修生人数：21名、

<次年度以降に向けた課題・発展>

平成28年に開講、令和1～2年度の休講後2年間開講した。北陸地区で開催するにあたり、受講生数を確保しながら質の高い看護管理者を育成することが重要である。病院だけでなく訪問看護ステーションや老人保健施設等の看護管理者へ参加を働きかけ、看護協会との連携を密にしてファーストレベルやセカンドレベル受講生の状況をみながら開催年度を決定していく。現在、日本看護協会認定部でカリキュラムの見直しを行っていることや受講生数の確保も鑑みて次年度は一旦休講とし、次回開催年度を検討する。

## 10.4 認定看護師教育課程フォローアップ研修

<今年度の活動実績>

### 1. 目的

感染管理：認定看護師としての役割を果たし、次世代を担う人材を育成する。

認知症看護：認知症患者の「生(活)きる」を支えるために、認知症看護認定看護師としての知識とケアの向上をはかる。

### 2. テーマ

感染管理：地域包括ケアシステムの推進に向けた認定看護師の役割～チーム医療がより機能するための看護職の裁量発揮～

認知症看護：認知症患者の「生きる」「活きる」を支える

### 3. 日時・参加者

開催日時：令和5年2月4日(土)(認知症看護)、13:30～18:00(感染管理) 13:30～17:30

参加人数：第1部～第3部 約360名

(認知症看護認定看護師91名、感染管理認定看護師113名、  
感染管理認定看護師教育課程履修生42名)

### 4. 実施内容

第1部 真田弘美学長特別講演

講演：「未来の看護に向けて」

講 師：真田 弘美（石川県立看護大学長）  
座 長：紺家 千津子（石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター長）

## 第2部・第3部 認知症看護・感染管理各分野に分かれて研修

### 【感染管理認定看護師の部】

第2部 講 演：「特定認定看護師の活動」  
講 師：嶋田 由美子（公立つるぎ病院）  
座 長：日向 千恵子（2期生 金沢医科大学病院）

### 第3部 感染管理認定看護師活動報告

シンポジスト：

- 坂本 信彰（1期生 医療法人社団浅ノ川 浅ノ川総合病院）
- 古川千恵子（2期生 医療法人社団浅ノ川 千木病院）
- 竹内 智教（3期生 一般企業）
- 日向 高裕（4期生 京都第二赤十字病院）
- 遠藤 弓人（5期生 米沢市立病院）
- 座 長：赤尾 康子（1期生 加賀市医療センター）  
荒俣ゆかり（2期生 公立学校共済組合 北陸中央病院）

### 【認知症看護認定看護師の部】

第2部 講 演：認知症の人を地域で支える訪問看護師の実際～自宅に帰りたい思いを支える～  
講 師：伊藤 達也（ソフィアメディ訪問看護 ステーション管理者）  
座 長：山口 香（1期生 小松市民病院）  
増井由紀子（1期生 独立行政法人国立病院機構 石川病院）

### 第3部 活かそう！コロナ禍で得た新たなケア～「生（活）きる」を支えるために～

テーマ：認知症患者の「生きる」「活きる」を支える

シンポジスト：

- 間 めぐみ（1期生 高山赤十字病院）
- 畠 真理子（1期生 石川県立こころの病院）
- 丸木 裕美（1期生 福井大学医学部附属病院）
- 盛田 大樹（2期生 医療法人社団城南会 富山城南温泉病院）
- 足立 理恵（2期生 関西労災病院）
- 宮元 滋宏（3期生 富山県立中央病院）
- 橋本文（3期生 福井大学医学部附属病院）
- 座 長：秦 祐美（3期生 公立能登総合病院）  
山田 みどり（3期生 金沢医科大学氷見市民病院）

### <次年度以降に向けた課題・発展>

各期の修了生の代表で研修内容を企画し、修了生のニーズに沿った研修を開催していく。  
認知症看護認定看護師教育課程は修了して3年間開講していない。また感染管理認定看護師

教育課程は次年度以降一旦休講となる予定である。教育課程の修了生の数も増加しているため、開講がない期間のフォローアップ研修を継続していけるよう運営方法を検討する必要がある。

## 10.5 石川县委託事業の開催

### 10.5.1 石川県看護教員現任研修事業

<研修目的・年度計画>

研修ニーズに基づき、対象者別に研修を企画した。対象者は、若手教員、看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）、看護教員・実習指導者や実習指導に関心がある看護職員とした。

【目的】

- ・看護教員および臨地における教育担当者の教育力向上を目指す
- ・授業実施上の問題点を参加者同士で共有して、問題点を解決するために授業設計の考えかたとその手法の習得

<今年度の活動実績>

【若手教員対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
6/11 (土)	10:30～ 15:00	臨地実習指導における教員の役割	石川県立看護大学 教授 石川 倫子  <ファシリテーター> 国立病院機構金沢医療セ ンター金沢看護学校 教員 坂本 泰子 石川県立総合看護専門学 校 教務主任 金田 明子 浅ノ川学園 金沢看護専 門学校 教務主任 山口 恵子	(対面) 石川県立 看護大学 地域ケア 研修室

【看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
8/6 (土)	9:00～ 10:30	COVID-19感染症による 新人教育への影響 —看護基礎教育と新人教育の連携— 【第Ⅰ部】 話題共有	<座長兼進行> 石川県立総合看護専門学校 副学校長 越野 まゆみ 金沢医療センター附属金 沢看護学校 副学校長 西村 民子  <話題提供者> 石川県立総合看護専門学校 教務主任 西田 妙子 石川県立看護大学 准教授 寺井 梨恵子 金沢医科大学病院 看護師長 北川 奈美江 公立松任石川中央病院 看護師長 関沢 かすみ 公立能登総合病院 教育担当師長 仙本 禎恵	Zoomによる オンライン
	10:45～ 12:30	【第Ⅱ部】 グループワーク	<ファシリテーター> 国立病院機構医王病院 副看護部長 燕 真理子 加賀看護専門学校 副学校長 大久保 由美子 石川県立看護大学 助教 瀬戸 清華	Zoomによる オンライン

【看護教員・実習指導者や実習指導に関心がある看護職員対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
8/27 (土)	10:00～ 12:00	臨地実習指導に活かすコーチング 【第Ⅰ部】 1. コーチングの基本的考え方 2. コーチングスキル	NPO法人日本看護 キャリア開発センター 代表 下山 節子  <司会・進行> 石川県立看護大学 教授 濱 耕子	Zoomによる オンライン ・対面(併用) 石川県立 看護大学 中講義室4
	13:00～ 15:00	【第Ⅱ部】 1. シナリオ作成 2. グループワーク 3. ロールプレイ発表	<ファシリテーター> 石川県立看護大学 助教 桶作 梢 助教 河合 美佳	

【看護教員と教育担当者（新人看護職員研修）対象】

開催日	時間	研修テーマ	講師	開催方法
11/5 (土)	10:00～ 10:35	自分の授業から学ぶ もやもやの共有と整理 ワーク	講師： 石川県立大学 教授 小椋 賢治  <司会・進行> 石川県立看護大学 准教授 寺井 梨恵子	(対面) 石川県立 看護大学 研修室
	10:35～ 11:15	授業設計の基本（1）講義		
	11:15～ 12:00	科目を設計しよう ワーク グループで科目のコースを設計		
	13:00～ 13:25	授業設計の基本（2）講義		
	12:25～ 14:35	1回の授業を設計しよう 1. 個人で1回の授業の構成を設計 2. プレゼン		
	14:35～ 15:00	座談会 まとめ		

## 10.5.2 専門的看護実践力研修「看護管理者研修」

<今年度の目標・年度計画>

地域包括ケア時代における看護管理者の役割を果たすうえでの知識を修得し、自らの行動を明確にする。

<今年度の活動実績>

日時	研修内容	講師
令和4年11月18日（金）		
10:30～	オリエンテーション 開講式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター 教員 池田 富三香 石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子
11:10～11:50	石川県の看護の状況	石川県健康福祉部医療対策課 高山 次代
13:00～16:00	地域包括ケア時代における 看護管理とリーダーシップ①	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
11月19日（土）		
9:30～12:00	地域包括ケア時代における 看護管理とリーダーシップ②	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
13:00～16:00	組織における倫理的課題	常磐大学 教授 吉田 千文

日 時	研修内容	講 師
11月26日(土)		
9:00～15:30	データを活用した看護管理 －自部署の看護をデータでみる、 看護の質を保証する－ 組織の課題達成に向けて －組織分析の意義と手法－	滋賀県立総合病院 院長補佐兼看護部長 西村 路子
令和4年12月2日(金)		
9:30～12:00	看護管理上の課題達成にむけた戦略 －交渉術－	金沢医科大学病院 キャリア支援センター 課長 高見 知世子
13:00～15:30	看護管理者としての能力開発	石川県立看護大学 名誉教授 丸岡 直子
15:30～15:45	アンケート / 閉校式	石川県立看護大学附属看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

### 10.5.3 専門的看護実践力研修「分野別実践看護師養成研修:皮膚・排泄ケア研修」

<今年度の目標・年度計画>

皮膚・排泄ケア看護に関する専門的知識、技術を身に付け、看護実践力の向上を図る。

<今年度の活動実績>

日 時	分 野	科目・講師
令和4年11月5日(土)		
9:25～9:55	-	看護の動向について
		石川県健康福祉部 医療対策課 管理・看護グループ係主査 高山 次代
10:00～10:55	Ostomy/ Continenence	泌尿器ストーマと失禁の管理
		金沢医科大学 氷見市民病院 泌尿器科 教授 森山 学
11:00～11:55	Wound	創傷治癒とDESIGN-R2020
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
13:00～13:55	Wound	ストーマケアの基礎
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
14:00～14:55	Ostomy	瘻孔管理
		小川医院 院長 小川 滋彦
15:00～15:55	Wound	褥瘡の外科的・物理的療法
		金沢医科大学 名誉教授 南ヶ丘病院 院長 川上 重彦

日 時	分 野	科目・講師
令和4年11月6日(日)		
9:00～9:55	Ostomy	消化器ストーマと術後管理
		金沢医科大学 一般・消化器外科学 准教授 藤田 秀人
10:00～10:55	Wound	褥瘡のリスクアセスメント
		福井医療大学 保健医療学部 看護学科 教授 北川 敦子
11:00～11:55	Wound	体圧管理
		久藤総合病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 ゆかり
13:00～13:55	Wound/ Ostomy	がん薬物療法時のスキンケア
		公立小松大学 保健医療学部 看護学科 教授 松井 優子
14:00～14:55	Wound	スキンケアとドレッシング材の選択
		JCHO 金沢病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山下 美樹
15:00～15:55	Wound	スキン-ケア
		石川県立看護大学 教授 紺家 千津子
令和4年11月23日(水・祝)		
9:00～9:55	Wound	下肢の潰瘍のケア
		公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
10:00～10:55	Wound	糖尿病のフットケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大江 真琴
11:00～11:55	Ostomy	ストーマ周囲皮膚障害のスキンケア
		金沢大学附属病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 山田 清美
13:00～13:55	Wound	MDRPU(医療関連機器圧迫創傷)
		金沢医療センター 皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理
14:00～14:55	Wound	褥瘡のリハビリテーション
		一般社団法人オーディナリーライフ 理学療法士 神野 俊介
15:00～15:55	Continenence	IAD(失禁関連皮膚炎)とスキンケア
		金沢大学 医薬保健研究域保健学系 教授 大桑 麻由美

日 時	分 野	科目・講師
令和4年11月27日(日)		
9:00～9:55	Continence	失禁対策
		公立松任石川中央病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 遠藤 瑞穂
10:00～10:30	Wound	褥瘡の再発予防
		石川県立看護大学 助教 大橋 史弥
10:40～11:55	Wound	褥瘡のケア計画 1
		皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、村田 幾美、 山下 美樹、山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子
13:00～14:10	Wound	褥瘡のケア計画 2
		皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、村田 幾美、 山下 美樹、山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子
14:15～15:00	Wound/ Ostomy/ Continence	ケア相談
		皮膚・排泄ケア認定看護師 尾西 恵理、遠藤 瑞穂、古川 きよみ、村田 幾美、 山下 美樹、山田 清美、山田 ゆかり、紺家 千津子

## 10.5.4 看護実践力向上研修「感染管理」

<今年度の目標・年度計画>

感染管理について専門的看護実践能力を身につけ、感染防止対策の中心的な役割を担うことができる看護師を育成する。

<今年度の活動実績>

令和4年度 感染管理看護実践力向上研修				
開催日	時間	テーマ	内容	担当(敬称略)
第1日 6月2日(木) 8月18日(木) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～	オリエンテーション	受講方法 オリエンテーション	看護キャリア支援センター 教員
	9:50 ～		Zoomの活用方法	池田 富三香
	9:50 ～	開講式	開講式のあいさつ	看護キャリア支援センター センター長
	10:00 ～			紺家 千津子
	10:00 ～	看護の動向と看護政策	看護の動向と我が国の 看護政策について	石川県健康福祉部 医療対策課
	10:30 ～			室屋 みゆき 高山 次代
10:30 ～	感染管理に活かす感 染症学の知識	感染症のメカニズム 市中感染と医療関連感 染 感染症診断の基本的プ ロセス・抗菌薬の使用 と選択基準	金沢医科大学病院 ICD	飯沼 由嗣
12:00 ～				
13:00 ～	病院感染管理におけ る ICT の役割と機能	① ICD の立場から ②薬剤師の立場から ③細菌検査技師の立場 から ④感染管理認定看護師 及びリンクナースの立 場から	金沢医科大学病院 感染対策チーム 医師 飯沼 由嗣 薬剤師 多賀 允俊 細菌検査師 河村 佳江 感染管理認定看護師 野田 洋子	
15:40 ～	感染管理における施 設の役割	我が国における感染管理 病院感染管理組織とシ ステム 感染管理推進のための 方策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員	大井 希美佳
16:30 ～				

開催日	時間	テーマ	内容	担当 (敬称略)
第2日 6月3日(金) 8月19日(金) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～	感染防止技術の基本	標準予防策と経路別予 防策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 松澤 麻里
	9:45 講義 9:55 ～ 10:55 講義	感染管理に活かす微 生物学の知識	微生物の基礎的知識 感染管理上重要な病原 微生物の種類と特徴 微生物検査	石川県立こころの病院 ICMT 新川 晶子
	11:05 ～ 12:05	職業感染防止対策	針刺し、切創、血流体 液曝露対策 流行性感染症対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子
	13:00 ～ 14:30	感染防止対策実際	看護ケアにおける感染 防止 洗浄消毒滅菌と環境管 理	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 大井 希美佳
	14:40 ～ 16:00 演習・GW	自施設の感染管理組 織とシステム(グ ループワーク)	①自施設の感染管理組 織とシステムを把握し、 他施設の状況も知る。 ②自施設の問題点を抽 出できる	演習支援メンバー： 大井 希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 池田 富三香
第3日 6月10日(金) 8月26日(金) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 10:00	医療器具・処置関連 感染防止対策①	尿路感染防止対策 血流感染防止対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 北川 洋子
	10:00 ～ 10:30	医療器具・処置関連 感染防止対策②	医療関連肺炎防止対策	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 松澤 麻里
	10:40 ～ 11:30	医療器具・処置関連 感染防止対策③	手術部位感染防止対策	金沢医科大学病院 感染管理認定看護師 日向 千恵子
	12:30 ～ 13:50 講義	病院感染防止対策	アウトブレイク対策に ついて	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師 教育課程専任教員 松澤 麻里
	14:00 ～ 16:30 演習・GW	病院感染防止対策演 習	病院感染事例の対策に ついて 演習問題をグループ ワーク	演習支援メンバー： 大井 希美佳 松澤 麻里 北川 洋子

開催日	時間	テーマ	内容	担当（敬称略）
第4日 6月11日(土) 8月27日(土) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 10:00	医療関連感染サーベイランス概論	サーベイランスとは サーベイランス種類と 方法 感染率・使用比の算出 とベンチマーク・データ活用	浅ノ川総合病院 感染管理認定看護師 江波 麻貴
	10:00 ～ 12:00 GW	自施設の感染管理 改善計画作成①	自施設の感染管理上の 問題点を明確化し改善 計画を立案する	演習支援メンバー： 大井 希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 江波 麻貴
	13:00 ～ 16:00 GW	自施設の感染管理 改善計画作成②	グループで一つの改善 課題を選定し計画を立案する	池田 恵子 鍛冶 佳美 嶋田 由美子
	16:00 ～ 16:20	閉講式	閉講のあいさつ 修了証書授与	看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

### 10.5.5 保健所感染症対応向上研修

<今年度の目標・年度計画>

新型コロナウイルス感染症等の集団発生事例が発生した場合に、保健所職員が、適切な感染防護具の使用やゾーニング、消毒の方法について、医療機関や施設等の個々の状況下に合わせた指導ができるよう、感染症に関する基本的知識及び具体的対策を学び、保健所における感染症対応力の向上を図ることができる。

<今年度の活動実績>

開催日	時間/方法	テーマ	内容	担当（敬称略）
第1回 5月24日(火) 「Zoom」による オンライン 研修	9:00 ～ 9:10	オリエンテーション	・オリエンテーション ・Zoomの活用方法	看護キャリア支援センター 主任教員 池田 富三香
	9:10 ～ 9:15	開講式	・開講式あいさつ	看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子
	9:15 ～ 10:00	クラスター発生時の 調査・ 介入に関する疫学、 考え方	・医療関連感染で特に 問題となる感染症 ・感染症発生時に必要な 情報収集 ・クラスター発生時の 対応、優先順位	金沢医科大学病院 ICD 飯沼 由嗣

第1回 5月24日(火) 「Zoom」による オンライン 研修	10:00 ～ 10:40	感染予防対策の基本 1) 標準予防策	・感染対策の基本 ・手指衛生の重要性	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育 課程 専任教員 北川 洋子
	10:50 ～ 11:30	感染予防対策の基本 2) 感染経路別予防 策	・疾患別の感染予防対 策 ・新型コロナウイルスの 対応	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育 課程 専任教員 松澤 麻里
	11:30 ～ 12:10	感染予防対策の基本 3) 器材の取り扱い と 環境管理	・洗浄・消毒・滅菌 ・環境整備の重要性	看護キャリア支援センター 感染管理認定看護師教育 課程 専任教員 大井 希美佳
	13:10 ～ 16:10	事例検討 (グループワーク)	・クラスター発生時の 情報収集と対応	看護キャリア支援センター 大井 希美佳 松澤 麻里 北川 洋子
	16:10 ～ 16:30	実地研修について	・実地研修のすすめ方 ・実習計画書の作成	看護キャリア支援センター 主任教員 池田 富三香
第2回 実地研修 7月15日 9月2日 9月20日 11月8日 11月21日	1施設 ／日	高齢者施設、障害者 施設等に出向き、実 際の現場での感染対 策を学ぶ	・1グループ2名で、施 設等を訪問 ・研修目的 (医療機関や施設等の 個々の状況に応じた感染 拡大防止の実際を学ぶ)	演習支援メンバー： 看護キャリア支援センター 大井 希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 浅ノ川総合病院 江波 麻貴 公立つるぎ病院 嶋田 由美子
	実習の 振り返り 演習	高齢者施設、障害者 施設等に出向き、実 際の現場での感染対 策を学ぶ	・手洗い手指消毒の実 際 ・マスク、アイシール ド、エプロン、ガウン、 手袋の着脱の実際	
第3回 実地研修 終了後 開催日 12月21日	9:00 ～ 10:50	実地研修のまとめ (グループワーク)	・実地研修での学びか ら1施設選び事例報告 書を作成 (学んだ事、気づいた こと等)	演習支援メンバー： 看護キャリア支援センター 大井 希美佳 松澤 麻里 北川 洋子 浅ノ川総合病院 江波 麻貴 公立つるぎ病院 嶋田 由美子
	11:00 ～ 11:55	情報共有 各グループ6分以内 で発表	・各グループで、実地 研修から共有したい情 報の事例を選び発表す る	
	11:55 ～ 12:00	閉講式	・閉講式あいさつ	看護キャリア支援センター センター長 紺家 千津子

## 10.6 地域貢献

<今年度の目標・年度計画>

地域の機関からの依頼による地域貢献の役割を果たす。

<今年度の活動実績>

氏名	テーマ	主催者名	場所・機関	年月（西暦）
大井 希美佳	令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 個人防護具着脱演習	社会福祉法人 石川県社会福祉協議会	福祉総合研修センター	2022. 6. 4
大井 希美佳	令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 個人防護具着脱演習	社会福祉法人 石川県社会福祉協議会	石川県地場産業振興センター 第5会議室	2022. 6. 12
松澤 麻里	石川県立看護大学1年次前期 感染管理学講義：9. 医療器具・処置関連感染防止策 10. 職業感染管理	石川県立看護大学	石川県立看護大学	2022. 5. 23
松澤 麻里	石川県立看護大学1年次前期 感染管理学講義：11. 感染管理に関するチーム医療、地域連携	石川県立看護大学	石川県立看護大学	2022. 5. 30
松澤 麻里	令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 個人防護具着脱演習	社会福祉法人 石川県社会福祉協議会	石川県地場産業振興センター 第5会議室	2022. 6. 12
松澤 麻里	令和4年度介護職員等における喀痰吸引等の実施のための研修 講義・個人防護具着脱演習	社会福祉法人 石川県社会福祉協議会	石川県青少年総合研修センター	2022. 9. 25
北川 洋子	講義：高齢者施設・在宅での感染防止対策	富山県院内 感染対策協議会	富山県医師会館	2022. 12. 10
池田 富三香	講義：認定看護管理者教育課程 ファーストレベル 人材育成の基礎知識	石川県看護協会	石川県看護協会	2022. 11. 14 11. 15

## 11. 大学施設の開放

---

実施年月日	内 容	参加 人数(人)
	新型コロナウイルスの影響により 施設開放を停止しているため、該当なし	

## 編集後記

令和4年度の石川県立看護大学年報が発刊の運びとなりました。今回は第23巻となります。

本学では令和4年度4月に真田弘美新学長をお迎えし、新体制がスタートしました。真田学長のリーダーシップのもと、大学の更なる発展のため教職員が一丸となり、教育、研究、地域貢献、大学運営に取り組んでおります。年報にはこれらの実績が記されています。

最近になって、令和4年度に巣立った学生が社会人一年目で活躍している様子を見聞きする機会がありました。「青春って、すごく密なので」\*に言い表される長引くコロナ禍で大学生活を送った彼女らは、様々な困難を乗り越え、卒業後、希望をもって立派に成長し、周囲の方に認められる存在となっていました。大学はどんな状況にあっても、その使命を果たすべく前向きに取り組むことが明るい未来へ繋がっていることを感じる出来事でした。

今回より、教員業績のページは領域・講座ごとの構成となりました。それぞれの特色や強みがこれまでより分かりやすくなったことと思います。学内外の方々にとって、教員の多方面の活躍を知る機会となり、コミュニケーションの一翼を担うこととなれば幸いです。

最後になりましたが、原稿作成にご尽力いただきました教職員の皆様に感謝申し上げます。また校正作業の効率化を図り、実質的な編集作業を一手に担った外主任主事および部会員の中嶋委員、額委員の労を労いたいと思います。皆様のご協力に心より感謝申し上げます。

\* 2022年のユーキャン新語・流行語大賞で選考委員特別賞に選ばれた言葉（仙台育英学園高等学校野球部須江監督）<https://www.jiyu.co.jp/singo/index.php?eid=00039>

自己点検評価委員会 年報編集部会長 金子紀子

令和4年度 石川県立看護大学年報 第23巻  
令和5年12月 発行

編集：石川県立看護大学 自己点検・評価委員会  
年報編集部会

発行：石川県公立大学法人 石川県立看護大学  
〒929-1210 石川県かほく市学園台1丁目1番地  
tel.076-281-8300 (代) fax.076-281-8319

「著作権は石川県公立大学法人に帰属する。」

(この冊子は、印刷用の紙へリサイクルできます。)

